

第2章 学習指導要領について

1 家庭科改訂の趣旨について

(1) 目標

学習指導要領には、家庭科、技術・家庭科（家庭分野）の目標が次のように示されています。

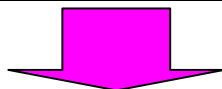
小学校	衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けるとともに、家庭生活を大切にする心情をはぐくみ、家族の一員として生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てる。
中学校	衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、家庭の機能について理解を深め、これからの生活を展望して、課題をもって生活をよりよくしようとする能力と態度を育てる。
高等学校	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会とのかかわりについて理解させるとともに、生活に必要な知識と技術を習得させ、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する能力と実践的な態度を育てる。

これらの根底には、中央教育審議会答申（平成20年1月17日）の示した家庭科、技術・家庭科の改善の基本方針があります。そこには、次のように述べられています。

(2) 家庭科、技術・家庭科の課題と改善の基本方針

◆ 家庭科、技術・家庭科の課題 ◆

- A 自己と家庭，家庭と社会とのつながりに目を向け，生涯の見通しをもって，よりよい生活を追求できる実践力の育成
- B 家庭の在り方や家族の人間関係，子育てについて学習し，生活における自立とともに，他の人と連携し共に生きるための知識と技術の習得
- C 食育や消費者教育の推進
- D 持続可能な社会の構築の観点から，資源や環境に配慮したライフスタイルの確立とともに，エネルギー資源や森林資源の有効利用など，社会で活用される様々な技術を評価・管理できる力の育成を目指した教育の充実
- E 日本のものづくりを支える能力や技術を安全に活用できる力の育成



◆ 改善の基本方針 ◆

- A 子どもたちの発達の段階を踏まえ、学校段階に応じた体系的な目標や内容に改善
- B 家族と家庭に関する教育と子育て理解のための体験や高齢者との交流を重視
- C 食事の役割や栄養・調理に関する内容を一層充実するとともに、消費の在り方及び資源や環境に配慮したライフスタイルの確立を目指す指導を充実
- D 技術と社会・環境とのかかわり、エネルギー、生物に関する内容の改善・充実
また、情報通信ネットワークや製品の安全性に関するトラブルの増加に対応し、安全かつ適切に技術を活用する能力の育成を目指す指導を充実
- E ものづくりを支える能力などを一層高めるとともに、よりよい社会を築くために、目標を改善

※ 幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について（答申）

平成 20 年 1 月 17 日 中央教育審議会

(3) 改訂のポイント

改訂の趣旨

- 自己と家庭，家庭と社会とのつながりを重視し，生涯の見通しをもって，よりよい生活を送るための能力と実践的な態度を育成する視点から，子どもたちの発達の段階を踏まえ，学校段階に応じた体系的な目標や内容に改善を図る。
- 少子高齢化や家庭の機能が十分に果たされていないといった状況に対応し，家族と家庭に関する教育と子育て理解のための体験や高齢者との交流を重視する。
- 食育の推進を図るため，食事の役割や栄養・調理に関する内容を一層充実する。
- 社会において主体的に生きる消費者をはぐくむ視点から，消費の在り方及び資源や環境に配慮したライフスタイルの確立を目指す指導を充実する。
- 実践的・体験的な学習活動，問題解決的な学習をより一層重視する。

2 教科の目標と内容構成（小学校）

(1) 目標について

【教科の目標】

〈 旧 〉

衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して，家庭生活への関心を高めるとともに，日常生活に必要な基礎的な知識と技能を身に付け，家族の一員として生活を工夫しようとする実践的な態度を育てる。



〈 新 〉

衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して，日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けるとともに，家庭生活を大切にする心情をはぐくみ，家族の一員として生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てる。

[学習指導要領解説 P 8]

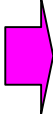


○主な変更点…（基本的な考え方としては変わらない。）

- 「基礎的・基本的な」 → 学習指導要領全体の表記と統一
- 「家庭生活を大切にしている心情」 → 時代社会の変化からの要請
- 「よりよくしようとする」 → より実践的に

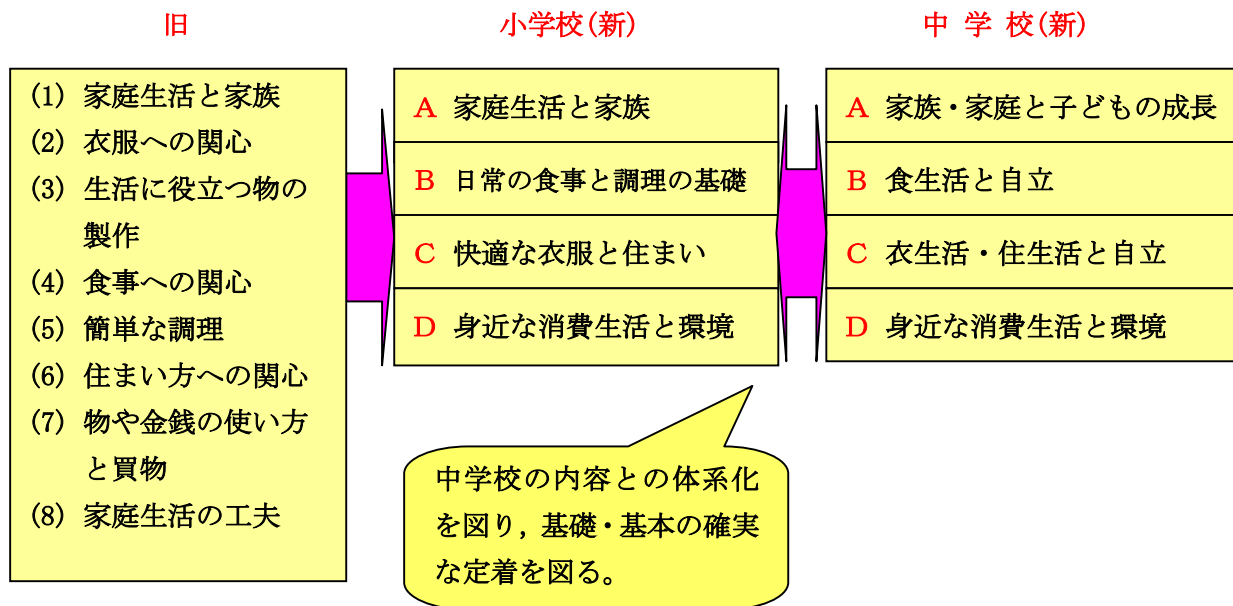
【学年の目標】… 教科の目標に沿って、家庭科で育成することを目指す資質や能力を具体的に示している。

学校や児童の実態に応じた指導ができるようにするため、2学年まとめた示し方としている。

<5年・6年>

<p style="text-align: center;">〈 旧 〉</p> <p>(1) 衣食住や家族の生活などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、<u>家庭生活を支えているものが分かり</u>、家庭生活の大切さに気付くようにする。</p>		<p style="text-align: center;">〈 新 〉</p> <p>(1) 衣食住や家族の生活などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、自分の成長を自覚するとともに、<u>家庭生活への関心を高め</u>、その大切さに気付くようにする。 [学習指導要領解説 P11~12]</p>
<p style="text-align: center;">〈 旧 〉</p> <p>(2) 製作や調理など日常生活に必要な基礎的な技能を身に付け、自分の身の回りの生活に活用できるようにする。</p>		<p style="text-align: center;">〈 新 〉</p> <p>(2) 日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、<u>身近な</u>生活に活用できるようにする。 [学習指導要領解説 P12]</p>
<p style="text-align: center;">〈 旧 〉</p> <p>(3) 自分と家族などのかかわりを考えて実践する喜びを味わい、家庭生活をよりよくしようとする態度を育てる。</p>		<p style="text-align: center;">〈 新 〉</p> <p>(3) 自分と家族などのかかわりを考えて実践する喜びを味わい、家庭生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てる。 [学習指導要領解説 P13]</p>

(2) 内容構成について



(3) 内容について ※ 下線部分 は、特に注意したいポイントとなるところ

A 家庭生活と家族 [学習指導要領解説 P17]

(1) 自分の成長と家族
ア 成長の自覚、家庭生活と家族の大切さ

(2) 家庭生活と仕事
 ア 家庭の仕事と分担
 イ 生活時間の工夫

(3) 家族や近隣の人々とのかかわり
 ア 家族との触れ合いや団らん
 イ 近隣の人々とのかかわり

ガイダンスと学習全体を貫く視点の設定

A 「家庭生活と家族」(1) アの取扱い

- 家庭科分野の学習全体のガイダンスとしての扱い
 第4学年までの学習を踏まえ2学年間の学習の見通しを立てさせる。
- AからDの内容と関連を図り、学習を進める扱い
 A「家庭生活と家族」からD「身近な消費生活と環境」までの学習と関連させて取り扱うようにする。

※ **実施時期**

- ガイダンスとしては、家庭科分野の導入として、第5学年の最初に扱う。
- AからDの内容との関連を図り、学習する場合には、学期や学年の区切りなどの適切な時期に、成長した自分が実感できるように他の内容と関連させた題材を配列し、効果的な学習ができるようにする。

B 日常の食事と調理の基礎

[学習指導要領解説 P25]

(1) 食事の役割

- ア 食事の役割と日常の食事の大切さ
- イ 楽しく食事をするための工夫

食育推進の観点から新たに加えた。

(2) 栄養を考えた食事

- ア 身体に必要な栄養素の種類と働き
- イ 食品の栄養的な特徴と組合せ
- ウ 1食分の献立

五大栄養素と食品の体内での主な働きを中心に扱う。

(3) 調理の基礎

- ア 調理への関心と調理計画
- イ 材料の洗い方, 切り方, 味の付け方, 盛り付け, 配膳及び後片付け
- ウ ゆでたり, いためたりする調理
- エ 米飯及びみそ汁の調理
- オ 用具や食器の安全で衛生的な取扱い, こんろの安全な取扱い

米飯やみそ汁が我が国の伝統的な日常食であることにも触れる。

C 快適な衣服と住まい

[学習指導要領解説 P37]

(1) 衣服の着用と手入れ

- ア 衣服の働きと快適な着方の工夫
- イ 日常着の手入れとボタン付け及び洗濯

「暑さ・寒さ, 通風, 換気及び採光」は, すべての児童に学習させる。

(2) 快適な住まい方

- ア 住まい方への関心, 整理・整頓及び清掃の仕方と工夫
- イ 季節の変化に合わせた生活の大切さ, 快適な住まい方の工夫

(3) 生活に役立つ物の製作

- ア 形などの工夫と製作計画
- イ 手縫いやミシン縫いによる製作・活用
- ウ 用具の安全な取扱い

製作した物を生活の中で, 効果的に活用し, 布製品を評価する力を高める。

D 身近な消費生活と環境

[学習指導要領解説 P49]

(1) 物や金銭の使い方と買物

- ア 物や金銭の大切さ, 計画的な使い方
- イ 身近な物の選び方, 買い方

内容A(3), B, Cに関連して実践的な学習が展開できるようにする。

(2) 環境に配慮した生活の工夫

- ア 身近な環境とのかかわり, 物の使い方の工夫

内容B, Cとの関連を図り, 調理の材料や製作で使用する布などの具体的な物を対象として, 実践的な学習が展開できるようにする。

3 教科の目標と内容構成 (中学校)

(1) 目標について

【教科の目標】

〈旧〉
 実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な衣食住に関する基礎的な知識と技術を習得するとともに、家庭の機能について理解を深め、課題をもって生活をよりよくしようとする能力と態度を育てる。

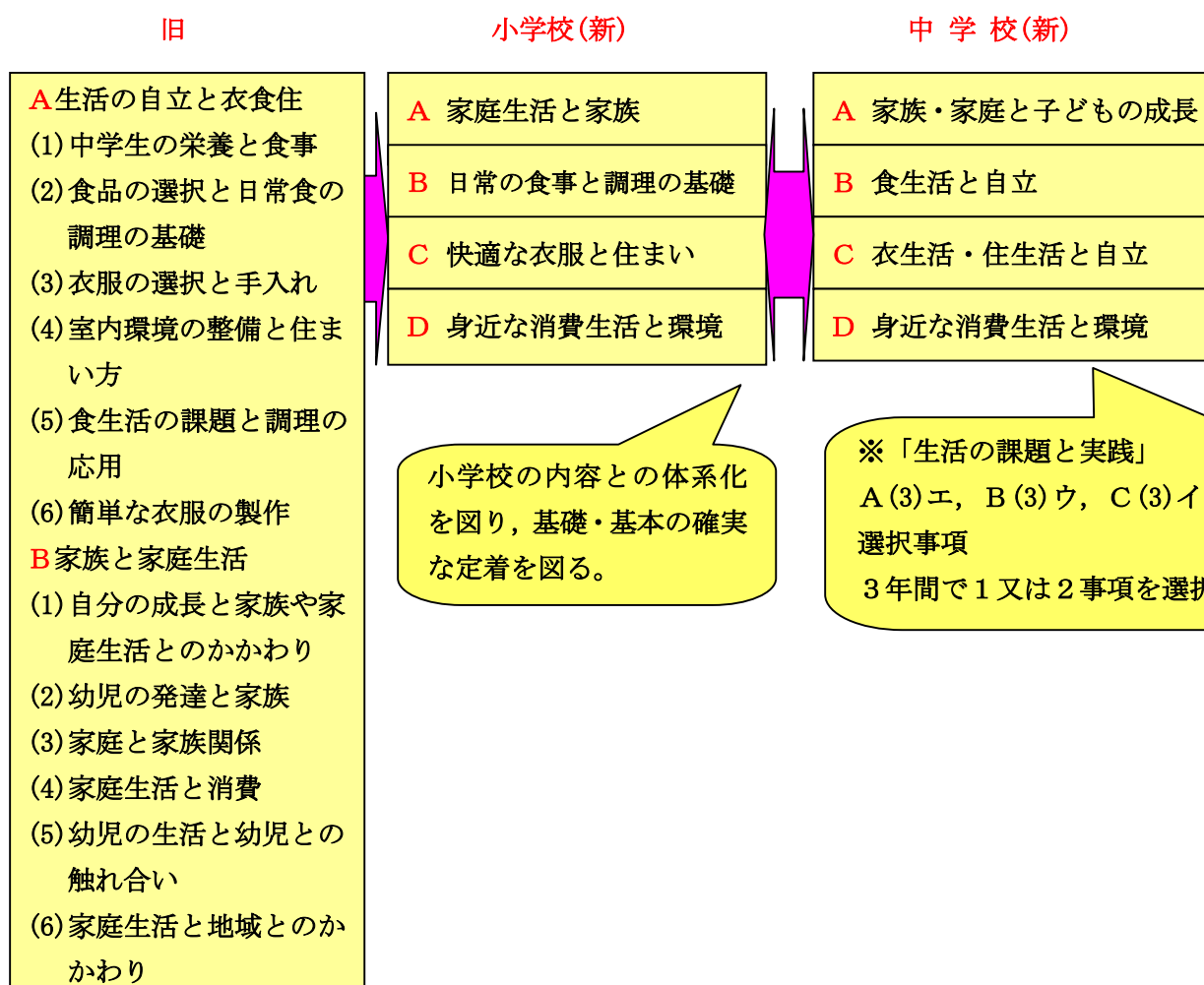


〈新〉
 衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、家庭の機能について理解を深め、これからの生活を展望して、課題をもって生活をよりよくしようとする能力と態度を育てる。
 [学習指導用要領解説 P38]

○主な変更点… (基本的な考え方は変わらない。)

- 「基礎的・基本的な」 → 学習指導要領全体の表記と統一
- 「家庭の機能について理解を深め」 → 時代社会の変化からの要請
- 「よりよくしようとする」 → より実践的に

(2) 内容構成について



(3) 内容について ※ 下線部分 は、特に注意したいポイントとなる

※ は、選択事項（1又は2事項）

A 家庭・家庭と子どもの成長 [学習指導要領解説 P42]

(1) 自分の成長と家族

ア 成長の成長と家族や家庭生活とのかかわり

ガイダンスと学習全体を貫く視点の設定

(2) 家庭と家族関係

ア 家庭や家族の基本的な機能，家庭生活と地域とのかかわり

イ これからの自分と家族，家族関係をよりよくする方法

(3) 幼児の生活と家族

ア 幼児の発達と生活の特徴，家族の役割

イ 幼児の観察や遊び道具の製作，幼児の遊びの意義

ウ 幼児との触れ合い，かかわり方の工夫

エ 家族又は幼児の生活についての課題と実践

A 「家庭生活と家族」(1) アの取扱い

○ 家庭分野の学習全体のガイダンスとしての扱い

小学校までの学習を踏まえ3学年間の学習の見通しを立てさせる。

○ A(2)又は(3)との関連を図り学習を進める扱い

A(2)又は(3)の導入として，自分の成長を振り返ることによって，中学生の時期にある自分と家族や家庭生活とのかかわりについて考え，自分の成長や生活は，家族やそれにかかわる人々に支えられてきたことに気付くようにする。

※ **実施時期**

○ ガイダンスとして，家庭分野の学習の導入として，第1学年の最初に扱う。

○ A(2)や(3)との関連を図り学習する場合には，A(2)又は(3)の導入として扱う。

B 食生活と自立 [学習指導要領解説 P49]

(1) 中学生の食生活と栄養

ア 食事が果たす役割，健康によい食習慣

イ 栄養素の種類と働き，中学生の栄養の特徴

(2) 日常食の献立と食品の選び方

ア 食品の栄養的特質，中学生の1日に必要な食品の種類と概量

イ 中学生の1日分の献立

ウ 食品の選択

(3) 日常食の調理と地域の食文化

ア 基礎的な日常食の調理，食品や調理用具等の適切な管理

イ 地域の食材を生かした調理，地域の食文化

ウ 食生活についての課題と実践

C 衣生活・住生活と自立 [学習指導要領解説 P58]

- (1) 衣服の選択と手入れ
 - ア 衣服と社会生活とのかかわり，目的に応じた着用や個性を生かす着用の工夫
 - イ 衣服の計画的な活用や選択
 - ウ 衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れ
- (2) 住居の機能と住まい方
 - ア 住居の基本的な機能
 - イ 安全な室内環境の整え方，快適な住まい方の工夫
- (3) 衣生活，住生活などの生活の工夫
 - ア 布を用いた物の製作，生活を豊かにするための工夫
 - イ 衣生活又は住生活についての課題と実践

D 身近な消費生活と環境 [学習指導要領解説 P66]

- (1) 家庭生活と消費
 - ア 消費者の基本的な権利と責任
 - イ 販売方法の特徴，物資・サービスの選択，購入及び活用
- (2) 家庭生活と環境
 - ア 環境に配慮した消費生活の工夫と実践

内容A，B，Cとの関連を図り，食品の選択や調理，製作などの具体的な場面を取り上げるなど，実践的な学習が展開できるようにする。

4 教科の目標と評価の観点及びその趣旨

【学習指導要領に示された教科の目標】

小学校	衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けるとともに、家庭生活を大切にする心情をはぐくみ、家族の一員として生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てる。
中学校	生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術の習得を通して、生活と技術とのかかわりについて理解を深め、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる。

【評価の観点及びその趣旨】

	家庭生活への 関心・意欲・態度	生活を 創意工夫する能力	生活の技能	家庭生活についての 知識・理解
小学校	衣食住や家族の生活などについて関心をもち、その大切さに気づき、家庭生活をよりよくするために進んで実践しようとする。	家庭生活について見直し、身近な生活の課題を見付け、その解決を目指して生活をよりよくするために考え自分なりに工夫している。	日常生活に必要な衣食住や家族の生活などに関する基礎的・基本的な技能を身に付けている。	日常生活に必要な衣食住や家族の生活などに関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。
	生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を 工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての 知識・理解
中学校	生活や技術について関心をもち、生活を充実向上するために進んで実践しようとする。	生活について見直し、課題を見付け、その解決を目指して自分なりに工夫し創造している。	生活に必要な基礎的・基本的な技術を身に付けている。	生活や技術に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、生活と技術とのかかわりについて理解している。

※ 「指導要録等の改善について(通知)」(平成22年5月11日付 文部科学省)では、各学校において、評価が効果的に行われるようにするために、評価規準の工夫・改善を図る際の参考として、「評価の観点及びその趣旨」「学年別(又は分野別)の評価の観点の趣旨」を示している。

【小学校】

(1) 評価の観点

評価の観点である「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「技能」及び「知識・理解」の4観点について、家庭科、技術・家庭科では、学習指導要領における「目標」、「内容」の趣旨などを考慮し、「家庭生活への関心・意欲・態度」、「生活を創意工夫する能力」、「生活の技能」、及び「家庭生活についての知識・理解」の4観点として設定された。

(2) 内容のまとめ

家庭科においては、学習指導要領の内容の「A 家庭生活と家族」「B 日常の食事と調理

の基礎」「C 快適な衣服と住まい」「D 身近な消費生活と環境」の各指導項目を内容のまとまりとして、これらごとに評価規準が作成されている。

(3) 第5学年及び第6学年の学年の目標

- (1) 衣食住や家族の生活などに関する実践的・体験的な活動を通して、自分の成長を自覚するとともに、家庭生活への関心を高め、その大切さに気付くようにする。
- (2) 日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、身近な生活に活用できるようにする。
- (3) 自分と家族などのかかわりを考えて実践する喜びを味わい、家庭生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てる。

(4) 第5学年及び6学年の評価の観点の趣旨

	家庭生活への 関心・意欲・態度	生活を 創意工夫する能力	生活の技能	家庭生活についての 知識・理解
小学校	自分の成長と衣食住や家族の生活などについて関心をもち、その大切さに気付く、家族の一員として家庭生活をよりよくするために進んで取り組み実践しようとする。	衣食住や家族の生活などについて見直し、課題を見付け、その解決を目指して家庭生活をよりよくするために考えたり自分なりに工夫したりしている。	生活の自立の基礎として日常生活に必要な衣食住や家族の生活などに関する基礎的・基本的な技能を身に付けている。	家庭生活を支えているものや大切さを理解し、日常生活に必要な衣食住や家族の生活などに関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。

【中学校】

(1) 評価の観点

評価の観点である「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「技能」及び「知識・理解」の4観点について、家庭科、技術・家庭科では、学習指導要領における「目標」、「内容」の趣旨などを考慮し、「生活や技術への関心・意欲・態度」、「生活を工夫し創造する能力」、「生活の技能」、及び「生活や技術についての知識・理解」の4観点として設定された。

(2) 内容のまとまり

家庭科においては、学習指導要領の内容の「A 家族・家庭と子どもの成長」「B 食生活と自立」「C 衣生活・住生活と自立」「D 身近な消費生活と環境」の各指導項目を内容のまとまりとして、これらごとに評価規準が作成されている。

(3) 家庭分野の目標

衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、家庭の機能について理解を深め、これからの生活を展望して、課題をもって生活をよりよくしようとする能力と態度を育てる。

(4) 家庭分野の評価の観点の趣旨

	生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を 工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての 知識・理解
中学校	衣食住や家族の生活などについて関心をもち、これからの生活を展望して家庭生活をよりよくするために進んで実践しようとする。	衣食住や家族の生活などについて見直し、課題を見付け、その解決を目指して家庭生活をよりよくするために工夫し創造している。	生活の自立に必要な衣食住や家族の生活などに関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	家庭の基本的な機能について理解し、生活の自立に必要な衣食住や家族の生活などに関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。

新学習指導要領を踏まえた観点の設定

観点別学習状況の評価の在り方①

新学習指導要領を踏まえた観点の設定

- 各教科の内容等に即して思考・判断したことについて、その内容を言語活動を中心とする表現に係る活動と一体的に評価する観点として「思考・判断・表現」を設定
- 従来の「技能・表現」の観点の「表現」との混同を避けるため、「技能」に改める

新しい観点

「関心・意欲・態度」 「思考・判断・表現」 「技能」 「知識・理解」

※ 各教科の評価の観点は上に示した観点を基本としつつ教科の特性に応じて設定

学力の3つの要素との整理

基礎的・基本的な知識・技能

➡ 「技能」 及び 「知識・理解」 で評価

課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等

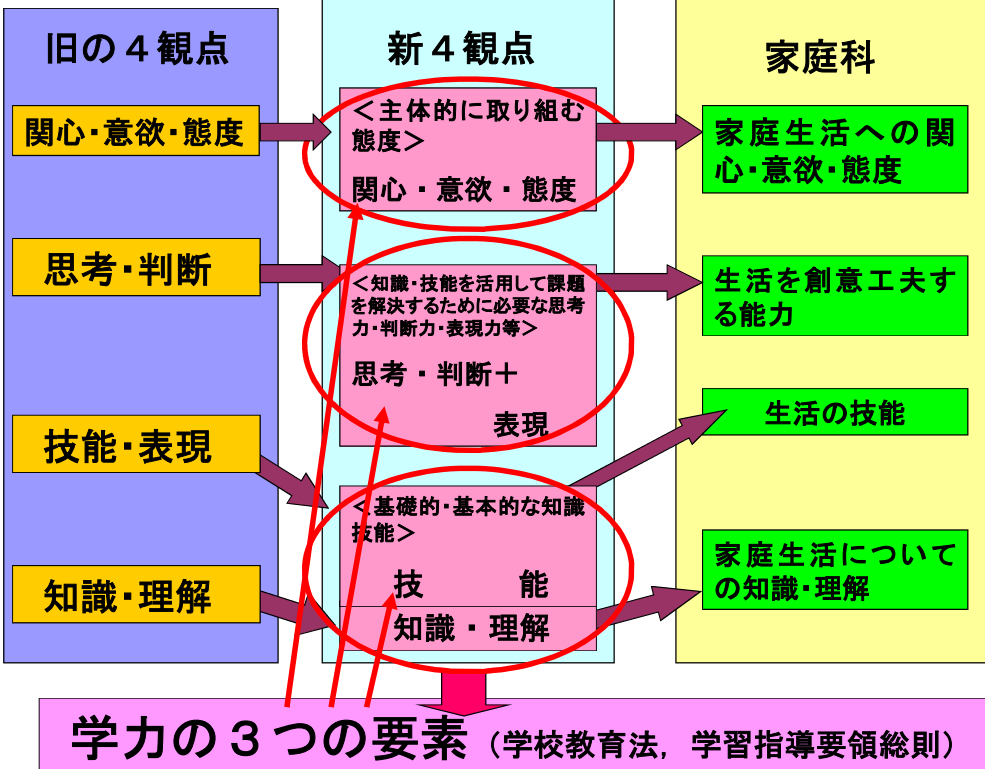
➡ 「思考・判断・表現」 で評価

主体的に学習に取り組む態度

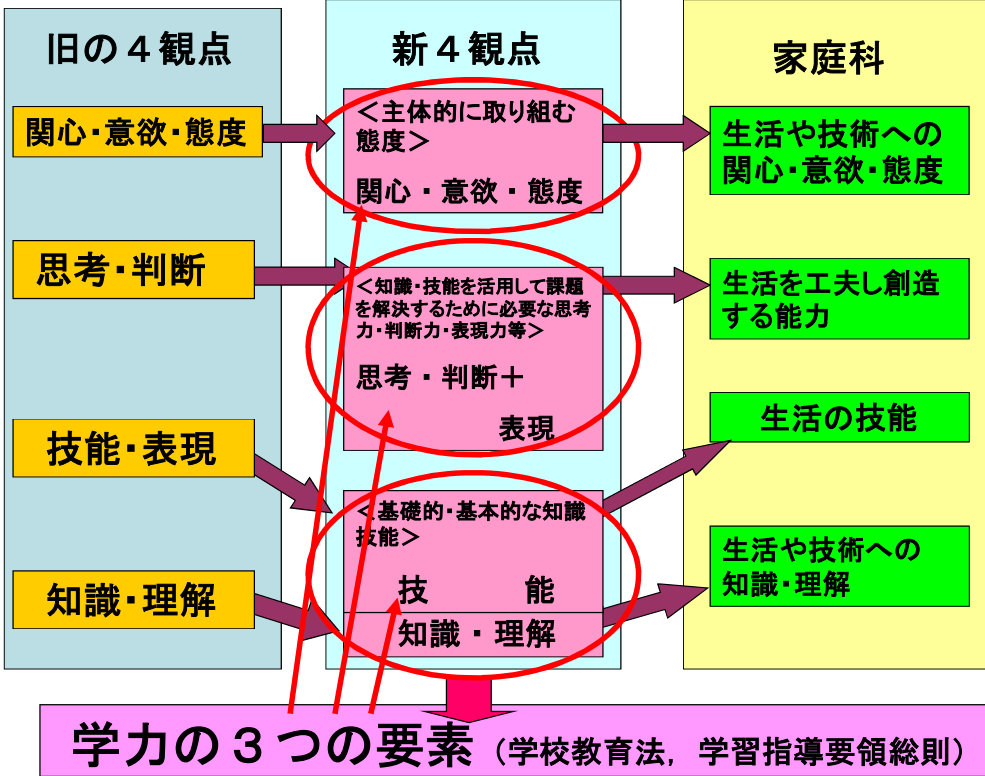
➡ 「関心・意欲・態度」 で評価

学習評価における観点は、「学力の3つの要素」を踏まえ、「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」の4つに整理され、各教科等の特性に応じて観点が示された。

【 小学校 】 新学習指導要領を踏まえた観点の設定



【 中学校 】 新学習指導要領を踏まえた観点の設定



家庭科の評価についてのQ&A

Q 1 家庭科における観点別学習状況の評価の観点は何ですか？

- 家庭生活への関心・意欲・態度
- 生活を創意工夫する能力 ※中学校は、**生活を工夫し創造する能力**
- 生活の技能
- 家庭生活についての知識・技能

Q 2 Q 1の評価の観点には思考力・判断力・表現力という言葉が出てきませんが、家庭科における思考力・判断力・表現力は、どの観点到当たりますか？

共通の観点「思考力・判断力・表現力」は、家庭科において、小学校では、**生活を創意工夫する能力**、中学校では、**生活を工夫し創造する能力**に当たります。学習した知識と技術を活用して、生活を見つめて課題を発見する能力やその解決を目指して自分なりに創意工夫する能力が身に付いたかを見ます。

Q 3 なぜ評価規準を設定する必要があるのですか？

評価規準とは、学習指導のねらいが児童の学習状況として実現されたとはどのような状態かを具体的に示したものです。評価規準を設定することで、児童の学習状況を判断する際の目安が明らかになり、指導と評価を着実に実施することにつながります。

Q 4 各学校で評価規準を作成するに当たって、参考になる資料がありますか？

国立教育政策研究所で作成した「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料」があります。これを参考に各学校の学習活動に合わせ、適切な評価規準を作成すると、効果的・効率的な学習評価を行うことにつながります。

Q 5 「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料」に示されている＜評価規準に盛り込むべき事項＞と＜評価規準の設定例＞は、どのような違いがありますか？

＜評価規準に盛り込むべき事項＞は、学習指導要領の教科の目標、学年の目標及び内容の記述を基に作成されています。

＜評価規準の設定例＞は、＜評価規準に盛り込むべき事項＞をより具体化したものです。

＜評価規準に盛り込むべき事項＞は、主に題材の評価規準を作成するときに、＜評価規準の設定例＞は、学習活動に即した評価規準を設定するときに参考となります。

Q 6 **関心・意欲・態度**は、どのような場面で評価ができますか？

例えば、オリジナル野菜のための調理計画で材料や手順に関心を持ち、意欲的に調べている場面や調理実習で材料の特性や目的に応じて調理している場面など、適切に学習状況を把握できる評価場を設定し、教師による行動観察と調理計画・実習記録表や学習カードの記述内容から評価することが考えられます。

Q 7 **生活を創意工夫する能力**を評価するときに気を付けることはありますか？

結果としての**創意工夫**だけではなく、問題の解決を目指して、いろいろと考え、よりよい方法を得ようと自分なりに工夫する過程を含めて評価することが大切です。例えば、調理計画表や実習記録には、児童が考えた過程を記述できるような欄を設けるなどの工夫が必要です。

Q 8 **技能**の評価は、教師による行動観察の他、どのようなことが考えられますか？

例えば、調理実習の技能の評価では、児童の相互評価の記述内容や写真により、調理操作の過程における児童の実現状況をより詳細に把握し、それを評価に生かすことも考えられます。その際、相互評価については、例えば、グループやペアで切り方見本や写真と照らし合わせることで、技能の上達の状況を評価できるように工夫する必要があります。

Q 9 B(2)ウ「1食分の献立を考えること」は、**技能**の観点で評価しないのですか？

献立を考えることは、献立作成や栄養・食品・調理等に関する知識と技術を活用することによって考えることができるので、**技能**の観点ではなく、**創意工夫**の観点として評価することが適切です。

Q 10 D(1)イ「身近な物の選び方、買い方」で、**技能**はどんなことを評価すればよいのですか？

実際に購入する場面を評価することはできません。したがって、購入しようとする物の品質や価格などの情報を集め、整理することを評価することになります。情報を収集・整理することを**技能**として捉えています。



技術・家庭科（家庭分野）の評価についてのQ&A

Q 1 技術・家庭科（家庭分野）における観点別学習状況の評価の観点は何ですか？

- 生活や技術への関心・意欲・態度
- 生活を工夫し創造する能力 ※小学校は、**生活を創意工夫する能力**
- 生活の技能
- 生活や技術についての知識・技能

Q 2 Q 1の評価の観点には「思考・判断・表現」という言葉が出てきませんが、技術・家庭科（家庭分野）における「思考・判断・表現」は、どの観点に当たりますか？

共通の観点「思考・判断・表現」は、家庭分野においては、**生活を工夫し創造する能力**に当たります。学習した知識と技術を活用して、生活を見つめて課題を発見する能力やその解決を目指して自分なりに工夫したり創造したりする能力が身に付いたかを見ます。

Q 3 なぜ評価規準を設定する必要があるのですか？

評価規準とは、学習指導のねらいが生徒の学習状況として実現されたとはどのような状態かを具体的に示したものです。評価規準を設定することで、生徒の学習状況を判断する際の目安が明らかになり、指導と評価を着実に実施することにつながります。

Q 4 各学校で評価規準を作成するに当たって、参考になる資料がありますか？

国立教育政策研究所で作成した「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料」（平成 23 年 7 月）があります。これを参考に各学校の学習活動に合わせ、適切な評価規準を作成すると、効果的・効率的な学習評価を行うことにつながります。

Q 5 「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料」に示されている〈評価規準に盛り込むべき事項〉と〈評価規準の設定例〉は、どのような違いがありますか？

〈評価規準に盛り込むべき事項〉は、学習指導要領の教科の目標、家庭分野の目標及び内容の記述を基に作成されています。

〈評価規準の設定例〉は、〈評価規準に盛り込むべき事項〉をより具体化したものです。

〈評価規準に盛り込むべき事項〉は、主に題材の評価規準を作成するときに、〈評価規準の設定例〉は、学習活動に即した評価規準を設定するときに参考となります。

Q 6 **関心・意欲・態度**は、どのような場面で評価ができますか？

例えば、調理計画で材料や手順に関心を持ち、意欲的に調べている場面や調理実習で材料の特性や目的に応じて調理している場面など、適切に学習状況を把握できる評価場面を設定し、教師による行動観察と調理計画・実習記録表や学習カードの記述内容から評価することが考えられます。

Q 7 **生活を工夫し創造する能力**を評価するときに気を付けることはありますか？

結果としての**工夫・創造**だけでなく、問題の解決を目指して、いろいろと考え、よりよい方法を得ようと自分なりに工夫する過程を含めて評価することが大切です。例えば、調理計画表や実習レポートには、生徒が考えた過程を記述できるような欄を設けるなどの工夫が必要です。

Q 8 **技能**の評価は、教師による行動観察の他、どのようなことが考えられますか？

例えば、調理実習の**技能**の評価では、生徒の相互評価の記述内容や写真により、調理操作の過程における生徒の実現状況をより詳細に把握し、それを評価に生かすことも考えられます。その際、相互評価については、グループやペアで切り方見本や写真と照らし合わせることで、技能の上達の状況を評価できるように工夫する必要があります。

Q 9 B (2) イ「中学生の1日分の献立を考えることができる」は、**技能**の観点で評価しないのですか？

献立を考えることは、献立作成や栄養・食品・調理等に関する知識と技術を活用することによって考えることができるので、**技能**の観点ではなく、**工夫・創造**の観点として評価することが適切です。

Q 10 A (3) イ「幼児の観察や遊び道具の製作」は、**技能**の観点で評価しないのですか？

幼児の遊び道具の製作は、幼児についての理解を深めることが最終的なねらいであるので、**技能**の観点では評価せず、**関心・意欲・態度**、**工夫・創造**、**知識・理解**の各観点で評価することが適切です。

Q 11 「生活の課題と実践」では、**技能**と**知識・理解**は評価しなくてよいのですか？

生徒たちが学習した知識と技能などを活用し、これからの生活を展望する能力と実践的な態度を育むことの必要性から「生活の課題と実践」を選択して履修させることにしています。したがって、課題へ取り組む姿等を**関心・意欲・態度**で、課題を見付けて計画を立てる場面、実践を報告する場面等を**工夫・創造**の観点で評価します。原則的に学校で行ったことを評価するので、家庭で実践する場合は、**技能**を評価することはできません。

第3章 小学校・中学校における学習

ここからは、学習指導要領の内容を押さえながら、実際に授業案を構想する際に、参考となる授業計画例を示します。ただし、あくまでも例を示すものであり、地域、学校、児童生徒の実態に応じて、適切に題材を設定し、創意工夫を生かした授業計画を作成してください。まず、この授業計画例の見方から示します。

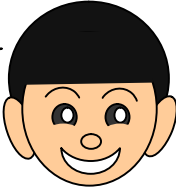
1 授業計画例の見方

A 家庭生活と家族

学習指導要領の内容を示す。

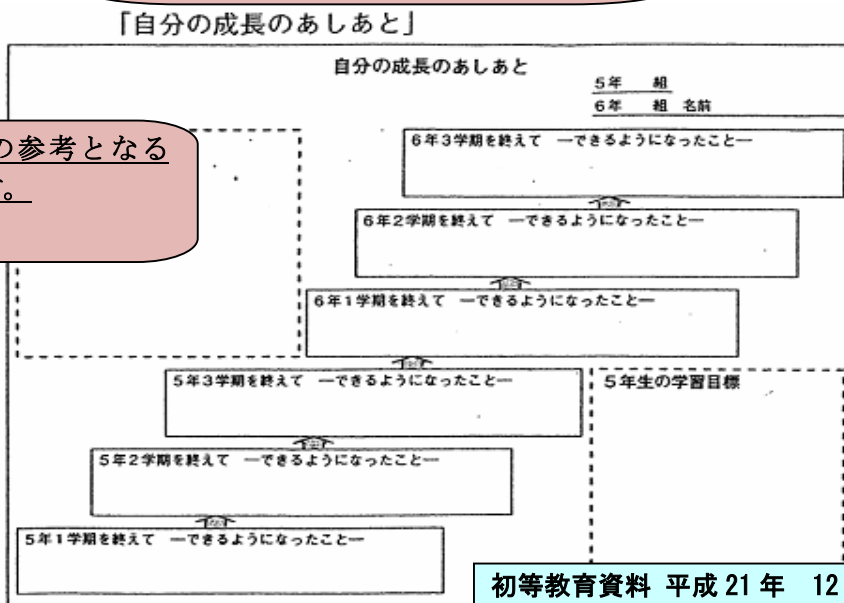
学習指導要領の項目を示す。

項目	A (1) 自分の成長と家族
事項	<p>ア 自分の成長を自覚することを通して、家庭生活と家族の大切さに気付くこと。</p> <p>(指導計画の作成) 「A 家庭生活と家族」から学習の見通しを立て、2学年間の学習の計画を立て、家庭生活と家族について学ぶこと。</p> <p>学習指導要領の事項を示す。 また、ここに、(内容の取扱い)又は(指導計画の作成)を示す。</p>
評価規準の設定例	<p>関心・意欲・態度</p> <p>ア 第4学年までの学習を振り返り、家庭科の学習に関心を持ち、2学年間の見通しをもって取り組もうとしている。 衣食住などの学習活動を通して、自分の成長と家族に関心を持ち、家庭生活と家族の大切さに気付いている。</p>
	<p>創意工夫</p> <p>ここで、育成する資質・能力の観点を示す。 具体的には、国立教育政策研究所より示された『評価規準の作成のための参考資料』より「評価規準の設定例」を示す。</p>
	<p>技能</p>
	<p>知識理解</p>
小⇄中の関連	<p>【中学校】 A (1) ア 自分の成長と家族や家庭生活とのかわり A (2) ア 家庭や家族の基本的な機能 A (2) ア 小学校・中学校の学習内容のかわり ・第6章 家庭生活と家族との関係 さらに、家庭生活をよりよくするための課題を中学校技術・家庭科の学習と結びつけ、とらえられるようにし、中学校への円滑な接続を図れるように配慮する。</p> <p>小学校・中学校の学習内容のかわり 関連を示す。</p>
指導内容	<p>※ガイダンスとして扱う場合</p> <p>2学年間で学習する内容に触れ、第4学年までの他教科の学習との関連や、これからの学習を通して自分ができるようになりたいことや、2年後の自分をイメージすることなども考えられる。</p> <p>いよいよスタート!! わたしたちの家庭科</p> <p>配慮事項を示す。</p> <p>授業の展開例を示す。</p> <p>どんな勉強をするのかな? ワクワク!</p> <p>・「家庭科」って何? どんな勉強するのかな? ・2年間の家庭科学習の見通しを立て、自分の目標をもとう。</p>
活動例	<p>自分の生活を見つめてみよう</p> <p>↓</p> <p>プライバシー(家族構成や成育歴等)に十分配慮する。</p> <p>・これまでの自分の成長や生活を振り返ってみよう。 ・家族や自分の1日の生活を振り返って、気付いたことを話し合</p> <p>配慮事項を示す。</p>

	<p>※内容A～Dと関連させて扱う場合</p> <p>例えば、2学年間を見通して学期や学年の終わりなど学習の区切りの適切な時期に、実践記録などから学習の成果を振り返ることを通して、自分の成長への気付きが段階的に深まるようにすることなどが考えられる。</p>
	<p>自分ができるようになったことを振り返ろう</p> <p>配慮事項を示す。</p>
授業の展開例を示す。	<p>家族のために、どんなことをしようかなあ。 どんなことをしたら喜んでくれるかなあ。</p> 
指導内容 活動例	<ul style="list-style-type: none"> ・自分ができるようになったことを振り返ってみよう。 ・これまでの家庭科の学習を通して、自分ができるようになったことを生かし、お世話になった方へ贈り物をしよう。 ・贈り物を作る計画を立て、作ってプレゼントしよう。
安全指導	<p>安全や事故の防止についての配慮を示す。</p>
家庭・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のこれまでの成長について家族にインタビューする。 ・自分や家族の日常生活について家族にインタビューする。 <p>家庭や地域との連携を示す。 動で、家族からの言葉をワークシート等にも書いてもらう。</p>
言語事項	<p>家庭科 家庭 家族 家庭生活 衣食住</p> <p>家庭科で押さえない言語事項を示す。</p>
発展的な学習	<p>発展的な学習の内容例を示す。 静岡県ならではの…等についても示す。</p>

【参考】

この項目の参考となる資料を示す。

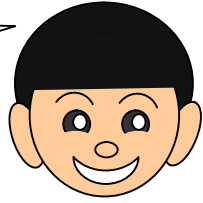


「自分の成長のあしあと」として、成長の記録を残していくワークシート
「A家庭生活と家族」から「D身近な消費生活と環境」の学習を貫く視点として「自分の成長」を位置付け、適切な時期に各内容と関連させて扱うようにしている例

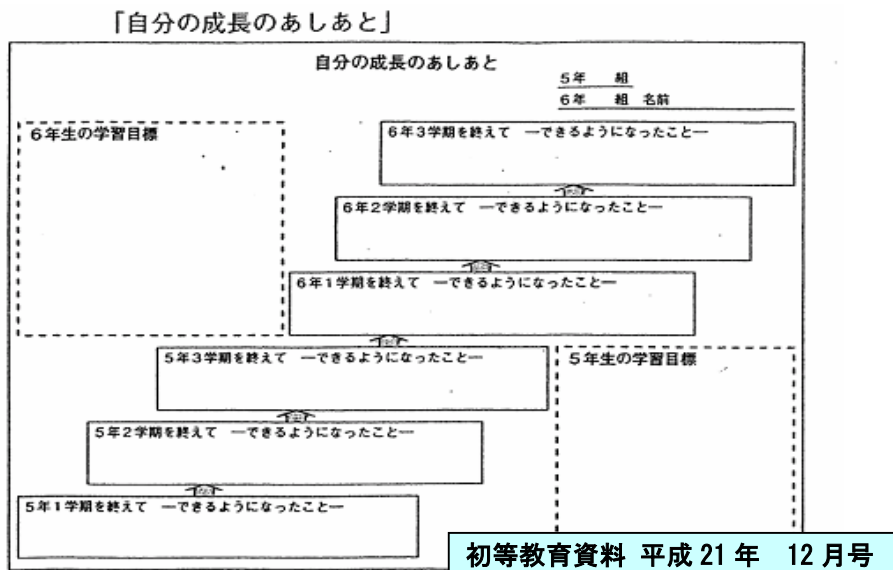
2 授業計画例

A 家庭生活と家族

項目	A(1) 自分の成長と家族	
事項	<p>ア 自分の成長を自覚することを通して、家庭生活と家族の大切さに気付くこと。</p> <p>(指導計画の作成)</p> <p>「A家庭生活と家族」の(1)のアについては、第4学年までの学習を踏まえ2学年間の学習の見通しを立てさせるために、第5学年の最初に履修させるとともに、「A家庭生活と家族」から「D身近な消費生活と環境」までの学習と関連させるようにすること。</p>	
評価規準の設定例	関心意欲態度	<p>ア 第4学年までの学習を振り返り、家庭科の学習に関心をもち、2学年間の見通しをもって学習に取り組もうとしている。</p> <p>衣食住などの学習活動を通して、自分の成長と家族に関心をもち、家庭生活と家族の大切さに気付いている。</p>
	創意工夫	
	技能	
	知識理解	
小⇄中の関連	<p>【中学校】</p> <p>A(1)ア 自分の成長と家族や家庭生活とのかかわり</p> <p>A(2)ア 家庭や家族の基本的な機能</p> <p>A(2)イ これからの自分と家族とのかかわり</p> <p>・第6学年の終わりの学習においては、さらに、家庭生活をよりよくするための課題を中学校技術・家庭科の内容と結び付けてとらえられるようにし、中学校への円滑な接続が図れるように配慮することも考えられる。</p>	
指導内容	<p>※ガイダンスとして扱う場合</p> <p>2学年間で学習する内容に触れ、第4学年までの他教科の学習との関連や、これからの学習を通して自分ができるようになりたいことや、2年後の自分をイメージすることなども考えられる。</p> <p>いよいよスタート!! わたしたちの家庭科</p> <p>どんな勉強するのかな? ワクワク!</p> <p>・「家庭科って何? どんな勉強をするのかな?」 ・2年間の家庭科学習の見通しを立て、自分の目標をもとう。</p> <p>↓</p> <p>自分の生活を見つめてみよう</p> <p>プライバシー(家族構成や成育歴等)に十分配慮する。</p>	
活動例	<p>・これまでの自分の成長や生活を振り返ってみよう。</p> <p>・家族や自分の1日の生活を振り返って、気付いたことを話し合おう。</p>	

<p>指導内容</p> <p>活動例</p>	<p>※内容A～Dと関連させて扱う場合</p> <p>例えば、2学年間を見通して学期や学年の終わりなど学習の区切りの適切な時期に、実践記録などから学習の成果を振り返ることを通して、自分の成長への気付きが段階的に深まるようにすることなどが考えられる。</p> <p>自分ができるようになったことを振り返ろう</p> <p>家族のために、どんなことをしようかなあ。 どんなことをしたら喜んでくれるかなあ。</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・自分ができるようになったことを振り返ってみよう。 ・これまでの家庭科の学習を通して、自分ができるようになったことを生かし、お世話になった方へ贈り物をしよう。 ・贈り物を作る計画を立て、作ってプレゼントしよう。
<p>安全指導</p>	
<p>家庭・地域との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のこれまでの成長について家族にインタビューする。 ・自分や家族の日常生活について家族にインタビューする。 ・できるようになったことを振り返る活動で、家族からの言葉をワークシート等書いてもらう。
<p>言語事項</p>	<p>家庭科 家庭 家族 家庭生活 衣食住</p>
<p>発展的な学習</p>	

【参考】「ガイダンスで使うワークシート例」



「自分の成長のあしあと」として、成長の記録を残していくワークシート
「A 家庭生活と家族」から「D 身近な消費生活と環境」の学習を貫く視点として「自分の成長」を位置付け、適切な時期に各内容と関連させて扱うようにしている例

A 家庭生活と家族

項目	A(2) 家庭生活と仕事	
事項	<p>ア 家庭には自分や家族の生活を支える仕事があることが分かり、自分の分担する仕事ができること。</p> <p>イ 生活時間の有効な使い方を工夫し、家族に協力すること。</p>	
評価規準の設定例	関心意欲態度	<p>ア 自分の分担する家庭の仕事に取り組もうとしている。</p> <p>イ 自分や家族の生活時間を調べたり、見直したりして、家族と共に過ごしたり家族の生活に協力したりしようとしている。</p>
	創意工夫	<p>ア 家庭の仕事を見直し、自分の分担する仕事の計画について考えたり、実践を通して自分なりに工夫したりしている。</p> <p>イ 自分の生活時間の使い方を見直し、有効な使い方を考えたり、自分なりに工夫したりしている。</p>
	技能	
	知識理解	ア 家庭には、衣食住に関する仕事があり、自分や家族の生活を支えていることを理解している。
小⇄中の関連	<p>【中学校】</p> <p>A(2)ア 家庭や家族の基本的な機能、家庭生活と地域とのかかわり</p> <p>A(2)イ これからの自分と家族、家族関係をよりよくする方法</p> <p>A(3)エ 家族又は幼児の生活についての課題と実践</p>	
指導内容 活動例	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p style="text-align: center; background-color: #ADD8E6; display: inline-block; padding: 2px 5px;">やってみよう！わたしの仕事</p></div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭には自分や家族を支える仕事があることを知り、自分が分担する仕事を実践してみよう。 ・家庭の中の仕事調べをしよう。誰が、どんな仕事をしているだろう。 ・自分の仕事を見つけて、実践してみよう!! ・自分ができる仕事を増やそう!! <div style="text-align: center; margin: 10px 0;"> </div> <p>< 例 ></p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 45%;"> <p>B(3)と関連させ、湯を沸かし、お茶を入れてみる。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 45%;"> <p>C(1)と関連させ、体操服をたたんでみる。</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 45%;"> <p>B(3)と関連させ、食事の後、食器を洗ってみる。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 45%;"> <p>C(2)と関連させ、風呂そうじを試してみる。</p> </div> </div> <p style="text-align: right; margin-top: 10px;">などの学習も考えられる。</p> </div>	

<p>指導内容</p> <p>活動例</p>	<p>わが家の 24 時間</p> <p>家族構成や家族の就業状況等，児童を取り巻く環境に十分配慮する。</p> <p>・自分と家族の生活時間の使い方を調べ，どのように家族に協力していけばよいか，生活時間の有効な使い方を考えよう。</p> <p>「B 日常の食事と調理の基礎」，「C 快適な衣服と住まい」，「D 身近な消費生活と環境」の学習と関連を図り，家族の生活とかがわらせながら衣食住の内容を取り扱うことが考えられる。</p> <p>例えば，「B 日常の食事と調理の基礎」，「C 快適な衣服と住まい」の内容との関連を図り，衣食住にかかわる仕事を実践することで，自分ができる仕事を増やしたり，家族に協力しようとする意欲を高めたりすることが考えられる。</p>
<p>安全指導</p>	<p>・こんろ，調理用具の使い方（「B 日常の食事と調理の基礎」と関連させる場合）</p> <p>・針やはさみなどの裁縫用具の使い方（C の (3) 生活に役立つ物の製作と関連させる場合）</p>
<p>家庭・地域との連携</p>	<p>・家庭の仕事にはどんなものがあるか調べてみよう。</p> <p>・家族の生活時間を調べてみよう。</p>
<p>言語事項</p>	<p>家庭の仕事 手伝い 生活時間 団らん</p>
<p>発展的な学習</p>	

【参考】

A (1) 「自分の成長と家族」のアと関連を図った題材構成

—第5学年—

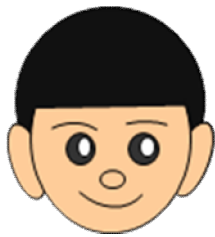
- 家庭の仕事にトライしよう (15時間)
- ・温野菜サラダにトライしよう B (1) アイ (2) ア (3) アイウオ
- ・手縫いにトライしよう C (3) イウ
- ・整理整頓にトライしよう C (2) ア
- ・チャレンジ夏休み(報告会) A (1) ア (1時間)
- できるようになったことを振り返ろう A (1) ア (1時間)

—第6学年—

- 我が家の快適生活 (9時間)
- ・エコ・クール生活にチャレンジ C (2) イ D (2) ア
- ・衣服のリフレッシュ大作戦 C (1) アイ
- ・チャレンジ夏休み(報告会) A (1) ア (1時間)
- 2年間を振り返ろう A (1) ア (1時間)

A (1) のア 成長の自覚，家庭生活と家族の大切さと 関連を図りながら，「家庭の仕事」に取り組む題材構成の例。「家庭の仕事にトライしよう」ということで，サラダづくり(B)，手縫い(C)，整理整頓(C)，エコ・クール生活(D) などに取り組んだ後，できるようになったことを振り返っている。また，適切な時期に「自分の成長」を振り返っている。

A 家庭生活と家族

項目	A (3) 家族や近隣の人々とのかかわり
事項	ア 家族との触れ合いや団らんを楽しくする工夫をすること。 イ 近隣の人々とのかかわりを考え、自分の家庭生活を工夫すること。
評価規準の設定例	<p>関心意欲態度</p> <p>ア 家族との触れ合いや団らんに関心をもち、家族に気持ちを伝えたり触れ合う場をもったりしようとしている。</p> <p>イ 自分の家庭生活と近隣の人々との関わりについて関心をもっている。</p>
	<p>創意工夫</p> <p>ア 家族との触れ合いや団らんを楽しくすることについて考えたり、自分なりに工夫したりしている。</p> <p>イ 近隣の人々との関わりについて見直し、快適に生活するための方法について考えたり、自分なりに工夫したりしている。</p>
	<p>技能</p>
	<p>知識理解</p> <p>ア 家族との触れ合いや団らんの大切さについて理解している。</p> <p>イ 家庭生活が近隣の人々との関わりで成り立っていることや協力し助け合っていく必要があることについて理解している。</p>
小⇄中の関連	<p>【中学校】</p> <p>A (2) ア 家庭や家族の基本的な機能、家庭生活と地域とのかかわり</p>
指導内容 活動例	<p style="text-align: center;">〇〇家の団らんの時間を楽しく工夫しよう！</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">家族や親しい人と、なごやかな時間を過ごすことを「団らん」って言うんだね！</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・我が家の団らんを工夫しよう！ ・家族団らんの時間を楽しくする工夫をして、計画を立て、実行しよう！！ ・家族みんなが喜ぶパーティーの計画を立てよう！！ </div> <p>例えば、「B 日常の食事と調理の基礎」や C (3) 「生活に役立つ物の製作」と関連させ、家族のために食事をつくることや、家族が使える物や家族への贈り物を製作するなどの活動が考えられる。</p> <p style="text-align: center;">自分の生活や地域の生活を見つめてみよう！！</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・調べてみよう ご近所さん！！ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p style="text-align: center;">近隣の人々とのかかわりを考えるが、常に、自分の家庭生活との結び付きを考えながら学習する。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・地域のルールやマナー、行事などを調べ、自分がどのようにかかわったらよいか考えよう。 </div> <p>C (2) 「快適な住まい方」や D (2) 「環境に配慮した生活の工夫」と関連させ、近隣の人々と快適に生活できるように、生活環境に配慮した方法を自分の家庭生活において工夫し実践するなどの活動が考えられる。</p>

安全指導	<ul style="list-style-type: none"> ・ こんろ，調理用具の使い方（「B 日常の食事と調理の基礎」と関連させる場合） ・ 針やはさみなどの裁縫用具の使い方（C (3)「生活に役立つ物の製作」と関連させる場合）
家庭・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭での団らんを計画し，実践して，家族からコメントをもらおう。 ・ 自分の住む地域のルールやマナーを調べてみよう。
言語事項	触れ合い 団らん コミュニケーション 生活環境 近隣
発展的な学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の活動に参加する。 ・ 地域の生活環境調査をする。

【参考】

評価規準作成のための参考資料

【「(3) 家族や近隣の人々とのかかわり」の評価規準の設定例】

家庭生活への関心・意欲・態度	生活を創意工夫する能力	生活の技能	家庭生活についての知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・ 家族との触れ合いや団らんに関心をもち，家族に気持ちを伝えたり触れ合う場をもったりしようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家族との触れ合いや団らんを楽しむことについて考えたり，自分なりに工夫したりしている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 家族との触れ合いや団らんの大切さについて理解している。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の家庭生活と近隣の人々とのかかわりに関心をもっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 近隣の人々とのかかわりについて見直し，快適に生活するための方法について考えたり自分なりに工夫したりしている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭生活が近隣の人々とのかかわりで成り立っていることや協力し助け合っていく必要があることについて理解している。

アとイの区分

事項アに対応

事項イに対応

学習指導要領解説の文言を使っている。

家族との触れ合いや近隣の人々とのかかわりについては，基本的に「家庭や地域での実践を通して」ということになり，評価は，原則「学校の授業」の中で行うものなので，「技能」としては評価しない。

A 家族・家庭と子どもの成長

項目	A(1) 自分の成長と家族	
事項	<p>ア 自分の成長と家族や家庭生活とのかかわりについて考えること。</p> <p>(内容の取扱い)</p> <p>ア (1), (2) 及び(3)については, 相互に関連を図り, 実習や観察, ロールプレイングなどの学習活動を中心とするよう留意すること。</p>	
評価規準の設定例	関心意欲態度	ア 小学校の学習を振り返り, 3 学年間の見通しをもって学習に取り組もうとしている。自分の成長や生活は家族やそれに関わる人々に支えられてきたことに気付いている。
	工夫創造	
	技能	
	知識理解	
小⇄中の関連	<p>【小学校】</p> <p>A(1)ア 成長の自覚, 家庭生活と家族の大切さ</p>	
指導内容 活動例	<p>* ガイダンスとして扱う場合</p> <p>自立と共生を目指して</p> <p>家庭分野の内容を学習することが、一人一人の生活の自立や家族と共に家庭生活を工夫し創造する能力につながることに気付かせ、学習への期待と意欲をもてるようにする。</p> <p>・ 小学校の授業内容についてアンケートを取る。 ・ 3 年間の授業の流れや目的を説明する。 ・ プリントや前年度の生徒作品を使うなどして、分かりやすく説明したい。</p> <p>* A (2) 又は (3) の導入として扱う場合</p> <p>自分の成長を振り返ろう</p> <p>プライバシーに十分配慮する。</p> <p>自分の成長や生活は、家族やそれにかかわる人々に支えられてきたことに気付くようにする。</p> <p>・ 自分の成長のあしあとをまとめる。 ・ DVD など(生命誕生などを扱ったもの)を視聴し感想を書く。 ・ 自分の成長と家族や家庭生活との関わりについて振り返ることができるような物語や詩などを読んだり, DVDなどを視聴したりする。 ・ 自分が成長するときに誰と関わってきたのかをまとめる。 ・ 物語などの家族会話の場面をロールプレイングし、子どもと家族の関わりを考える。</p> <p>物語を活用したり, 自分の成長とそれにかかわってきた人々を図に表したりして, 成長過程を振り返るなどの活動も考えられる。</p>	
安全指導		
家庭・地域との連携	・ 家族や周りの人々に誕生した日のことや幼い頃のことをインタビューする。	
言語事項	家族 自立 家庭生活 幼児期	
発展的な学習		

【 参 考 】「ガイダンスで使う資料例」

「自立」した自分

技術・家庭科（家庭分野）

15 歳
(義務教
育終了)

14 歳

13 歳
(中学生)

衣生活・住生活 「制服…どうやって手入れする?」「20 年後の我が家は?」
★ほころんだところを直すには?
★家族と共に安全で快適に住むには?

消費生活・環境 「どこでどのように買う?」「地球のためにできることは?」
★賢い消費者になろう。
★省エネについて考えてみよう。

食生活 「背を伸ばしたい!」「体力をつけたい!」「健康な体で生きたい!」
★自分の成長と健康のためにどんなものを食べたらいい?
★作ってみよう健康な体のための食事

家族・家庭生活 「人間は生まれたときから人間?!」
★自分はどのように成長してきたのだろう。
★幼児ってどんな人?
★家族との関係を考えてみよう。

この部分を空欄にして、学んだことを記入し、学びのあしあとを残すワークシートにしてもよい。

小学校家庭科（12 歳まで）


家族・家庭生活	食生活	衣生活・住生活	消費経済・環境
◇毎日家族にあいさつをしている。 ◇お手伝いをしている。 ◇近所の人に会ったらあいさつをしている。 ◇地域の行事に参加したことがある。	◇ご飯を炊いたり、みそ汁を作ったりすることができる。 ◇包丁を正しく使うことができる。 ◇五大栄養素が言える。 ◇家族に食事を作ってあげたことがある。	◇季節に応じた着方ができる。 ◇季節に応じて室内の環境を快適にすることができる。 ◇ボタンを付けることができる。 ◇ミシンを使うことができる。 ◇身の回りの整理整頓ができる。	◇表示を見て買い物をしている。 ◇物を大切に使っている。 ◇ゴミの分別をしている。 ◇計画的な買い物をしている。
*あなたは家庭でどんな仕事をしていますか? ()	*調理実習では何を作りましたか? ()	*布を使ってどのような物を作りましたか? ()	*買い物をする時にどんなことに気を付けていますか? ()

誕生

<指導のポイント>

家庭科の学習において今の自分にはどのような知識や技術が身に付いているのか、小学校の学習を振り返りながら見つめ直していきます。小学校での学習を土台とした中学校では、「自立」に向けて家庭分野でどのようなことを学んでいくのか教師が説明したり、どのような知識や技術を身に付けていくべきか話し合ったりしながら、今後の学習の見通しを持つことができるように指導していきます。

A 家族・家庭と子どもの成長

項目	A (2) 家庭と家族関係	
事項	<p>ア 家庭や家族の基本的な機能と、家庭生活と地域とのかかわりについて理解すること。 イ これからの自分と家族とのかかわりに関心をもち、家族関係をよりよくする方法を考えること。</p> <p>(内容の取扱い)</p> <p>ア (1), (2) 及び(3)については、相互に関連を図り、実習や観察、ロールプレイングなど学習活動を中心とするよう留意すること。 イ (2)のアについては、高齢者などの地域の人々とのかかわりについても触れるよう留意すること。</p>	
評価規準の設定例	関心意欲態度	<p>ア 家庭生活と地域との関わりに関心をもち、地域の人々との関わりについて話し合うことなどを通して、地域の人々とのつながりの大切さに気付いている。 イ これからの自分と家族との関わりに関心をもち、家族関係をよりよくするためにできることを実践しようとしている。</p>
	工夫創造技能	<p>イ 自分の生活や事例の家族について課題を見付け、家族関係をよりよくする方法について考え、工夫している。</p>
	知識理解	<p>ア 家庭や家族の基本的な機能について理解している。 家庭生活が地域の人々とのつながりの中で成り立っていることを理解している。</p>
	小⇔中の関連	<p>【小学校】</p> <p>A (2) ア 家庭の仕事と分担 A (2) イ 生活時間の工夫 A (3) ア 家族との触れ合いや団らん A (3) イ 近隣の人々とのかかわり</p> 
指導内容 活動例	<p>家族って何だろう プライバシーに十分配慮する。</p> <p>・物語やマンガ、ドラマの家族を調べ、それぞれの家族の違いについて意見交換する。(どの家族と暮らしてみたいかなどを話し合う。)</p> <p>家庭生活と地域とのかかわりについて考えよう</p> <p>・小学校の復習をしながら、自分の一日の生活を振り返り、家庭の働きを確認する。 ・家庭を支える地域の活動(子供会、敬老会、伝統行事、体育祭、防災訓練、地域の清掃、ボランティア活動など)を調べ、自分と地域の人々との関わりについて話し合う。 ・中学生に成長するまでに地域の人に助けられたことを話し合い、自分に求められていることや地域のためにできることについてまとめる。</p> <p style="text-align: center;">地域の高齢者に聞き取り調査を行う方法もある。</p> <p>これからの自分と家族との関わりを考えよう プライバシーに十分配慮する。</p> <p>・物語をもとに、ロールプレイングを行い、家族それぞれの立場、役割について話し合う。 ・自分の家族の問題について考え、各自解決策を考える。</p> <p style="text-align: center;">将来の家庭生活や家族とのかかわりに期待をもてるようにまとめる。</p>	

安全指導	・ 地域に出かけるときの交通安全
家庭・地域との連携	・ 地域の活動調べ ・ 地域の高齢者へのインタビュー
言語事項	核家族 三世代家族 高齢者 安らぎ
発展的な学習	・ 地域住民の活動や交流会に参加する。 ・ 家庭の働きを考えるとときに、テーマをもとにディベート形式での話し合いをする。 ・ 中学校に高齢者を招待して地域の活動について話をしてもらう。

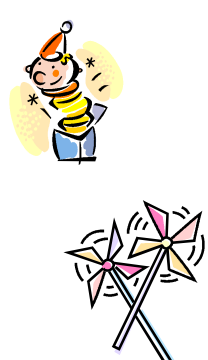
【 参 考 】 ●家族とは？

様々な家族の形があり、家族の条件として血縁や生計を同じにする者というだけではなく、愛情なども家族の絆を結ぶ重要な要素になっていることに気付かせることができる。家族に対する多様な考え方について、意見を交換することを通して家族の在り方について考えを深めていくことが目的である。家族の形として挙げる例については、クラスの状況に応じプライバシーに配慮して項目を選ぶ。

あなたは誰を「家族」と考える？	
例えば…	家族なら○
親	
兄弟姉妹	
同居している祖父母	
同居していない祖父母	
単身赴任中の親	
県外の大学に行っていて今は一緒に住んでいない兄弟	
ペット	
親が再婚した。その相手の同じ年齢の子ども	
夫婦別姓の夫婦関係	
のび太と一緒に暮らすドラえもん	
現在40歳。中学時代に仲のよかった友達（同性）に会い、二人で一緒に暮らすことになった。この関係は？	

なぜそう思うのか、話し合ってみましょう。

A 家族・家庭と子どもの成長

項目	A (3) 幼児の生活と家族	
事項	<p>ア 幼児の発達と生活の特徴を知り、子どもが育つ環境としての家族の役割について理解すること。</p> <p>イ 幼児の観察や遊び道具の製作などの活動を通して、幼児の遊びの意義について理解すること。</p> <p>ウ 幼児と触れ合うなどの活動を通して、幼児への関心を深め、かかわり方を工夫できること。</p> <p>エ 家族又は幼児の生活に関心をもち、課題をもって家族関係又は幼児の生活について工夫し、計画を立てて実践できること。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>(内容の取扱い)</p> <p>ア (1), (2)及び(3)については、相互に関連を図り、実習や観察、ロールプレイングなどの学習活動を中心とするよう留意すること。</p> <p>ウ (3)のアについては、幼児期における周囲との基本的な信頼関係や生活習慣の形成の重要性についても扱うこと。(3)のウについては、幼稚園や保育所等の幼児との触れ合いができるよう留意すること。</p> </div>	
評価規準の設定例	関心意欲態度	<p>イ 幼児の観察や遊び道具の製作などの活動を通して、幼児に関心をもっている。</p> <p>ウ 幼児と触れ合う活動などを通して、幼児に関心をもち、適切に関わろうとしている。</p> <p>エ 家族又は幼児の生活をよりよくすることに関心をもち、課題を主体的に捉え、製作や幼児と触れ合う活動などの計画と実践に取り組もうとしている。</p>
	工夫創造	<p>イ 幼児の心身の発達に応じた遊びや遊び道具、遊び方について考え、工夫している。</p> <p>ウ 幼児の心身の発達に応じた関わり方について、観察したことを生かして考え、工夫している。</p> <p>エ 家族又は幼児の生活について課題を見付け、その解決を目指して製作や幼児と触れ合う活動などの計画を自分なりに工夫している。</p> <p>製作や幼児と触れ合う活動などの実践の成果と課題についてまとめたり、発表したりしている。</p>
	技能	<p>ウ 幼児の遊びや幼児の発達と家族との関わりなどについて、観点に基づいて観察し、整理することができる。</p>
	知識理解	<p>ア 幼児の心身の発達の特徴について理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 身体の発育 ・ 運動の機能 ・ 言語、情緒、社会性 <p>幼児の発達を支える家族の役割について理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの保護 ・ 情緒の安定 ・ 社会性 <p>基本的な信頼関係や生活習慣の形成の重要性とそれを支える家族の役割について理解している。</p> <p>イ 幼児にとっての遊びの意義について理解している。</p>
小⇔中の関連	<p>A (1)ア 成長の自覚、家庭生活と家族の大切さ</p> <p>A (3)イ 近隣の人々とのかかわり</p>	
指導内容 活動例	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>幼児の成長について調べ、家族の役割について考えてみよう</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児の体の発達について、体験コーナー（三輪車に乗る、足形や手形比べ、幼児服や幼児靴比べ、背比べなど）で実体験する。 ・ 運動機能の発達について、DVD等を参考にまとめる。 ・ 心の発達（言葉の発達・情緒の発達・社会性の発達）について、どのように身に付けていくのか話し合い、家族はどのように関わればよいのか考えていく。（幼児の会話の様子を写真やDVD等で見ながら、幼児の気持ちを考える。） </div> <div style="text-align: right; margin-top: 20px;">  </div>	

<p>指導内容</p> <p>活動例</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣（基本的・社会的）を身に付けていく様子をDVD等で視聴し、どのように幼児に接していけばよいかを話し合う。 ・子どもと家族の関わりについて、物語を参考にロールプレイングしながら、子どもの成長にとって家族の果たす役割について考える。（家族や周囲の大人の愛情や関わりが大切であることにつなげていく。）
	<p>幼児の心身の発達の特徴とそれを支える生活について知るとともに、幼児期における周囲の人との基本的な信頼関係や生活習慣の形成の重要性について考えることを通して、幼児にふさわしい生活を整える家族の役割について理解できるようにする。</p>
	<p>幼児の遊びについて考えてみよう</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児の観察をする。（保育所や幼稚園訪問するとよいが、困難な場合には、DVD等を視聴するなどして、様子が分かりやすいよう工夫する。） ・幼児を観察したり、遊んだりすることを通して、発見したことを話し合う。（遊び方、友達との関わり方、遊ぶ人数、おもちゃ、言葉、遊び場、ルールなど） ・幼児と触れ合うための遊び道具を製作する。（製作時には、市販のおもちゃや遊具、絵本の他にも、自然の素材や言葉、身体を使った遊び、伝承遊びにも触れたい。）
	<p>製作は、幼児についての理解を深めることが最終的なねらいである。</p>
<p>幼児と触れ合ってみよう。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の製作したおもちゃで幼児と遊ぶ。 ・交流したことをまとめる。（気付いたこと・分かったことを話し合い、新聞などにしてもよい。） 	
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が自分なりの課題をもって、幼児の発達の状況に応じたかかわり方を工夫し実践できるようにする。 ・幼児との触れ合う活動が困難な場合には、視聴覚教材やロールプレイングなどを活用して幼児とのかかわり方を工夫する方法を考えるようにする。 	
<p>【選択】 家族又は幼児の生活についての課題</p> <p>A(3)エ, B(3)ウ, C(3)イについては、生徒の興味・関心等に応じて1又は2事項を選択して履修させる。</p>	
<p>生活を見直す→課題を見付ける→計画する→実践する→評価する→改善する</p> <p><課題の例></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域活動に参加して高齢者と触れ合う。 ・家族のコミュニケーションを深めるための方法を工夫して計画し実践する。 ・幼児の遊び道具の製作、間食の調理、簡単な衣服の製作など幼児の生活に役立つ物を計画を立てて作ったり、作ったものを用いて幼児との触れ合いや関わり方を工夫したりする。 	
<p>安全指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・遊び道具の製作時の安全指導 ・幼稚園、保育所訪問時の交通安全指導 ・幼児への接し方
<p>家庭・地域との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問活動（幼稚園、保育所、子育て支援センター、育児サークル等）（高齢者施設）
<p>言語事項</p>	<p>幼児 生活習慣 保育所 幼稚園 情緒 社会性 個人差</p>

<p>発展的な学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育所や幼稚園の園児を中学校の調理実習などに招待して交流会を持つ。 ・ 保育所、幼稚園の祖父母参観会に参加する。 ・ 中学校に親子を招いて、育児についてのお話を聞き、交流会を持つ。 ・ 妊婦の方や、助産師の方の話を聞き、触れ合う体験。
---------------	--

【 参 考 】「幼児との触れ合い学習における授業活動例」

普段、異年齢の子どもたちと触れ合う経験が少ないので、幼児と触れ合うことに不安を抱えている生徒も少なからずいると思われます。事前学習では、不安を少しでも解消でき、訪問が楽しみになるような授業内容を工夫しましょう。

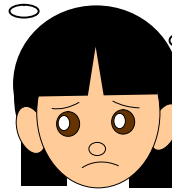
訪問に行くと、園児が乱暴な言葉で話しかけてきたり、わざとたたいてきたりしました。あなたはどのような関わり方をしたらよいのでしょうか。

ロールプレイングで考えてみよう。

なぜたたいてくるのだろう？



遊んでほしいからじゃない？



幼児の気持ちを考えてあげたいね。

班で考えたロールプレイングを発表しよう。

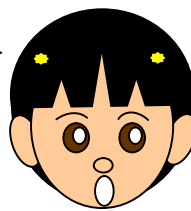
各班で考えたロールプレイングの発表を見て、ふさわしい対応はどの対応だったか、話し合ってみましょう。

【 参 考 】「幼児との触れ合い学習を計画するときの留意点」

- 1 事前学習では、訪問の目的や観察の視点などをはっきりと示し、課題意識を持って体験活動に取り組めるように工夫しましょう。
- 2 学習のねらいを達成させるためには、訪問先の園の先生との事前打合せはとても大切になります。訪問時間や中学生と過ごす時間の日程、どのような関わり方をするのか(事前にペアを決めるなど)、園のきまりや教育方針などを理解し、園との連絡をしっかりとって有意義な体験活動ができるようにしましょう。
また、園までの道順、交通安全についても事前に確認しておきましょう。
- 3 当日の交通安全には十分に気を配りましょう。校長への許可も忘れずにとりましょう。
- 4 訪問後は、お礼状や、中学生の変容の様子や感想などをまとめて園に伝えるようにするとよいでしょう。そして、次年度の訪問につなげましょう。
- 5 園には、触れ合い学習のお願いを正式文書で提出するようにします。園の行事予定もあるので、できるだけ早い時期にお願いの交渉を行い、依頼文書を作成しましょう。(例参照)
- 6 体験したことを各自の課題に沿ってまとめたり、観察の視点ごとにまとめたりして、触れ合い学習をじっくり振り返る時間をとりましょう。体験から感じ取ったことや気付いたことを整理し、共有する活動は、言語活動の充実にもつながります。

園児に自分の名前を覚えてもらうように、名札を付けていくといいね。もちろん、名前はひらがなでね！

ペアさんの名札をペンダントにして作っていくと喜ばれるかも！！
ユニットごまのようなプレゼントもいいなあ～。



折り紙3枚でできる
ユニットごま



<触れ合い学習依頼文書例>

平成〇〇年〇月〇〇日

〇〇〇〇〇〇園
△△△△園長 様

〇〇立〇〇中学校
校長 〇〇〇〇

幼児との触れ合い学習について (お願い)

日頃から本校の教育活動につきまして、御理解、御協力をいただき厚くお礼申し上げます。

さて、中学2年生の家庭科では保育分野が設定されており、幼児期の子どもの言動や心の成長、遊びの意義などを学び、自分の成長を振り返るとともに、これからの生き方について考えを深めていく学習をしていきたいと考えています。

また、幼児との関わりを体験する中で、相手のことを考えて行動することや人との関わり方についても学ばせたいと考えています。

そこで、普段幼児と接する機会が少なくなっている中学生に、幼児を観察したり直接触れ合ったりする時間を設定し、今後の学習に役立てるための触れ合い学習を下記のとおり計画いたしました。

園務御多忙の折り、大変ご迷惑をおかけするとは思いますが、よろしくお願いいたします。

記

1 日時と体験学習する生徒数

体 験 日	時 間	ク ラ ス	体 験 生 徒 数
平成〇年〇月〇日 (〇)	10:00~11:00	年 長	2年3組(男子17人, 女子18人)
平成〇年〇月〇日 (〇)	10:00~11:00	年 中	2年1組(男子17人, 女子17人)
平成〇年〇月〇日 (〇)	10:00~11:00	年 少	2年2組(男子17人, 女子17人)

2 体験内容 各自の観察の視点に基づき幼児と触れ合う。

3 体験方法 各クラスに中学生を8~15人程度割り振ります。詳しい割振りは、事前に名簿などでお知らせします。

4 引率者 教諭 ◎◎◎◎

5 交通手段 徒歩

6 その他 雨天決行
事前の打合せに〇月〇日〇時より伺います。

連絡先 技術・家庭科担当
◎ ◎ ◎ ◎
TEL 〇〇-〇〇〇〇
FAX 〇〇-〇〇〇〇

幼児との触れ合いレポート (例)

課題意識を持たせて体験活動を行う。

<ペアさんの名前と特徴>

<観察したこと>

* ことば	* 遊び	* 生活習慣	* ところ
-------	------	--------	-------

<活動したこと>

9:10 竹馬を練習していたので手助けした。少しでも上達したことをほめてあげた。

9:20

9:30

9:40

9:50

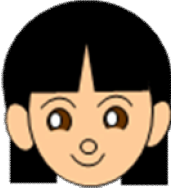
10:00 園庭に集合してみんなでダンスを踊った。

どのような関わり方の工夫ができたか読み取れる書き方にさせる。

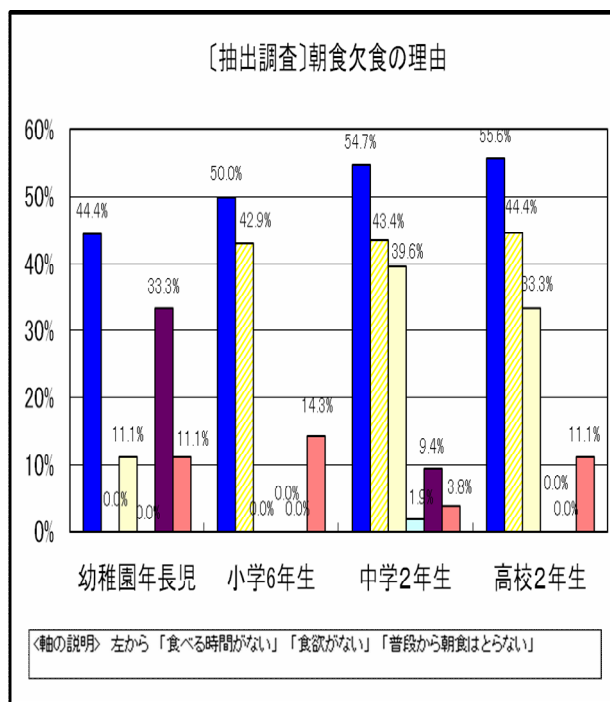
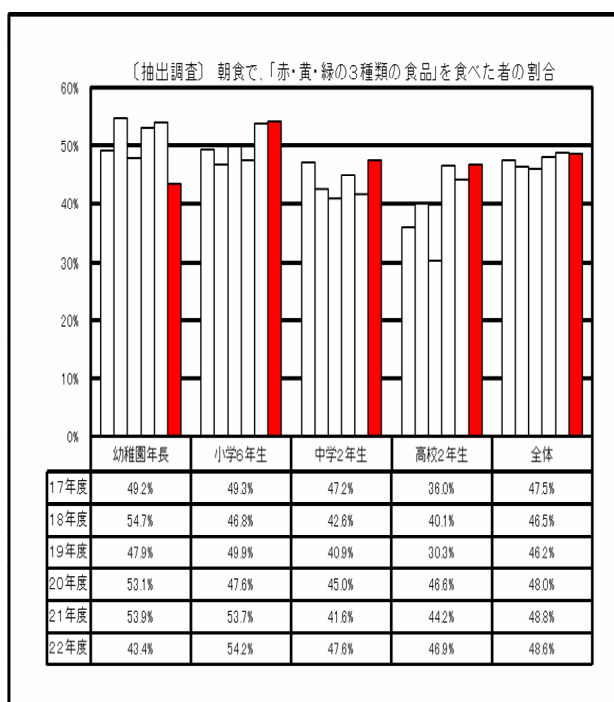
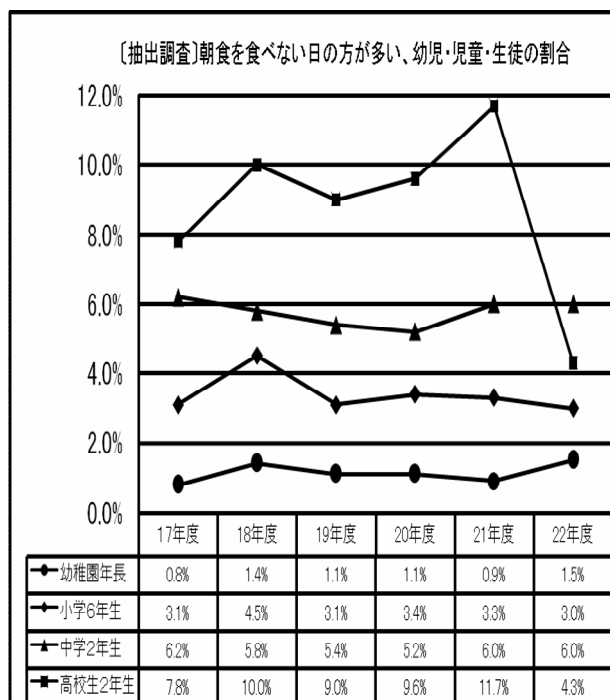
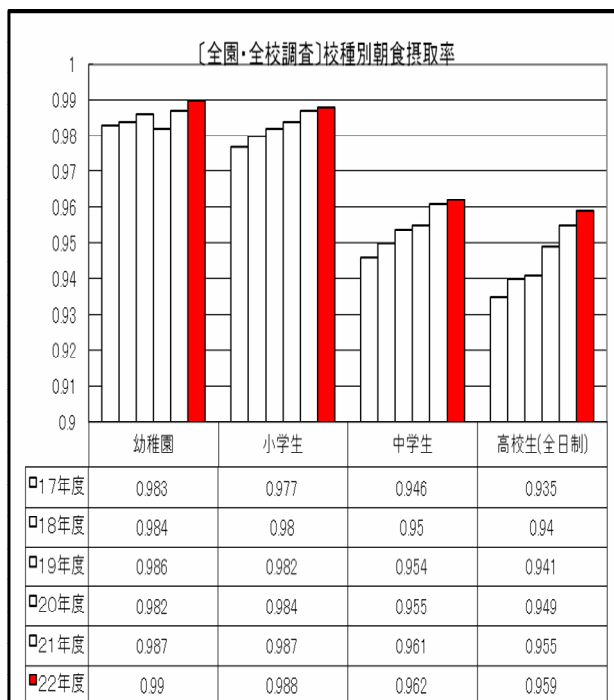
<感想>

体験学習を通して、訪問前の気持ちとどのような変容があったかつかめるような内容を書かせる。

B 日常の食事と調理の基礎

項目	B(1) 食事の役割	
事項	ア 食事の役割を知り、日常の食事の大切さに気付くこと。 イ 楽しく食事をするための工夫をすること。	
評価標準の設定例	関心意欲態度	ア 日常とっている食事に関心を持ち、食事の役割を考えて食事を大切にしようとしている。
	創意工夫	イ 日常の食事を見直し、楽しく食事をするについて考えたり、自分なりに工夫したりしている。
	技能	
	知識理解	ア 食事の役割や日常の食事の大切さについて理解している。 イ 楽しく食事をするためのマナーについて理解している。 (はしや食器の扱い方、食べる速さ、会話、あいさつ、残さず食べること など)
小⇄中の関連	【中学校】 B(1)ア 食事が果たす役割、健康によい食習慣	
指導内容	<p>食事の役割を考えよう</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>家庭の食事や給食について振り返り、おいしかったことや楽しかったことを話し合おう。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>栄養教諭又は栄養士から食事の役割、日常の食事の大切さについてのお話を伺ってみよう。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>食事をとらないとどうなるかについて話し合い、体と心の両面における食事の役割について考えてみよう。</p> </div> </div> <p>・「A家庭生活と家族」との関連を図ることも考えられる。 ・体育科で学習した内容と結び付けて、健康や成長面から食事の役割に気付かせる活動も考えられる。 ・VTRやDVD等の視聴覚教材を活用することも考えられる。</p>	
活動例	 <p>食事って大切なんだなあ。 これからも、毎日朝ごはんを食べよう！</p>	
	<p>楽しく食事をするための工夫をしよう</p> <p>・給食をより楽しく食べるためにできる工夫を話し合おう。 (例：好ましい人間関係を育てる会話、場の雰囲気、盛り付けや配膳の工夫、はしや食器の扱い方など、日常の食事で心掛けたいマナー)</p> <p>A(3)「家族や近隣の人々とのかかわり」やB(3)「調理の基礎」との項目と関連させることも考えられる。</p>	
安全指導		
家庭・地域との連携	・家族がどんなことを考えて食事づくりをしているかインタビューする。	
言語事項	食事の役割 健康 体の成長 規則正しい食事 生活のリズム 食事のマナー	
発展的な学習	・友だちとの茶話会 ・家族との食事会	


【参考】朝食摂食状況

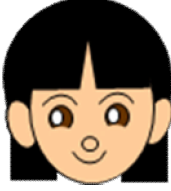


平成 22 年度静岡県教育委員会朝食摂食状況調査より

- ・平成 22 年度の朝食摂食率は、全ての学年において過去最高値を上回る好結果が得られた。朝食摂取の重要性について、学校における学習や家庭・地域の理解の効果であることがうかがえる。
- ・「栄養バランスのとれた朝食」（朝ごはんには赤・黄・緑の3種類の食品を食べた者の割合）については、家庭科の授業の中で、望ましい具体的な食事内容について指導していくことが今後必要である。
- ・朝食欠食の理由として、「食べる時間がない」「食欲がない」の他、「普段から朝食はとらない」としている子どもたちが見られる。今後も「食事の役割」や食事の大切さについて実感を伴った学習活動を工夫していくことが必要である。

B 日常の食事と調理の基礎

項目	B(2) 栄養を考えた食事
事項	<p>ア 体に必要な栄養素の種類と働きについて知ること。 イ 食品の栄養的特徴を知り、食品を組み合わせるとる必要があることが分かること。 ウ 1食分の献立を考えること。</p> <p>(内容の取扱い) ア (2)のア及びイについては、五大栄養素と食品の体内での主な働きを中心に扱うこと。</p>
評価規準の設定例	<p>関心意欲態度 ア 食事に含まれる栄養素が体の成長や活動のもとになることに関心をもっている。 イ 食品をグループに分けることなどを通して、食品の栄養的特徴や食品の組み合わせに関心をもっている。 ウ 1食分の食事のとり方に関心を持ち、栄養を考えた食事のとり方をしようとしている。</p>
	<p>創意工夫 ウ 米飯とみそ汁を中心とした3つのグループの食品のそろった1食分の献立について考えたり、自分なりに工夫したりしている。</p>
	<p>技能</p> <p>知識理解 ア 五大栄養素の種類と働きについて理解している。 栄養を考えて食事をとることの大切さについて理解している。 イ 食品に含まれる主な栄養素の体内での主な働きにより、食品を3つのグループに分ける分け方について理解している。 3つのグループの食品を組み合わせることにより、栄養のバランスがよい食事になることを理解している。 ウ 栄養のバランスのよい1食分の献立の立て方について理解している。</p>
小⇄中の関連	<p>【中学校】 B(1)イ 栄養素の種類と働き，中学生の栄養の特徴 B(2)ア 食品の栄養的特質，中学生の1日に必要な食品の種類と概量 B(2)イ 中学生の1日分の献立 B(2)ウ 食品の選択</p>
指導内容 活動例	<p>食べ物は体内でどんな働きをするのだろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食べ物の3つの働き（主に体をつくる 主にエネルギーになる 主に体の調子を整える）を知ろう。 ・食べ物に含まれる栄養素を知ろう。 <p>食べ物に含まれている栄養素が、体の中でいろいろな働きをするのだね！</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・ B(2)のイの事項との関連を図ることも考えられる。 ・理科の第5学年における植物の種子の中の養分に関する学習で扱うでんぷんとの関連を図り、でんぷんは炭水化物の一つであることに触れることも考えられる。 <p>食品を仲間分けしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事調べをし、どのような食品が使われているか確認しよう。 ・食品を3つのグループに仲間分けしよう。

指導内容 活動例	<p>まかせてね、今日の〇〇ごはん 家族のための食事づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族のためにどんなことを考えて献立を立てるか話し合う。 ・栄養のバランスを考えて、家族のための1食分の献立を考えよう。 ・自分の考えた1食分の献立の工夫や栄養のバランスについて話し合おう。  <p>家族のために、どんな献立にしようかなあ。 喜んでくれるかなあ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米飯とみそ汁を中心とした1食分を扱う。 ・食事調べ、給食の献立、調理カード、家族の希望調査を参考にすることも考えられる。 <p>B (1) 食事の役割やB (3) 調理の基礎の学習と関わらせ、日常生活で実践できるように配慮する。</p>
	<p>安全指導</p> <p>家庭・地域との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝食の条件や要望について、家族にインタビューする。 ・プライバシーに十分配慮し、食事調べを行う。 <p>言語事項</p> <p>栄養素 炭水化物 脂質 たんぱく質 無機質 ビタミン カルシウム 五大栄養素 エネルギー 栄養のバランス 献立</p> <p>発展的な学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族のためのお弁当づくり

【参 考】





五大栄養素に関する内容		
栄養素	小学校	中学校
炭水化物	主として体内で燃焼することによりエネルギーに変わり、体温の保持や活動のために使われること。	主として体内で燃焼してエネルギーになること。
脂 質	主として体内で燃焼することによりエネルギーに変わり、体温の保持や活動のために使われること。	主として体内で燃焼してエネルギーになること。
たんぱく質	主として体をつくるのに役立つが、エネルギー源としても利用されること。	主として筋肉、血液などの体を構成する成分となるだけでなく、エネルギー源としても利用されること。
無機質	カルシウムなどがあり、カルシウムは骨や歯の成分となるが、体の調子を整える働きもあること。	カルシウムや鉄などがあり、カルシウムは骨や歯の成分、鉄は血液の成分となるなどの働きと、体の調子を整える働きがあること。
ビタミン	体の調子を整える働きがあること。	A, B1, B2, C, Dなどの種類があり、いずれも体の調子を整える働きがあること。

中等教育資料 平成22年4月号

今回の改訂で、中学校で扱っていた五大栄養素を小学校で扱うこととなった。中学校での学習につなげる内容として、小学校では五大栄養素の基礎的事項を扱う。**ゴシック体**は、中学校で学習する内容。

B 日常の食事と調理の基礎

項目	B(3) 調理の基礎
事項	<p>ア 調理に関心をもち、必要な材料の分量や手順を考えて、調理計画を立てること。</p> <p>イ 材料の洗い方、切り方、味の付け方、盛り付け、配膳及び後片付けが適切にできること。</p> <p>ウ ゆでたり、いためたりして調理ができること。</p> <p>エ 米飯及びみそ汁の調理ができること。</p> <p>オ 調理に必要な用具や食器の安全で衛生的な取扱い及びこんろの安全な取扱いができること。</p> <div style="border: 1px solid black; background-color: #ffff00; padding: 5px;"> <p>(指導計画の作成)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (3)「B日常の食事と調理の基礎」の(3)及び「C快適な衣服と住まい」の(3)については、学習の効果を高めるため、2学年にわたって取り扱い、平易なものから段階的に学習できるよう計画すること。 <p>(内容の取扱い)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (3)のエについては、米飯やみそ汁が我が国の伝統的な日常食であることにも触れること。 <p>(実習の指導)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 調理に用いる食品については、生の魚や肉は扱わないなど、安全・衛生に留意すること。 ・ 食に関する指導については、家庭科の特質に応じて、食育の充実に資するよう配慮すること。 </div>
評価規準の設定例	<p>ア 調理に必要な材料や手順などに関心をもち、調理計画を立てようとしている。</p> <p>イ 調理において適切な材料の洗い方、切り方、味の付け方、盛り付けや配膳及び後片付けをしようとしている。</p> <p>ウ ゆで方やいため方に関心をもち、材料や目的に応じた調理をしようとしている。</p> <p>エ 日本の伝統的な日常食である米飯及びみそ汁に関心をもち、調理しようとしている。</p> <p>オ 調理に必要な用具や食器及びこんろの安全と衛生に関心をもち、調理実習で実践しようとしている。</p>
	<p>ア 調理に必要な材料や手順を考え、調理計画を自分なりに工夫している。</p> <p>イ 調理の目的や材料に合った洗い方、切り方、味の付け方、色どりや食べやすさを考えた盛り付けや配膳、衛生的で環境に配慮した後片付けについて考えたり、自分なりに工夫したりしている。</p> <p>ウ 材料や目的に応じたゆで方やいため方について考えたり、自分なりに工夫したりしている。</p> <p>エ おいしい米飯及びみそ汁の調理の仕方について考えたり、自分なりに工夫したりしている。</p>
	<p>ア 計量器具を扱い、必要な材料を計量することができる。</p> <p>イ 調理において適切な材料の洗い方、切り方、味の付け方、盛り付けや配膳及び後片付けができる。</p> <p>ウ 材料や目的に応じたゆで方やいため方ができる。</p> <p>エ 米飯及びみそ汁の調理ができる。</p> <p>オ 調理に必要な用具や食器及びこんろの安全で衛生的な取扱いができる。</p>
	<p>ア 調理に必要な材料の分量や手順、調理計画の立て方について理解している。材料や調味料の正しい計量の仕方について理解している。</p> <p>イ 調理において適切な材料の洗い方、切り方、味の付け方、盛り付けや配膳及び後片付けの仕方について理解している。</p> <p>ウ ゆでたりいためたりする調理の特性と材料や目的に応じたゆで方やいため方について理解している。</p> <p>エ 米飯及びみそ汁の調理の仕方について理解している。</p> <p>オ 調理に必要な用具や食器及びこんろの安全で衛生的な取扱い方について理解している。</p>

<p>小⇄中の 関 連</p>	<p>【中学校】 B(3)ア 基礎的な日常食の調理, 食品や調理用具等の適切な管理 B(3)イ 地域の食材を生かした調理, 地域の食文化 B(3)ウ 食生活についての課題と実践</p>
<p>指導内容 活動例</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>お茶を入れてみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガスコンロを使って湯を沸かし, せん茶を入れてみよう。 ・湯を沸かしてできることを話し合ってみよう。 </div> <div style="text-align: center; margin-bottom: 5px;">  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>ゆで野菜サラダを作ってみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゆでることで, 食品がどのように変化するか調べてみよう。 ・野菜の大きさや種類によって, ゆでる時間は違うのかな? ・ゆで野菜サラダの計画を立て, 計画に従って野菜サラダを作ろう。 </div> <div style="text-align: center; margin-bottom: 5px;">  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>ごはんのみそ汁を作ってみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・火加減や時間を工夫して炊き, 米がごはんになっていく様子を観察してみよう。 ・だしの種類や実の取り合わせ, 材料の切り方など, みそ汁を作るのに必要なことは何か考えてみよう。 </div> <div style="text-align: center; margin-bottom: 5px;">  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>朝食に合うおかず作り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ朝食を食べた方がよいのかを考え, どんな朝食にするとよいか話し合ってみよう。 ・いためることで, 食品がどのように変化するか調べてみよう。 ・調理計画を立て, いためて作る朝食のおかずを作ろう。 </div> <div style="text-align: center; margin-bottom: 5px;">  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>1食分の食事の計画を立てよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給食の献立表を活用し, 一食分の食事計画の立て方を考えよう。 ・立てた1食分の食事の計画を基に, できあがりの時間がそろような実習計画を立てよう。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ア 調理に関心を持ち, 必要な材料の分量や手順を考えて, 調理計画を立てること。 イ 材料の洗い方, 切り方, 味の付け方, 盛り付け, 配膳及び後片付けが適切にできること。 オ 調理に必要な用具や食器の安全で衛生的な取扱い及びコンロの安全な取扱いができること。</p> </div>
<p>安全指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・服装を整え, 用具の手入れや保管を適切に行う。 ・事故防止に留意して, 熱源や用具, 機械などを取り扱う。 ・調理に用いる食品については, 生の魚や肉は扱わないなど, 衛生と安全に留意する。
<p>家庭・地域 との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・食事や団らんを通して家族と楽しく関わるために, 家族の好みなどを考えた献立を調理する。 ・家庭で行っている後片付けの方法を調べる。 ・みそ汁の実に地域の食材を積極的に使用する。
<p>言語事項 言語事項</p>	<p>ゆでる いためる 調理 米飯 分量 手順 おかず 盛り付け 配膳 味付け 塩味 味見 味を整える 色どり 衛生 分別 ふり洗い すすぐ 沸騰 かさ 風味 主食 水加減 浸水時間 蒸らし だし 実</p>
<p>発展的な 学 習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・だしの飲み比べ。 ・みその種類や作り方を調べる。 ・家族のためのお弁当作り。

B 食生活と自立

項目	B(1) 中学生の食生活と栄養	
事項	ア 自分の食生活に関心をもち、生活の中で食事が果たす役割を理解し、健康により食習慣について考えること。	
	イ 栄養素の種類と働きを知り、中学生に必要な栄養の特徴について考えること。 (内容の取扱い) ア (1)のイについては、水の働きや食物繊維についても触れること。	
評価規準の設定例	関心意欲態度	ア 自分の食生活に関心をもち、健康により食習慣について考え、日常生活で実践しようとしている。 イ 中学生に必要な栄養の特徴について関心をもち、自分の食事と関わらせて考えようとしている。
	工夫創造	ア 自分の食生活を点検し、課題を見付け、健康により食習慣などについて考え、工夫している。
	技能	
	知識理解	ア 食事の役割や健康により食習慣の重要性について理解している。 イ 栄養素の種類と働きについて理解している。 中学生に必要な栄養の特徴について理解している。
小⇔中の関連	【小学校】 B(1)ア 食事の役割と日常の食事の大切さ B(1)イ 楽しく食事をするための工夫 B(2)ア 体に必要な栄養素の種類と働き	
指導内容	<p>食事について考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の1日の食事について、食事内容や食習慣を見直す。 コンピュータを利用して栄養診断を行い、自分の食生活を振り返る。 栄養教諭又は栄養士から食事の役割、健康により食習慣について話を聞く。 1日の食事場面がイメージできる視聴覚教材などを活用して健康により食習慣について話し合う。 <p>プライバシーに十分配慮する。</p>	
活動例	<p>栄養素の種類と働きを調べよう</p> <ul style="list-style-type: none"> 栄養素の種類と働きについて、小学校での学習を復習する。 栄養素の働きを調べ、レポートにまとめる。 (導入やまとめとして視聴覚教材を視聴する活動も考えられる。) 水や食物繊維の働きについて理解する。 <p>中学生に必要な栄養には、どんな特徴があるだろう</p> <ul style="list-style-type: none"> 中学生の時期は、どんな栄養素をどのくらいとったらよいか知る。(食事摂取基準) 食事摂取基準から、中学生が成人と比べて多くとる必要がある栄養素を知り、その理由について考える。 	

安全指導	
家庭・地域との連携	・食生活調べ
言語事項	栄養素 食習慣 炭水化物 たんぱく質 脂質 無機質 カルシウム 鉄 食物繊維 ビタミンA, B1, B2, C, D 食事摂取基準 栄養のバランス 生活習慣病
発展的な学習	・食品の糖分, 塩分, 脂質調べ

【参 考】「食事の役割」に関する学習内容の小中学校比較（学習指導要領解説）

小学校	中学校
<ul style="list-style-type: none"> ・食事は、健康を保ち、体の成長や活動のもとになったりすることや、一緒に食事をすることで、人と楽しくかかわったり、和やかな気持ちになったりすることなどを知る。 ・規則正しい食事が生活のリズムをつくることや、朝食を食べることによって学習や活動のための準備ができる事などにも触れるようになる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>食事が果たす役割については、小学校における食事の役割と楽しい食事についての学習を踏まえて行う。 下線部は、中学校で学習する内容。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・生命の維持や健康の保持増進、成長などの食事の役割に加え、食事を共にすることにより人間関係を深めたり、文化を伝えたりする役割もあることを理解できるようにする。 ・健康によい食習慣については、栄養がよい食事をとることや1日3食を規則正しくとることの重要性について理解するとともに、自分の食習慣を見直すことができるようにする。また、健康によい食習慣を身に付け、日常生活において実践することの大切さにも気付くようにする。 ・なお、健康の保持増進のためには、食事に加え、運動、休養も重要な要素ではあるが、ここでは食事を中心に考えるようにする。

【参 考】「ふじのくに食育宣言」（静岡県）

<ふじのくに食育宣言>

自然の恵みによって、私たちは生きていることに感謝します。「ふじのくに」静岡の海・山・里の人びとが手塩にかけてつくりだす食材はまさに芸術品です。それを、家族や仲間、さらにお客様を迎えて共に楽しむもてなしの場から、人間の絆が生まれます。赤ちゃんからお年寄りまで、食の恵みで結ばれた豊かな国づくりを、「ふじのくに」静岡から発信するため、次のことを実践することを宣言します。

- 私は、「いただきます。」「ごちそうさま。」を言います。
- 私は、バランスよく、おいしく食べて健康になります。
- 私は、食べ物の育ちを学び、食べ物を大切にします。
- 私は、郷土の食文化を理解し、次の世代に伝えます。
- 私は、食の恵みで結ばれた豊かな国づくりを目指します。

平成 23 年 6 月 19 日


静岡県の食育は、食を通して人をはぐくむことを目指しています。


食を通して人をはぐくむというのは、「食を知る」「食をつくる」「食を楽しむ」を通して、食を生み出す自然（土地・海・太陽など）や食に関わる人々（農家・漁師・流通業者・販売店・飲食店など）の様々な活動に対して、理解を深めるとともに、感謝の気持ちを育て、望ましい食生活を実践する力を身に付けることで、健全な心と体をつちかい、豊かな人間性をはぐくむということです。

静岡県では、「0歳から始まるふじのくにの食育」を合言葉に、子どもに重点を置いた食育に取り組んでいます。



B 食生活と自立


項目	B(2) 日常食の献立と食品の選び方
事項	<p>ア 食品の栄養的特質や中学生の1日に必要な食品の種類と概量について知ること。</p> <p>イ 中学生の1日分の献立を考えること。</p> <p>ウ 食品の品質を見分け、用途に応じて選択できること。</p> <p>(内容の取扱い)</p> <p>イ (2)のウについては、主として調理実習で用いる生鮮食品と加工食品の良否や表示を扱うこと。</p>
評価規準の設定例	<p>関心意欲態度</p> <p>ア 食品の栄養的特質や中学生の1日に必要な食品の種類と概量に関心をもち、食品について調べたり、計量したりしようとしている。</p> <p>イ 中学生の1日分の食事のとり方に関心をもち、必要な栄養量を満たす食事のとり方をしようとしている。</p>
	<p>工夫創造</p> <p>イ 中学生の1日分の献立について課題を見付け、必要な栄養量を満たすために料理や食品の組み合わせについて考え、工夫している。</p> <p>ウ 用途に応じた食品の選択について、収集・整理した情報を活用して考え、工夫している。</p>
	<p>技能</p> <p>ウ 身近な食品を選択するために必要な情報を収集・整理することができる。</p>
	<p>知識理解</p> <p>ア 食品の栄養的特質について理解している。 食品群や食品群別摂取量の目安について理解している。 食品を食品群に分類したり、計量したりする活動を通して、中学生の1日に必要な食品の種類と概量について理解している。</p> <p>イ 中学生に必要な栄養量を満たす1日分の献立の立て方について理解している。</p> <p>ウ 生鮮食品と加工食品の表示の意味と良否の見分け方について理解している。 ・鮮度 ・原産地 ・原材料 ・食品添加物 ・栄養成分 ・期限表示 ・保存方法 など</p> <p>食品の選択における観点について理解している。 ・目的・栄養 ・価格・調理の能率 ・環境への影響 など</p>
小⇄中の関連	<p>【小学校】</p> <p>B(2)イ 食品の栄養的な特徴と組み合わせ</p> <p>B(2)ウ 1食分の献立</p>
指導内容	<p>食品に含まれる栄養素を調べてみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食品成分表を使って、いろいろな食品に含まれる栄養素の種類と量を調べる。 ・食品を栄養的な特徴によって、6つの食品群に分類する。(実際の食品や食品カード等) ・1日にどんな食品をどのくらい食べたらよいか知る。(食品群別摂取量の目安)(実際の食品を計量し、1日に必要な食品の概量を実感する。)
活動例	<p>小学校で学習した栄養素の体内での主な3つの働きと の系統性を考慮して扱う。</p> <p>小学校で学習した栄養素の体内での主な3つの働きは、「主にエネルギーのもとになる」「主に体をつくるもとになる」「主に体の調子を整えるもとになる」だよ!</p> 

<p>指導内容</p> <p>活動例</p>	<p style="text-align: right;"></p> <p>中学生の1日分の献立を考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校での学習や給食の献立を参考にして、献立を考える際に考慮する点を考える。(栄養, し好, 調理法, 季節, 費用など) ・栄養バランスのよい, 中学生の1日分の献立を考える。 (※食事調べや給食の献立を利用するなど, 1日3食のうちいくつかを指定して残りの献立を立案することも考えられる。 例: 食事調べで不足していたカルシウムを上手にとる朝食を考えよう。 冬野菜がたっぷりとれる, ほかほかメニューを考えよう。 など) <p style="text-align: right;">B(3)の調理実習との関連を図るよう配慮する。</p> <p>食品を選ぶ確かな目を持とう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生鮮食品について, 旬の食品, 一年中出回っている食品それぞれの長所と短所を話し合い, 旬の食品のよさを知る。 ・魚, 肉, 野菜などについて, 鮮度, 品質, 衛生などの観点から良否の見分け方を調べてカードを作成し, 生鮮食品の選び方を考える。 ・産地などの表示を参考にして自分ほどの食品を選択するか考える。 ・身近な加工食品について, 原材料, 食品添加物, 栄養成分, 期限表示, 保存方法などの表示を理解して必要な情報を収集・整理し, 自分ほどの食品を選択するか考える。(ハム, ジュースなど) ・手づくりのものと市販の加工食品を比較して, 用途に応じた選択について話し合う。 ・食品の保存方法と保存期間の関係について, 食品の腐敗や食中毒の原因と関連付けて知る。 ・ハンバーグの材料について, 食品の選び方や取り扱い方を調べる。 <p style="text-align: center;">「D身近な消費生活と環境」の(1)のイ又は(2)の学習との関連を図りながら行うことも考えられる。</p>
<p>安全指導</p>	
<p>家庭・地域との連携</p>	<p>・加工食品の表示調べ</p>
<p>言語事項</p>	<p>6つの食品群 日本食品標準成分表 食品群別摂取量の目安 献立 し好 調理法 主食 主菜 副菜 汁物 生鮮食品 旬 出盛り期 鮮度 品質 衛生 加工食品 表示 原材料 食品添加物 栄養成分 期限表示 消費期限 賞味期限 保存方法 食品の腐敗 食中毒</p>
<p>発展的な学習</p>	<p>・栄養素の検出実験</p>

【参 考】「献立を考えること」に関する学習内容の小中学校比較 (学習指導要領解説)

小学校	中学校	<p>「中学生の1日分の献立を考える」については, 小学校で学習した1食分の献立の学習を踏まえて行う。 下線部は, 中学校で学習する内容。</p>
<p>ウ 1食分の献立を考えること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食品を組み合わせて色々な料理ができることに気付き, バランスよく食品を組み合わせておかずとなる料理を考え, 3つの食品グループのそろった具体的な献立を考えることができるようにする。 	<p>イ 中学生の1日分の献立を考えること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生に必要な栄養量を満たす1日分の献立を考える。 ・栄養を考えた食品の組み合わせを中心に考える。 ・し好, 調理法, 季節, 費用などの点について検討することもよい。 	

B 食生活と自立

項目	B(3) 日常食の調理と地域の食文化	
事項	<p>ア 基礎的な日常食の調理ができること。また、安全と衛生に留意し、食品や調理用具等の適切な管理ができること。</p> <p>イ 地域の食材を生かすなどの調理を通して、地域の食文化について理解すること。</p> <p>ウ 食生活に関心を持ち、課題をもって日常食又は地域の食材を生かした調理などの活動について工夫し、計画を立てて実践できること。</p>	
	<p>(内容の取扱い)</p> <p>ウ (3)のアについては、魚、肉、野菜を中心として扱い、基礎的な題材を取り上げること。(3)のイについては、調理実習を中心とし、主として地域又は季節の食材を利用することの意義について扱うこと。また、地域の伝統的な行事食や郷土料理を扱うこともできること。</p> <p>エ 食に関する指導については、技術・家庭科の特質に応じて、食育の充実に資するよう配慮すること。</p>	
評価規準の設定例	関心意欲態度	<p>ア 日常食の調理に関心を持ち、調理技術を習得しようとしている。食品や調理用具等の安全と衛生に配慮し、調理実習で実践しようとしている。</p> <p>イ 地域の食材を生かした日常食などの調理を通して、地域の食文化に関心を持っている。</p> <p>ウ 自分や家族の食生活をよりよくすることに関心を持ち、課題を主体的に捉え、日常食又は地域の食材を生かした調理などの計画と実践に取り組もうとしている。</p>
	工夫創造	<p>ア 基礎的な日常食の調理について、調理に必要な手順や時間を考えて計画したり、食品の調理上の性質を生かした調理を工夫したりしている。</p> <p>ウ 自分や家族の食生活について課題を見付け、その解決を目指して日常食又は地域の食材を生かした調理などの計画を自分なりに工夫している。</p> <p>日常食又は地域の食材を生かした調理などの実践の成果と課題についてまとめたり、発表したりしている。</p>
	技能	<p>ア 調理の目的や食材に合った基本的な調理操作ができる。</p> <p>・洗い方 ・切り方 ・加熱調理（煮る、焼く、炒める） ・調味 ・盛り付け</p> <p>・配膳 ・後片付け</p> <p>安全と衛生に留意し、食品や調理用具等の適切な管理ができる。</p> <p>・魚や肉などの生の食品 ・ふきん、まな板、包丁などの調理用具 ・調理用熱源</p>
	知識理解	<p>ア 食品の調理上の性質について理解している。</p> <p>加熱調理と調味の要点について理解している。</p> <p>食品や調理用具の安全と衛生に留意した取扱い方について理解している。</p> <p>イ 地域の食文化の意義について理解している。</p>
小⇄中の関連	<p>【小学校】</p> <p>B(3) 調理の基礎</p>	
指導内容 活動例	<p>食事づくりに挑戦しよう</p> <p>1食分の献立を手順を考えながら調理することができるように配慮する。</p>	
	<p>・魚、肉、野菜の調理上の性質を知り、安全と衛生に留意して調理する。</p> <p>※魚、肉、野菜の調理上の性質については、「中学校学習指導要領解説 技術・家庭編」P54を参照すること。</p>	
		
	<p>静岡の食材（季節の食材）を生かした食事づくりをしよう</p> <p>B(2)「日常食の献立と食品の選び方」との関連を図り、総合的に展開できるようにする。</p>	
	<p>・地域の食材（季節の食材）のよさについて考える。</p> <p>・静岡の食材（季節の食材）について調べ、レポートにまとめる。</p> <p>・静岡の食材（季節の食材）を生かした料理（食事）を調理する。</p> <p>・行事食や静岡の郷土料理を作ってみる。</p>	

<p>指導内容</p> <p>活動例</p>	<p style="text-align: right;">↓</p> <p>A(3)エ, B(3)ウ, C(3)イについては、生徒の興味・関心に応じて1又は2事項を選択して履修させる。</p> <p>【選択】食生活についての課題と実践</p> <p>食生活を見直す→課題を見付ける→計画する→実践する→評価する→改善する</p> <p><課題の例></p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の食生活の課題を解決するための日常食の調理を計画を立てて実践する。 家族とともに地域の食材を生かした献立を工夫し、調理の計画を立てて実践する。 郷土料理や行事食の計画を立てて実践する。
<p>安全指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> 安全と衛生に配慮した食品や調理用具の適切な取扱いと管理 ふきんやまな板などの衛生的な取扱い 包丁などの刃物の安全な取扱い
<p>家庭・地域との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域の食材、行事食、郷土料理調べ 長期休み等を利用した家庭での献立作成、調理の実践
<p>言語事項</p> <p>言語事項</p>	<p>煮る 焼く 炒める 直火焼き 間接焼き 行事食 郷土食 食料自給率 地産地消</p>
<p>発展的な学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域の伝統的な行事食や郷土料理を扱う エコクッキング ・日本型食生活 ・トレーサビリティ ・フードマイレージ

【参 考】ワークシート参考例「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料

中学校技術・家庭」参照

学習カード【例4】

ハンバーグステーキの献立を夕食とした1日分の献立を考えよう

1年 組 番 氏名

(1) 献立の立て方を確認して、1日分の献立を作成しよう。(4) 作成した献立を発表しよう。

【献立表(6群チェック表)】

献立	材料名(概量) ※2群は、249g量で 牛乳に置き換えた重量	群					
		1群	2群	3群	4群	5群	6群
朝食							
昼食							
夕食	米(茶碗2杯)					120	
	煮いびき肉 たまねぎ(1/4個)	70			35		
	バター 生パン粉 牛乳(小さじ2)		10			10	2
	卵(1/5個) 塩・コショウ 油	10					3
	ウスターソース トマトケチャップ						
副菜	付け合わせ じゃがいも (小1/2個) ブロッコリー (1/8株)			25			50
	ミニトマト(8個) にんじん			20			10
汁物	野菜入り コンソメ スープ			10	10		

(2) ①献立の点検をしよう(合計の記入)

(2) ②過不足(青:過剰 赤:不足)の記入

(3) ③改善後の点検をしよう(合計の記入)

食品群別摂取量のめやす(12~14歳)	女		男	
	300	400	400	500
	330	400	400	500

(3) ④献立の改善策を考えよう。<ポイント:栄養バランス、色どり、季節感、組み合わせ、調理方法 など>

☆献立を改善するために考えたこと、工夫したこと

☆改善後の変更点は献立表に青で、それらの合計は(3)②にそれぞれ記入

<工夫・創造④>

中学生の栄養を満たすための献立になるように、食品群別摂取量のめやす(12~14歳)を踏まえて、料理や食品の組み合わせのどの点をどのように工夫したかについて記入させる。

<例>

- 4群のうちの果物がとれるように昼食にりんごを加えた。

生徒たちが問題の解決を目指して、いろいろと考え、よりよい方法を得ようと自分なりに工夫する過程を含めて評価することが大切です。

例えば、調理計画表や実習レポートには、生徒が考えた過程を記述できるような欄を設けるなどの工夫が必要です。


友達との意見交換を通して、自分の考えた献立のどの点をどのように改善したかについて記入させる。

<例>

- 2, 3群が少なかったため、昼食のオムレツをチーズオムレツにし、付け合わせにトマトを加えた。

C 快適な衣服と住まい

項目	C(1) 衣服の着用と手入れ
事項	ア 衣服の働きが分かり、衣服に関心をもって日常着の快適な着方を工夫できること。 イ 日常着の手入れが必要であることが分かり、ボタン付けや洗濯ができること。
評価規準の設定例	関心意欲態度 ア 衣服の働きや日常着の着方に関心をもち、気温や季節の変化、生活場面に応じた着方をしようとしている。 イ 日常着の手入れに関心をもち、衣服を大切に扱い、気持ちよく着るために手入れをしようとしている。
	創意工夫 ア 衣服の保健衛生上の働きや生活活動上の働きを基に、場面に応じた日常着の着方について考えたり、自分なりに工夫したりしている。 イ 日常着を点検し、課題を見付け、気持ちよく着るための手入れについて考えたり、自分なりに工夫したりしている。
	技能 イ ボタン付けができる。 手洗いを中心とした洗濯ができる。
	知識理解 ア 衣服の保健衛生上の働きが分かり、気温や季節の変化に応じた着方について理解している。 衣服の生活活動上の働きが分かり、生活場面に応じた着方について理解している。 イ 衣服を気持ちよく着るために手入れが必要であることが分かり、ボタンの付け方や手洗いを中心とした洗濯の仕方について理解している。
小⇄中の関連	【中学校】 C(1)ア 衣服と社会生活とのかかわり、目的に応じた着用や個性を生かす着用の工夫 C(1)イ 衣服の計画的な活用や選択 C(1)ウ 衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れ
指導内容	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">衣服を着用する意味を考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ いろいろな生活場でどんな衣服を着用しているか話し合おう。 ・ 夏服と冬服を比較しよう。(布地, 開口部の形状, 着る枚数などの比較) ・ 体育着を調べよう。(布地の伸縮性, 吸水性を調べる。) </div> <div style="text-align: center; margin-bottom: 10px;"> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">C(2)「快適な住まい方」イと関連を図ることも考えられる。</p> <p style="text-align: center;">暑い季節, 寒い季節それぞれについて, 快適な住まいと関連付ける。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">衣服の適切な着方考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 具体的な場面を設定し, 気象条件や活動内容にあった着方について話し合おう。 </div> <div style="text-align: center; margin-bottom: 10px;"> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">日常着の手入れの必要性とその方法について考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ボタンの取れた衣服を見て, 気付いたことを出し合おう。 ・ 洗濯の必要性と洗濯の仕方を実験を通して考えよう。 (汚れが付いたばかりの物と時間が経過した物の吸水性, 汚れの落ち方の比較, 汚れの種類による落ち方の比較, 水洗いと洗剤を用いた場合の比較) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">洗濯については, D(1)「物や金銭の使い方と買物」と関連させたり, D(2)「環境に配慮した生活の工夫」の学習に発展させたりすることが考えられる。</p> </div>
活動例	

<p>指導内容</p> <p>活動例</p>	<div style="text-align: center;">  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>日常着の手入れをしよう</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>C(3)「生活に役立つ物の製作」の学習と関連を図ることも考えられる。学習の場を変えて繰り返し学習することにより定着を図ることも可能。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>・ボタン付けをしてみよう。 ・洗濯の実習をしよう。(手洗いを中心とした実習) (洗濯物や汚れの点検, 洗う, すすぐ, 絞る, 干すなどの基本的な作業を工夫して行う。)</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>たたんで収納はC(2)「快適な住まい方」アと関連付ける。</p> </div>
<p>安全指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ボタン付けをする場合は、針や糸切りばさみなどの安全な使い方について指導する。(特に糸を引くときに、針先を周りの人に向けないようにする。) ・洗濯機を使う場合は、ぬれた手でプラグに触らない、完全に止まってから、洗濯物を取り出すことなどに気を付ける。(電気洗濯機は脱水に使用したり、手洗いと比較したりする程度に扱う。)
<p>家庭・地域との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭での洗濯調べ(洗濯の工夫をインタビュー) ・家庭での手洗いの実践
<p>言語事項</p>	<p>日常着 布地 手入れ 洗濯 手洗い 洗う すすぐ 絞る 脱水 干す</p>
<p>発展的な学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ニンヒドリンによるたんぱく質汚れの検出 ・洗剤の種類(布地による洗剤の違い)

【参考】

特定の課題に関する調査(技術・家庭)について

中学校技術・家庭科についての学力調査を実施

【調査の概要】

- 調査対象学年/中学校第3学年
 - 調査実施日/平成19年10月9日~11月13日
 - 調査実施学校数及び生徒数/抽出校約500校約1万6千人
 - 調査内容・調査方法/
- 内容① 食生活中心<ペーパーテスト> 食生活<実技テスト>
 内容② 衣生活中心<ペーパーテスト> 衣生活<実技テスト>
 内容③ 幼児理解中心<ペーパーテスト> 幼児理解<ビデオ映像を用いたペーパーテスト>


■調査結果 洗剤の使用に関する問題

- 洗剤の使用について、「使用量のめやすの量にして洗濯するとよい」を選ぶ問題の正答率約80%に対し、2倍の量の洗剤で洗濯することが適切はでない理由として、「汚れの落ち方はほとんど変わらない」を選ぶ正答率は約30%。
- 洗剤の量による汚れの落ち方の違いを観察実験するなど、体験的に理解させる指導や環境への影響を考えさせる指導の工夫。

特定の課題に関する調査は、中学生が対象の調査であり、指導改善も中学校に向けられたものではあるが、学習内容を考えると、小学校の指導との関わりが大きい。多量の洗剤を使っても、汚れの落ち方にほとんど変わりが無いことを実験・観察などをして理解できる工夫を、小学校の授業の中で行いたい。

C 快適な衣服と住まい

項目	C(2) 快適な住まい方
事項	<p>ア 住まい方に関心をもって、整理・整頓や清掃の仕方が分かり工夫できること。 イ 季節の変化に合わせた生活の大切さが分かり、快適な住まい方を工夫できること。</p> <p>(内容の取扱い) (2)のイについては、主として暑さ・寒さ、通風・換気及び採光を取り上げること。</p>
評価規準の設定例	<p>関心意欲態度</p> <p>ア 整理・整頓や清掃に関心をもち、身の回りを快適に整えようとしている。 イ 季節の変化に合わせた生活の仕方に関心をもち、快適な住まい方について考えようとしている。</p>
	<p>創意工夫</p> <p>ア 身の回りを点検し、課題を見付け、整理・整頓や清掃の仕方について考えたり、自分なりに工夫したりしている。 イ 季節の変化に合わせた住まい方について課題を見付け、自分なりに快適な住まい方について考えたり、工夫したりしている。</p>
	<p>技能</p> <p>ア 身の回りの物の整理・整頓ができる。 汚れの種類や汚れ方に応じた清掃ができる。</p>
	<p>知識理解</p> <p>ア 身の回りの物の整理・整頓の仕方について理解している。 汚れの種類や汚れ方に応じた清掃の仕方について理解している。 イ 季節の変化に合わせた生活の大切さが分かり、快適な住まい方について理解している。 (・自然を生かした住まい方 ・暑さ・寒さへの対処の仕方 ・通風や換気の仕方 ・採光の工夫)</p>
小⇄中の関連	<p>【中学校】 C(2)ア 住居の基本的な機能 C(2)イ 安全な室内環境の整え方、快適な住まいの工夫</p>
指導内容	<p>身の回りの整理・整頓をしよう</p> <p>D(2)「環境に配慮した生活の工夫」と関連を図ることも考えられる。</p> <p>・机の中やロッカーの中を見て、気が付いたことを話し合おう。 ・整理・整頓の必要性とそのポイントについて話し合おう。 ・不用品やごみの始末の仕方を話し合おう。 (4Rや商品についているマークにも目を向ける。)</p>
活動例	<p>身の回りの汚れを調べ、きれいにしよう</p> <p>A(2)「家庭生活と仕事」と関連を図ることも考えられる。</p> <p>・教室のどこにどのような汚れが付いているか調べよう。 (セロテープや布に汚れをうつし取る。) ・ごみや汚れの影響について話し合おう。 ・家庭での気になる汚れやその解決方法を調査し、発表し合おう。 ・校内で汚れの気になる場所を探し、クリーン計画を立て実践しよう。</p>

<p>指導内容</p> <p>活動例</p>	<div style="text-align: center;">  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>快適な住まい方を考えよう</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・住まいの働きを考えよう。 ・昔の人の生活の知恵を調べよう。 ・暖かい住まい方，涼しい住まい方について話し合おう。 (線香の煙の動きを観察する。) ・照度計を使って部屋の明るさを調べよう。 ・部屋を明るくする方法を考えよう。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>C (1)「衣服の着用と手入れ」ア，D (2)「環境に配慮した生活の工夫」との関連を図ることも考えられる。 理科の第3学年，第4学年における日なたと日陰，空気と温度に関する学習内容や，体育科の第3学年，第4学年における健康によい生活に関する学習内容との関連を図るように配慮する。</p> </div>
<p>安全指導</p>	<p>暖房機の安全な扱い方</p>
<p>家庭・地域との連携</p>	<p>住まい方の工夫のインタビュー</p>
<p>言語事項</p>	<p>整理・整頓 清掃 通風 換気 採光 照明 暑さ 寒さ 4 R (リフューズ，リデュース，リユース，リサイクル)</p>
<p>発展的な学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・不用品を活用して清掃用具を作る。 ・環境を考えた住まい方について調べる。(太陽光発電，グリーンカーテン)

【 参 考 】

小学校，中学校，高等学校における住生活の重点

小学校

暑さ，寒さ，通風・換気及び採光に重点をおいた室内環境の整え方

中学校


安全に重点をおいた室内環境の整え方

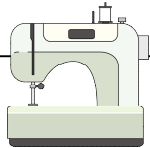
高等学校

住生活の文化に重点をおいた室内環境の整え方



C 快適な衣服と住まい

<p>項目</p>	<p>C(3) 生活に役立つ物の製作</p> <p>ア 布を用いて製作するものを考え、形などを工夫し、製作計画を立てること。 イ 手縫いや、ミシンを用いた直線縫いにより目的に応じた縫い方を考えて製作し、活用できること。 ウ 製作に必要な用具の安全な取扱いができること。</p> <p>(指導計画の作成) 学習の効果を高めるため、2学年にわたって取り扱い、平易なものから段階的に学習できるように計画すること。</p>
<p>評価規準の設定例</p>	<p>関心意欲態度 ア 身の回りの生活に役立つ布を用いた物の製作に関心をもっている。製作に必要な材料や用具等を準備し、見通しをもって製作しようとしている。 イ 手縫いやミシン縫いに関心をもち、目的に応じた縫い方で製作し、その楽しさや活用する喜びを味わっている。</p> <p>創意工夫 ア 家庭生活での布の活用について見直し、製作する物やその製作計画について考えたり、自分なりに工夫したりしている。 イ 手縫いやミシンを用いた直線縫いにより、目的に応じた縫い方について考えたり、自分なりに工夫したりしている。 製作した物を自分の生活で活用し、改善点を考えたり、自分なりに工夫したりしている。</p> <p>技能 イ なみ縫い、返し縫い、かがり縫いなどができる。 ミシンを用いて直線縫いをすることができる。 目的に応じて手縫いやミシンを用いた直線縫いで製作することができる。 ウ 製作に必要な用具の安全な取扱いができる。</p> <p>知識理解 ア 製作に必要な材料や用具が分かり、製作手順について理解している。 イ なみ縫い、返し縫い、かがり縫いなどの縫い方について理解している。 ミシンの基本的な操作が分かり、ミシンを用いた直線縫いの仕方について理解している。 ウ 製作に必要な用具の安全な取扱いについて理解している。</p>
<p>小⇄中の関連</p>	<p>【中学校】 C(3)ア 布を用いた物の製作、生活を豊かにするための工夫</p>
<p>指導内容</p> <p>活動例</p>	<p>布について調べよう</p> <p>・身の回りにある布製品を探そう。 ・触ったり、折ったり、光に透かしたり、ほぐしたり、引っ張ったりして、布のよさを見つけよう。</p> <p>針と糸を使ってみよう</p> <p>製作にあたっての支援例</p> <p>・裁縫箱に入っている物を調べ、名称と使い方を知ろう。 ・玉どめ、玉結びの仕方を知り、練習しよう。 ・名前の縫い取りをしよう。 ・なみ縫い、返し縫い、かがり縫いなどの縫い方を知り、練習しよう。 ・作りたいものを決め、手縫いで作品を作ろう。</p> <p>・実物の提示 ・実物投影機の活用 ・教師の師範 ・製作の順序に応じた標本 ・試用用の教材 ・ICT機器の活用(動画)</p> 

<p>指導内容</p> <p>活動例</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">ミシンを使おう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミシンの使い方を調べ、動かしてみよう。(直線縫い) (出し方, しまい方, 持ち運びの仕方, プラグの扱い方, 上糸のかけ方, 下糸の巻き方, 下糸の入れ方・出し方, 縫い始め, 縫い終わりの仕方, 返し縫いの仕方, 縫う方向の変え方, 縫い目の大きさの調整方法, 糸調子の合わせ方など) ・手縫いとミシン縫いの比較をし, それぞれのよさを見付けよう。 </div> <div style="text-align: right; margin-bottom: 10px;">  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; text-align: center;"> <p>身の回りの生活に役立つ物を製作しよう</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭生活の中でどのように布製品が活用されているか話し合い, 製作するものを考えよう。 ・製作するものを紙で作り, 形や大きさ, 作り方を考えよう。(縫いしろ, ゆとりの必要性 縫う手順など) ・製作計画に沿って作ろう。 ・出来上がった作品をお互いに見合おう。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> <p>C(1)「衣服の着用と手入れ」, C(2)「快適な住まい方」と関連させるとともに, A(3)ア「家族の触れ合いや団らん」と関連させることも考えられる。</p> </div>
<p>安全指導</p>	<p>慎重な針の扱い, はさみの安全な使い方や手渡し方, 火傷や電源に留意した機器の扱い, ミシンの移動や出し入れ</p>
<p>家庭・地域との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭にある布の活用 ・製作時にゲストティーチャーとして来てもらう。 ・製作した作品へのコメントの記入
<p>言語事項</p>	<p>ゆとり 縫いしろ 手縫い なみ縫い 返し縫い かがり縫い 糸端 玉結び 玉どめ 上糸 下糸 針目 しごく 糸こき 布目 みみ 三つ折り 二つ折り 布を裁つ</p>
<p>発展的な学習</p>	<p>不用になった衣服などを活用したリサイクル作品の製作</p>

【参考】

「生活に役立つ物の製作」作品例 <静岡県内の小学校で製作されている物>


5年


ナップザック トートバック 小物入れ ティッシュケース ペンケース エコバック ワッペン
給食用布巾 花布巾 ピンクッション 筆入れ ナプキン ランチョンマット エプロン 巾着袋
クッション 名札 ウォールポケット ティッシュボックスカバー 手さげ袋 ブックカバー
パソコンカバー キーホルダー マスコット お弁当袋 しおり 雑巾 給食袋 ボディーバック
マスコット ファイルカバー 眼鏡入れ 体操着袋 枕カバー リコーダー入れ コースター

6年

エプロン エコバック 巾着袋 ティッシュカバー ウォールポケット コースター ペンケース
給食袋 ペットボトルケース コーヒーメーカーカバー ゲーム機カバー クッション 手さげ
鍋敷き リサイクルクッション お弁当袋 雑巾 ナップザック 花布巾 ランチョンマット
防災頭巾 リュックサック トートバック 巾着袋 体操着袋 学校のテレビのカバー 箸入れ
ラジカセカバー 作業台の脚カバー ストラップ アームカバー 鍋つかみ 机カバー 抱き枕
枕カバー 給食用テーブルカバー CDカセットカバー お盆カバー 配膳台カバー のれん
CDケース 学級の救急袋 トイレトペーパーケース 座布団 ブックカバー マスコット
布カレンダー ポシェット シューズ袋 いすカバー

C 衣生活・住生活と自立

項目	C(1) 衣服の選択と手入れ	
事項	<p>ア 衣服と社会生活とのかかわりを理解し、目的に応じた着用や個性を生かす着用を工夫できること。</p> <p>イ 衣服の計画的な活用の必要性を理解し、適切な選択ができること。</p> <p>ウ 衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れができること。</p> <div style="border: 1px solid black; background-color: yellow; padding: 5px;"> <p>(内容の取扱い)</p> <p>ア (1)のアについては、和服の基本的な着装を扱うこともできること。(1)のイについては、既制服の表示と選択に当たっての留意事項を扱うこと。(1)のウについては、日常着の手入れは主として洗濯と補修を扱うこと。</p> </div>	
評価規準の設定例	関心意欲態度	<p>ア 衣服と社会生活との関わりに関心をもち、時・場所・場合に応じた衣服を着用しようとしている。</p> <p>ウ 衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れに関心をもち、洗濯や補修の課題に取り組もうとしている。</p>
	工夫創造	<p>ア 目的に応じた着用や個性を生かす着用について考え、工夫している。</p> <p>イ 目的に応じた衣服の適切な選択について、収集・整理した情報を活用して考え、工夫している。</p> <p>ウ 衣服の材料や状態に応じた洗濯や補修について考え、工夫している。</p>
	技能	<p>イ 既制服を選択するために必要な情報を収集・整理することができる。</p> <p>ウ 衣服の材料や汚れ方に応じた方法で日常着の洗濯ができる。補修の目的と布地に適した方法で衣服を補修することができる。</p>
	知識理解	<p>ア 衣服の社会生活上の機能について理解している。</p> <p>イ 衣服の計画的な活用の必要性を理解している。既制服の表示と選択に当たっての留意事項について理解している。</p> <p>ウ 洗濯の要点と方法について理解している。 (・衣服材料の手入れに関わる性質 ・洗剤の働きと種類 ・電気洗濯機を用いた洗濯の特徴 ・汚れ方に応じた洗い方) 補修の目的と布地に適した方法について理解している。</p>
小⇔中 関連	<p>【小学校】</p> <p>C(1)ア 衣服の働きと快適な着方の工夫</p> <p>C(1)イ 日常着の手入れとボタン付け及び洗濯</p>	
指導内容 活動例	<div style="border: 1px solid black; background-color: #e0f7fa; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>自分らしい着方を考えよう</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ユニフォーム、各職業の制服等を中心に衣服の社会生活上の機能について考える。(職業を表したり、行事などによって衣服や着方にきまりがあったりすることなど) ・自分たちの学校の制服の着方について話し合ったり、ゲストティーチャーに制服の着こなしについてアドバイスをしてもらったりする。 ・様々な場面を想定し、時・場所・場合にふさわしい着方の工夫を考える。 </div> <div style="text-align: center; margin-bottom: 10px;">  </div> <div style="border: 1px solid black; background-color: #e0f7fa; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>衣服の働きを考えよう</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・自分に似合う洋服の色を探す活動を通して、個性を生かす着用について考える。 ・私服を持ち寄り、どんな組み合わせ方があるか小グループで考える。 </div>	

<p>指導内容</p> <p>活動例</p>	<p>衣服の計画的な活用と選択について考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手持ちの衣服を調べ、よく着るものとそうでないものについて、理由を話し合う。 ・着ていない衣服の活用方法について考える。 ・既製服の選び方について話し合う。既製服の表示について調べる。 <p>日常着の手入れをしよう</p> <p>中学生が日常着として着用することの多い綿、毛、ポリエステルなどを取り上げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常着に使用されている衣服材料について調べる。 ・吸水性、吸湿性、防しわ性などの性質について実験を行う。 ・洗剤の働きについて実験を行う。 ・衣服の材料に応じた洗剤の種類について知る。 ・衣服の材料や汚れに応じた洗い方を知る。 ・洗濯機を用いた洗濯の仕方を理解し、実習を行う。 ・ドライクリーニング、ブラシかけ、収納などについて調べたり実践したりする。 ・まつり縫い、ミシン縫いによるほころび直し、スナップ付けの実習を行う。
<p>安全指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アイロンかけを実践する場合は、高温であることを知らせ、取扱いに十分注意する。 ・手縫い、ミシン縫いなどを行うときは、それぞれの用具の正しい使い方について触れる。
<p>家庭・地域との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・洗濯機を使った洗濯、アイロンかけなどの実践を家庭で行う。 ・浴衣の着方をゲストティーチャーに習う。
<p>言語事項</p>	<p>TPO 個性 浴衣 和服 取扱い絵表示 組成表示 寸法 リフォーム 補修 綿 毛 ポリエステル 防しわ性 吸水性 吸湿性 合成洗剤 せっけん 弱アルカリ性 中性 ブラシかけ まつり縫い スナップ 型くずれ 織物 編物</p>
<p>発展的な学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の民族衣装について調べる。 ・焼津「魚河岸シャツ」について調べる。 <p>通気性抜群。手ぬぐい生地で作った魚河岸シャツ</p> 

【参考】

まつり縫いができたのは半数未満 —中3対象の「特定の課題に関する調査」結果—

【出題内容】 <H19 国立教育政策研究所による全国規模の技術・家庭科についての学力調査>

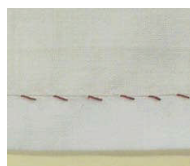
- ・糸の扱い方（糸の取り方・玉結びの仕方・玉どめの仕方）
- ・まつり縫いの縫い方
- 衣服の補修・製作の基礎的な技能として、まつり縫いを適切に行うことに課題
- ・まつり縫いの正しい縫い方を選ぶ問題の正答率は約 80%
- ・衣服の補修・製作の基礎的な技能として、まつり縫いが正しくできた生徒の割合は 46%

指導改善

- まつり縫いなどの基礎的な技能の習得とともに、実生活に必要な補修の場面に応じた対応を考えさせる指導の工夫が必要



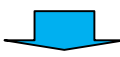
(表)



(裏)

C 衣生活・住生活の自立

項目	C(2) 住居の機能と住まい方	
事項	ア 家族の住空間について考え、住居の基本的な機能について知ること。 イ 家族の安全を考えた室内環境の整え方を知り、快適な住まい方を工夫できること。	
	<div style="background-color: yellow; padding: 5px;"> (内容の取扱い) イ (2)のアについては、簡単な図などによる住空間の構想を扱うこと。 </div>	
評価 規 準 の 設 定 例	関 心 意 欲 態 度	ア 自分や家族の住空間と生活行為との関わりについて関心をもって学習活動に取り組んでいる。 イ 安全で快適な室内環境に関心をもち、整え方や住まい方の課題に取り組もうとしている。
	工 夫 創 造	イ 室内環境について課題を見付け、調査・観察・実験などを通して、安全で快適な整え方や住まい方について考え、工夫している。
	技 能	
	知 識 理 解	ア 住居の基本的な機能について理解している。 イ 安全で快適な室内環境の整え方と住まい方に関する具体的な方法について理解している。(・家庭内事故の防止や自然災害への備え ・室内の空気調節 ・音と生活との関わり)
小⇔中 関 連	【小学校】 C(2)ア 住まい方への関心、整理・整頓及び清掃の仕方と工夫 C(2)イ 季節の変化に合わせた生活の大切さ、快適な住まい方の工夫	
指導内容 活動例	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> 中学校では、安全に重点を置いた室内環境の整え方について取り扱う。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> 各活動において、生徒のプライバシーに十分配慮する。 </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 住居の役割を知ろう <ul style="list-style-type: none"> ・家の中の生活行為をイメージし、住居の基本的な機能について知る。(風雨、寒暑などの自然から保護する、心身の安らぎと健康を維持する、子どもが育つ基盤としての働きなどがある。) ・住宅に関する鳥瞰図などの簡単な図を使い、住空間と生活行為との関わりを考える。 ・モデルの住居について、どのような住空間の使い方があるかを話し合う。 </div> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;"> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 安全な室内環境について考えよう <ul style="list-style-type: none"> ・シルバー体験やチャイルド体験などを行うことで、お年寄りや幼児の立場から家の中の安全を見直す。 ・家庭内で起こる事故について知り、その防ぎ方などの対策を考える。 ・バリアフリー、ユニバーサルデザインなどについて調べる。 </div> <div style="text-align: right; margin-top: 10px;"> </div> </div>	

	<div style="text-align: center;">  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">住居の地震対策について考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災や近年、静岡県内で起きた地震について資料などを基に話し合い、地震への備えの必要性について考える。 (※資料…静岡県防災センターから地震に関するパネル、VTR等の貸し出し可) ・住居の地震対策について調べたことを発表し合う。 ・自分の家の安全点検を行う。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">快適な室内環境について考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・化学物質、一酸化炭素、カビ、ダニなどによる室内空気の汚染について知り、快適な室内環境を整えるための工夫を考える。 ・騒音計などを使った計測により、音と生活について考える。 </div>
<p>安全指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・シルバー体験やチャイルド体験などをするときには、けがをしないよう事前の指導を十分行う。
<p>家庭・地域との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭での防災対策について調べたり、授業で考えたことを家庭で実践したりする。 ・地域の防災課の方を招き、話を聞く。
<p>言語事項</p>	<p>鳥瞰図 プライバシー バリアフリー ユニバーサルデザイン 化学物質 シックハウス症候群 ダニ 騒音 自然災害 防災</p>
<p>発展的な学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・住まいの防犯対策について考える。 ・住まいの火災防止の対策について考える。

【参考】

<学習指導要領における防災教育に関する記述>

C 衣生活・住生活と自立

(2) 住居の機能と住まい方について、次の事項を指導する。

イ 家族の安全を考えた室内環境の整え方を知り、快適な住まい方を工夫できること。


<防災に関するサイトの一例>

消防防災博物館は、インターネット上の博物館で、各地区にある防災センターを調べたり、防災に関する情報データベースを見たりすることができます。



C 衣生活・住生活の自立

項目	C(3) 衣生活・住生活などの生活の工夫	
事項	<p>ア 布を用いた物の製作を通して、生活を豊かにするための工夫ができること。</p> <p>イ 衣服又は住まいに関心を持ち、課題をもって衣生活又は住生活について工夫し、計画を立てて実践できること。</p> <p style="background-color: yellow;">(内容の取扱い)</p> <p>ウ (3)のアについては、(1)のウとの関連を図り、主として補修の技術を生かしてできる製作品を扱うこと。</p>	
評価規準の設定例	関心意欲態度	<p>ア 布を用いた物の製作に関心をもって取り組み、自分や家族の生活を豊かにしようとしている。</p> <p>イ 自分や家族の衣生活又は住生活をよりよくすることに関心を持ち、課題を主体的に捉え、製作や調査などの計画と実践に取り組もうとしている。</p>
	工夫創造	<p>ア 衣生活や住生活を豊かにするための製作品を考え、製作計画や方法について自分なりに工夫をしている。</p> <p>イ 自分や家族の衣生活又は住生活について課題を見付け、その解決を目指して製作や調査などの計画を自分なりに工夫している。 製作や調査などの実践の成果と課題についてまとめたり、発表したりしている。</p>
	技能	<p>ア 安全で能率よく、布を用いた物の製作をすることができる。(・目的に応じた縫い方・用具の安全な取扱い)</p>
	知識理解	<p>ア 布を用いた物の製作に関する知識を身に付けている。(・材料と用具の選択 ・製作手順 ・目的に応じた縫い方 ・用具の安全な取扱い)</p>
小⇔中 関 連	<p>【小学校】</p> <p>C(3)ア 形などの工夫と製作計画</p> <p>C(3)イ 手縫いやミシン縫いによる製作・活用</p> <p>C(3)ウ 用具の安全な取扱い</p>	
指導内容 活動例	<p style="background-color: #e0f2f1; border: 1px solid black; padding: 5px;">生活を豊かにする物を製作しよう</p> <p style="background-color: #e0f2f1; border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">作業見本、作業VTR等を準備し、個への支援ができるように配慮する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・製作するものを考え、製作計画を立てる。 ・計画に従って、製作を行う。 ・作品の発表会をする。(製作の目的、製作を振り返っての反省・感想、作品への思いなどを簡単なレポートにまとめて発表する。) ※言語活動の充実 </div> <p style="background-color: #e0f2f1; border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">※実習で扱う題材について<布を用いた簡単な衣服や小物の製作></p> <ul style="list-style-type: none"> ・完成後に活用することにより、自分や家族の生活が豊かになるような物を設定する。その際、生徒が製作の目的を明確にもつことができ、生徒の個性や工夫が生かせるように配慮する。 ・C(2)のイや「A家族・家庭と子どもの成長」の(3)のイ、「D身近な消費生活と環境」の(2)の学習との関連を図り、題材を設定することも考えられる。 	

	<div style="text-align: center;">  </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p>A (3)エ, B (3)ウ, C (3)イについては生徒の興味・関心に応じて1又は2事項を選択して履修させる。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; background-color: #e0f0ff; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 60%; text-align: center;"> <p>【選択】衣生活または住生活の課題と実践</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 90%; background-color: #fff9c4;"> <p>衣生活又は住生活を見直す→課題を見つける→計画する→実践する→評価する→改善する</p> </div> <p><課題の例></p> <ul style="list-style-type: none"> ・着用されなくなった衣服を他の衣服に作り直す, 再利用 ・自分や家族の衣服の洗濯や補修など ・安全に生活する視点から, 家の中で危険な箇所について調査し, 事故を防ぐ手だてとなるものを製作したり, 防災に必要な物を備えたりすることなど
安全指導	<ul style="list-style-type: none"> ・ミシンや縫い針, 裁ちばさみ, アイロンなど製作に使用する用具について使用上の注意を十分行う。
家庭・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・出来上がったものを家族や地域の方に贈る。 ・保護者や地域の方に授業中のミシンの補助をお願いする。
言語事項	<p>まち針 針山 裁ちばさみ 糸切りばさみ アイロン するしつけ チャコペンシル チャコペーパー ルレット ミシン みみ わ 三つ折り縫い</p>
発展的な学習	

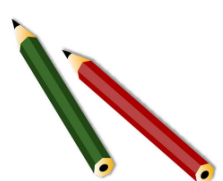
【参考】

「布を用いた物の製作」の作品例<静岡県内の中学校で製作されている物>

エコバック ハーフパンツ・イージーパンツ・カーゴパンツ等 Tシャツ 法被 マイクロファイバークリーナー 箸袋 ペットボトルホルダー お弁当風呂敷 巾着 ブックカバー 小物入れ おもちゃ ティッシュボックスカバー ハンガー ランチョンマット 布の絵本 トイレットペーパーホルダー クッション ペンケース 等

※様々な物が製作されていますが, C (3)アは, 製作することが最終目的ではなく, 布を用いた物の製作を通して, 生活を豊かにするための工夫ができることが指導事項です。何を作ると自分の生活が豊かになるのか考えることが大切です。

D 身近な消費生活と環境

項目	D(1) 物や金銭の使い方と買い物												
事項	<p>ア 物や金銭の大切さに気づき、計画的な使い方を考えること。 イ 身近な物の選び方、買い方を考え、適切に購入できること。</p> <p>(内容の取扱い) ア(1)のイについては、「A家庭生活と家族」の(3)、「B日常の食事と調理の基礎」の(3)並びに「C快適な衣服と住まい」の(2)及び(3)で扱う用具や実習材料などの身近なものを取り上げること。</p>												
評価規準の設定例	<p>関心意欲態度 ア 自分の生活との関わりから、物や金銭の大切さに気付き、その使い方に関心をもっている。 イ 身近な物の選び方や買い方に関心を持ち、適切に買物をしようとしている。</p>												
	<p>創意工夫 ア 生活で使う身近な物や金銭の使い方を見直し、計画的な使い方を考えたり、自分なりに工夫したりしている。 イ 購入しようとする物の品質や価格などの情報を活用し、目的に合った物の選び方や買い方について考えたり、自分なりに工夫したりしている。</p>												
	<p>技能 イ 購入しようとする物の品質や価格などの情報を集め、整理することができる。</p>												
	<p>知識理解 ア 限りある物や金銭の有効な使い方について理解している。 イ 目的や品質を考えた物の選び方や適切な買い方について理解している。</p>												
小⇄中の関連	<p>【中学校】 D(1)ア 消費者の基本的な権利と責任 D(1)イ 販売方法の特徴、物資・サービスの選択、購入及び活用</p>												
指導内容	<p>身近な消費生活における自分の課題に気づき、進んで計画的な使い方を考えることができるようにする。</p> <p>自分の持ち物や物の使い方を振り返ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の筆箱の中身を調べ、買った物をどのように使っているか見直す。 ・自分の筆箱に何がいくつ入っているか、気付いたことをワークシートに記入する。 ・計画的な買い物ができているのか、持ち物を大切に使っているか振り返る。 												
活動例	<p>《ワークシートの例》</p> <p>1 筆箱の中身をチェックしよう。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>入っていた物</th> <th>数量</th> <th>およその値段</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>えんぴつ</td> <td>6本</td> <td>約300円</td> </tr> <tr> <td>色えんぴつ</td> <td>6本</td> <td>約400円</td> </tr> <tr> <td>コンパス、定規</td> <td>各1</td> <td>約500円</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">合計1200円</p> <p>2 気付いたこと 同じような物がいくつもあって、無駄が多いと思った。</p> 	入っていた物	数量	およその値段	えんぴつ	6本	約300円	色えんぴつ	6本	約400円	コンパス、定規	各1	約500円
入っていた物	数量	およその値段											
えんぴつ	6本	約300円											
色えんぴつ	6本	約400円											
コンパス、定規	各1	約500円											

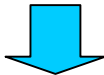

	<p>品物の買い方について考えよう</p> <p>児童を取り巻く環境に十分配慮しながら扱う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が生活をするのに何にお金が使われているか考えよう。 ・働いて収入を得て、生活のために使っていることを押さえる。 ・買い物の経験について紹介し合おう。 (楽しかったこと。難しかったこと。うまくいったこと。失敗したこと。) ・買い物の仕方を考えよう。 <p>必要性を考える → 計画する → 買う → 振り返る</p> <p>商品の品質や価格などの情報を集め、整理をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調理実習で使う材料を購入場面を想定し、品物の選び方、買い方を考えよう。
<p>安全指導</p>	
<p>家庭・地域との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物で気を付けていることを家の人に聞く。 ・家の人と一緒に買い物に行く。 ・お使いに行く。 ・おこづかいの使い方について、家の人と話し合う。
<p>言語事項</p>	<p>収入 支出 購入 予算 プリペイドカード 品質 賞味期限 貯金 通信販売</p>
<p>発展的な学習</p>	<p>学校行事でのお土産を買う場面において、家庭科で学習したことを生かして、買い物の計画を立てたり購入したり、振り返りをしたりする。</p>

【参考】＜1時間の授業展開例＞

品物の買い方を考えよう「買い物名人になろう」 2/5時 展開

時間	学習活動	指導上の留意点
5分	<p>1 買い物名人になるにはどんなことに気を付ければよいか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無駄遣いしない。 ・安い品物を選ぶ。 ・よい品物を選ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族の買い物の様子を思い浮かべさせる。
15分	<p>2 買い物の模擬体験を通して商品を選ぶとき気を付けることを考える。</p> <p>500円で家族みんなで楽しめるお茶会のおやつをスーパー〇〇で買しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに家族の人数・予算を書き込む。 ・品物を選び、買った訳をワークシートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・拡大ワークシート・電卓を用意する。 ・お菓子とお菓子カードを準備しておく。 ・家族が働いて得たお金の一部を預かることを確認する。 ・家族に思いを寄せられるようにする。 ・表の記入方法を具体的に説明する。 ・よく商品を確認してから買うように助言する。
20分	<p>3 意見交換を通して、おやつのお買い物の仕方を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアで意見交換する。 ・おやつを選ぶ視点について発表する。 <p>自分の好み 家族の好み 味 値段 量 大きさ 賞味期限 製造年月日 おまけ 原材料 マーク パッケージ ごみの量など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物視点カード・お菓子の写真を用意する。 ・家族との団らんを意識している意見を取り上げる。 ・買わなかった子どもの意見も取り上げる。 ・友達の発表から学んだことをワークシートに記入させる。
5分	<p>4 今日の学習で学んだことを発表し、どのように生活に生かすのかを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・品質表示マークの例を用意する。 ・自分の生活に必要なものは何かを考えて、商品を選ぶことにふれる。 ・家庭での実践報告会があることを知らせる。

D 身近な消費生活と環境

項目	D(2) 環境に配慮した生活の工夫	
事項	ア 自分の生活と身近な環境とのかかわりに気付き、物の使い方などを工夫できること。	
	(内容の取扱い) イ(2)については、「B日常の食事と調理の基礎」又は「C快適な衣服と住まい」との関連を図り、実践的に学習できるようにすること。	
評価規準の設定例	関心意欲態度	ア 自分の生活と身近な環境との関わりに関心を持ち、物の使い方などを見直し、環境に配慮した生活をしようとしている。
	創意工夫	ア 自分の生活を見直し、環境に配慮した物の使い方などについて考えたり、自分なりに工夫したりしている。
	技能	
	知識理解	ア 環境に配慮した物の使い方などについて理解している。
小⇄中の関連	【中学校】 D(2)ア 環境に配慮した消費生活の工夫と実践	
指導内容 活動例	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">自分たちの生活を振り返ろう</div>	
	<p>・自分たちがしている行動で「環境によいと思うこと」「環境によくないと思うこと」にはどのようなものがあるか出し合おう。</p> <p>【学校生活】 <input type="radio"/> プリント類は、分別をしてリサイクルをしている。 <input type="radio"/> 他の教室に行くときは、きちんと電気を消している。 <input type="radio"/> 水道の水を出しっぱなしにしない。 <input checked="" type="radio"/> 給食を残してしまう。 <input checked="" type="radio"/> 落とし物の持ち主が現れず、ごみになってしまう。 <input checked="" type="radio"/> 鉛筆や消しゴムを買い過ぎている。</p> <p>【家庭生活】 <input type="radio"/> 買い物には、エコバックを持って行く。 <input type="radio"/> 生ごみは、肥料にしている。 <input type="radio"/> ペットボトルは、スーパーのリサイクルボックスに入れている。 <input checked="" type="radio"/> 毎日ごみがたくさん出る。 <input checked="" type="radio"/> 歯磨きのとき、水を出しっぱなしにしている。</p>	
		

<p>指導内容</p> <p>活動例</p>	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">家庭科の授業で実践してきた環境によい行動について振り返ろう</p> <p>・自分たちが今まで家庭科の授業で実践してきた環境によいと思う行動について話し合おう。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 20px; padding: 10px;"> <p>【調理実習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○材料を無駄のないように切り，できるだけごみが出ないようにした。 ○水を出しっぱなしにしないように気を付け，資源の無駄使いをしないようにした。 ○汚れたお皿などは，いらぬ布などで拭き取ってから洗うようにして，川や海を汚さないように気を付けた。 <p>【衣生活・住生活】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○夏は涼しく，冬は暖かい格好をして，冷房や暖房で電気を使い過ぎないようにした。 ○風通しをよくしたり，暖かさを逃さないようにしたりする住生活の工夫を考えた。 ○使えなくなったタオルや衣服を利用して，生活に役立つ物を製作した。 </div>
<p>安全指導</p>	
<p>家庭・地域との連携</p>	<p>・環境について配慮していることを調べる。</p> <p>・地域の環境について考える団体等があれば，ゲストティチャーとして招き話を聞いたリ質問に答えてもらったりする。</p>
<p>言語事項</p>	<p>環境 エコ リサイクル リデュース リフューズ リユース 3つのR 4つのR 資源</p>
<p>発展的な学習</p>	<p>各自の課題について追究したり実践したりする。</p>

【参考】

学校や家庭での実践で，「こども環境家計簿」をつけることも考えられます。

こども環境家計簿 「こども環境家計簿 自由研究ソフト編」 こどもくらぶ・編 同友館発行
A 1週間ライフスタイルチェック



●今日は目標を達成できたかな。 プラス1
 ・できたら
 ・まあまあなら
 ・ちょっと無理だったら マイナス1
 ・空らんは自分の目標を書きこんでね。

第1週

目標	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
部屋の電気を ごまめに消す										
テレビをつけば なしにしない										
水道を出しっぱなし にしない										
ゴミを捨てるとき 分別して出す										
合計 今日はプラスに なったかな	点	点	点	点	点	点	点	点	点	点
	😊😊😊	😊😊😊	😊😊😊	😊😊😊	😊😊😊	😊😊😊	😊😊😊	😊😊😊	😊😊😊	😊😊😊

計算してプラスになったら このマークをぬろう	😊
計算して0になったら このマークをぬろう	😊😊😊
計算してマイナスになったら このマークをぬろう	😞

D 身近な消費生活と環境

項目	D(1) 家庭生活と消費	
事項	<p>ア 自分や家族の消費生活に関心をもち、消費者の基本的な権利と責任について理解すること。</p> <p>イ 販売方法の特徴について知り、生活に必要な物資・サービスの適切な選択、購入及び活用ができること。</p> <div style="border: 1px solid black; background-color: #ffff00; padding: 5px;"> <p>(内容の取扱い)</p> <p>ア 内容の「A家族・家庭と子どもの成長」、「B食生活と自立」又は「C衣生活・住生活と自立」の学習との関連を図り、実践的に学習できるようにすること。</p> <p>イ (1)については、中学生の身近な消費行動と関連させて扱うこと。</p> </div>	
評価規準の設定例	関心意欲態度	<p>ア 自分や家族の消費生活について関心をもち、消費の在り方を改善しようとしている。</p> <p>イ 身近な販売方法に関心をもち、その利点と問題点について考えようとしている。</p>
	工夫創造	<p>イ 収集・整理した情報を活用して物資・サービスの選択、購入及び活用について考え、工夫している。</p>
	技能	<p>イ 物資・サービスの選択、購入及び活用について必要な情報を収集・整理することができる。</p>
	知識理解	<p>ア 消費者の基本的な権利と責任、消費者基本法の趣旨について理解している。</p> <p>イ 中学生に関わりの深い販売方法の特徴について理解している。</p> <p>物資・サービスの選択、購入及び活用に関する知識を身に付けている。</p>
小⇄中の関連	<p>【小学校】</p> <p>D(1)ア 物や金銭の大切さ、計画的な使い方</p> <p>D(1)イ 身近な物の選び方、買い方</p>	
指導内容 活動例	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>消費生活について振り返ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数社の商品からどれを選ぶか討論する。(例：デジタルカメラなど) <p>生活に必要な物資・サービスの選択、購入に当たっては、本当に必要かどうかの判断が大切であることに気付くようにし、多くの情報の中から適切な情報を収集・整理し、物資・サービスの適切な選択ができるようにする。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>販売方法と支払い方法の特徴を考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な販売方法と支払い方法の長所や短所をまとめ、その特徴を理解する。 ・様々な事例から契約の持つ意味について考える。 </div> <div style="width: 45%;"> <p>生徒のプライバシーに十分配慮する。</p> </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>消費者トラブルを解決しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な悪質商法のロールプレイングを通して、被害を防ぐ方法や被害に遭ったときの対処方法などを理解する。 ・消費者の権利と責任を知り、消費者基本法の趣旨を知る。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>買い物シミュレーションをしてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が欲しいと思う商品について、既習の知識を生かして購入計画を立てる。 </div> <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">   </div>	

	<p>指導に当たっては、D(1)のイとの関連を図り、中学生にかかわりの深い事例を取り上げて、消費生活に関心をもたせるとともに、主体的に学習できるように配慮する。</p> <p>例えば、消費者にかかわるトラブルについてロールプレイングしたり、地域の消費生活センターを見学したりするなどの学習活動が考えられる。</p> <p>(1)イの販売方法の特徴と選択、購入、活用の学習については、内容A、B、Cの学習との関連を図り、例えば、食品や衣服、遊び道具の材料の選択、購入などの具体的な場面を取り上げるなど、実践的な学習となるよう配慮する。</p>
安全指導	
家庭・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・自分や家族の購買経験の調査 ・地域の消費生活センター訪問や消費者クラブ等との交流
言語事項	<p>物資 サービス 選択 購入 品質表示 店舗販売 無店舗販売 通信販売 前払い 後払い 即時払い 契約 アフターサービス プリペイドカード キャッシュカード クレジットカード 悪質商法 消費者基本法 消費生活センター</p>
発展的な学習	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の消費生活センター等を訪問し、地域の消費者問題についてインタビュー

【 参 考 】 授業展開例「地域で活動している人から学ぶ消費者の権利と責任」

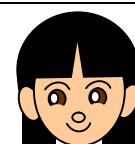
- 題材名：「めざせ！かしこい消費者」 * ゲストティーチャー：地域の消費者クラブの方々
- 本時の目標

消費者クラブの悪質商法の劇を見ることを通して、現代の消費生活の問題点について理解を深め、適切な対処方法を知る。(知識・理解)

学習活動	◎支援 ※評価 ◇留意点
<p>○消費者クラブのみなさんによる「消費者トラブル」の劇を見て、自分だったらこんな時どうするか考えてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひどいなあ。 ・こんなことでだまされるのか。 <p>○被害に遭わないために、どのように対処すればよいか考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電話を切って家族にすぐかけ直す。 ・無視する。 ・実際にあったらだまされてしまうかも…。 <p>○班で発表しよう。</p> <p>○消費者クラブの方々から、みんなの対処方法について助言してもらおう。</p> <p>○消費者トラブルへの対処方法について分かったことをまとめてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とにかく落ち着いてすぐに信用しない。 ・いらなときは、はっきり断る。 	<p>◇「キャッチセールス」「オレオレ詐欺」「インターネット詐欺」についての劇を見て、被害の状況を理解させる。</p> <p>◇空欄を作った会話文を配布し、その続きを考える。</p> <p>◇生徒の意見のよさを認めるアドバイスをもらう。</p> <p>※適切な対処方法が分かったか。(ワークシート)</p>

D 身近な消費生活と環境

項目	D(2) 家庭生活と環境	
事項	<p>ア 自分や家族の消費生活が環境に与える影響について考え、環境に配慮した消費生活について工夫し、実践できること。</p> <p>(内容の取扱い) ア 内容の「A 家族・家庭と子どもの成長」、「B 食生活と自立」又は「C 衣生活・住生活と自立」の学習との関連を図り、実践的に学習できるようにすること。</p>	
評価規準の設定例	関心意欲態度	ア 自分や家族の消費生活が環境に与える影響について関心をもち、環境に配慮した消費生活を実践しようとしている。
	創意工夫	ア 自分や家族の消費生活を点検し、環境に配慮した消費生活について考えたり、実践を通して自分なりに工夫したりしている。
	技能	
	知識理解	ア 自分や家族の消費生活が環境に与える影響について理解している。環境に配慮した消費者生活に関する知識を身に付けている。
小⇄中の関連	<p>【小学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ A(3)イ 近隣の人々とのかかわり ・ B(3) 調理の基礎 ・ C(2) 快適な住まい方 ・ C(3) 生活に役立つ物の製作 ・ D(2)ア 身近な環境とのかかわり、物の使い方の工夫 	
指導内容 活動例	<p>めざせ「グリーン・コンシューマー」</p> <p>環境に配慮した生活について考えよう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 商品の包装や容器から環境を考える。 ・ 使い捨て容器とリサイクル可能な容器、食品の包装から、価格、利便性、環境への影響などを考え、比較・検討する。 <p>環境に配慮した消費生活が循環型社会を形成する基盤となることに気付かせる。</p> <p>地域のエコエコ大作戦</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭生活中で利用されている水、電気、ガスの利用状況を調べ、環境に配慮した生活を考える。 ・ 我が家でできる「節電大作戦」を考えて発表する。 ・ 地域のゴミ減量作戦を考えよう。「我が家でできる 簡単 ゴミ減量大作戦」を考えて発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 環境に影響を与えている消費生活について、具体的にとらえさせ、自分の生活に結び付けた課題の解決に向けて、継続的に実践出来るように配慮する。 ・ 社会において主体的に生きる消費者をはぐくむため、内容「B 食生活と自立」又は「C 衣生活・住生活と自立」の学習との関連を図り、食品の選択や調理、製作などの具体的な場面を取り上げるなど実践的な学習となるように配慮する。 	



安全指導	
家庭・地域との連携	・我が家の暮らしチェック(電気・水道・ガス) ・地域や家庭のゴミ処理調査
言語事項	循環型社会 持続可能な社会 光熱費 リデュース リユーズ リサイクル 容器リフューズ リペアー エコロジー 包装の識別表示 グリーンマーク ゴミの減量化
発展的な学習	・世界の環境問題(温暖化, 酸性雨, オゾン層の破壊 等)


【参考】「環境教育に参考となるコンテンツ」

経済産業省 資源エネルギー庁 (<http://www.enecho.meti.go.jp/>)


政府の節電ポータルサイト 「節電.go.jp」 (<http://setsuden.go.jp/>)

<他内容に関連させた授業例>


題材例	学習内容	関連
環境に配慮した調理実習の工夫をしよう	・大根一本を使って、大根菜飯、大根の煮物、大根の皮のきんぴらの調理をする。これらの実習から食材の有効利用について考えさせる。	B(3)ア, イ
環境に配慮した調理実習の片付けについて考えよう	・ハンバーグの調理実習の後のフライパンの汚れの取り方についてA, Bの水の使用量について比較する。 A: ペーパーで汚れを拭き取り、適量濃度の洗剤液を洗いおけに作り、つけ置き後ためすすぎをしたもの B: スポンジに洗剤液を付け、フライパンを洗い、あらかじめバケツに計り入れた水を使って洗ったもの	B(3)ア, イ
衣服の一生を考えよう	・購入計画を立てるときに、使用できなくなったらどのように有効利用できるかを考えさせる。	C(1)イ
不要になった布を使って、生活を豊かにする小物を作ろう	・着られなくなった衣服を活用して、小物を作る。 裏布に古着を利用したブックカバー	C(3)ア



裏布に古着を利用したブックカバー



ジーンズを利用したバッグ



3 指導計画の作成と内容の取扱い

(1) 小学校

ア 指導計画の作成

- 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮する。〔学習指導要領解説 P54〕
 - ◇ 題材の構成に当たっては、児童の実態を的確にとらえるとともに、内容相互の関連を図り、指導の効果を高めるようにすること。
 - ◇ 内容Aの(1)ア 成長の自覚、家庭生活と家族の大切さについては、第4学年までの学習を踏まえ、2学年間の学習の見通しを立てさせるために、第5学年の最初に履修させるとともに、内容AからDまでの学習と関連させるようにすること。
 - ◇ Bの(3)及びCの(3)については、2学年にわたって取り扱い、平易なものから段階的に学習できるよう計画すること。
 - ◇ 道德教育の目標に基づき、道德の時間などとの関連を考慮しながら、家庭科の特質に応じて適切な指導をすること。

題材とは、目標の実現を目指して、各項目に示される指導内容を指導単位にまとめて組織したもの

- 題材の構成 〔学習指導要領解説 P55〕
 - ◇ 題材の構成に当たっては、関連する内容を続けて学習したり、関連する内容を組み合わせたりするなどして、効果的な学習指導が進められるように工夫する。
 - ◇ 家庭生活は総合的なものであり、児童の家庭生活に対する意識は、衣、食、住を分化してとらえているわけではないので、AからDの各内容項目間の関連に着目した視点で題材を構成する工夫も考えられる。
 - ◇ 実践的・体験的な活動をより一層充実させるためにも、各題材に適切な時間を配分するように留意する。学校や児童の実態を考慮し、教科のねらいを踏まえて適切な授業時数を割り振る。

- 道德の時間などとの関連 〔学習指導要領解説 P56〕
 - ◇ 道德教育の目標に基づき、道德の時間などとの関連を考慮しながら、家庭科の特質に応じて適切な指導をすること。
 - ◇ 学習活動や学習態度への配慮、教師の態度や行動による感化を意識する。
 - ◇ 家庭科の目標と道德教育との関連を明確にする。
 - 「日常生活に必要な知識や技能を身に付け、生活をよりよくしようとする態度を育てる。」
 - 生活習慣の大切さを知り、自分の生活を見直す。
 - 「家庭生活を大切にす心情をはぐくむ」
 - 家族を敬愛し、楽しい家庭をつくり、家族の役に立つことをしようとする。
 - ◇ 家庭科で扱った内容や教材の中で適切なものを道德の時間に活用

イ 内容の取扱い

○ 家庭との連携 [学習指導要領解説 P60]

◇家庭との連携を図り，児童が身に付けた知識及び技能などを日常生活に活用するよう配慮するものとする。

○ 実習の指導について [学習指導要領解説 P58～60]

- (1) 服装を整え，用具の手入れや保管を適切に行うこと。
- (2) 事故の防止に留意して，熱源や用具，機械などを取り扱うこと。
- (3) 調理に用いる食品については，生の魚や肉は扱わないなど，安全・衛生に留意すること。

○ 言語活動の充実 [学習指導要領解説 P61～62]

◇衣食住など生活の中の様々な言葉を実感を伴って理解する学習活動や，自分の生活における課題を解決するために言葉や図表などを用いて生活をよりよくする方法を考えたり，説明したりするなどの学習活動が充実するよう配慮するものとする。

※家庭科における「言語活動の充実」のとらえ

○ 知識・技能の活用など思考力・判断力・表現力等を育む学習活動の充実

- (1) 体験から感じ取ったことを表現する。
 - ・言葉や作品で表現する
- (2) 事実を正確に理解し伝達する。
 - ・観察の結果を記述・報告する
- (3) 概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする。
 - ・衣食住や健康・安全などに関する知識を活用して自分の生活を管理する
- (4) 情報を分析・評価し、論述する。
 - ・生活情報などを調べ、分析し、根拠に基づき説明する
- (5) 課題について、構想を立て実践し、評価・改善する。
 - ・ものづくりなどにおいて構想をねり、創作活動を行い、その結果を評価し、工夫・改善する
- (6) 互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる。
 - ・健康、快適な生活の方法を伝え、考えを深める

学習指導要領

各内容の指導に当たっては、衣食住など生活の中の様々な言葉を実感を伴って理解する学習活動や、自分の生活における課題を解決するために言葉や図表などを用いて生活をよりよくする方法を考えたり、説明したりするなどの学習活動が充実するよう配慮するものとする。

製作や調理などにおける体験を通して生活の中の様々な言葉を実感を伴って理解するような学習活動の充実

例えば…

- ・調理実験の結果を正確に記述し考察する。
- ・調理がうまくいった理由やそうでなかった理由を食品の調理上の性質を基に考え発表する。
- ・日常着の手入れをする活動の後に、体験から感じ取ったことをまとめて考察し、発表する。
…等の学習活動を充実させる。

体験したことが実感を伴う理解となる。

言葉や図表、概念などを用いて、自分の課題に基づき生活をよりよくする方法を考えたり、実習などで体験したことを説明したり、表現したり、話し合ったりする学習活動の充実

例えば…

- ・食事や住まいの振り返りなどから
問題点や改善点などを考える場面、
課題解決のために計画を立てる場面、
解決したことをまとめ、発表する場面で、
献立表や室内の清掃方法などについて、図表を用いて自分の考えを発表する。
…等の学習活動を充実させる。

【参 考】「言語活動の充実に関する指導事例集～思考力，判断力，表現力の育成に向けて～
小学校版 平成 22 年 12 月 文部科学省」

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/genngo/1301088.htm

(2) 中学校

ア 指導計画の作成

○ 3 学年間を見通した全体的な指導計画 [学習指導要領解説 P72]

- ◇中学校3年間を通して、いずれかの分野に偏ることなく授業時数を配当する。
- ◇内容Aの(3)エ、内容Bの(3)ウ、内容Cの(3)イについては、これら3事項のうち、1又は2事項を選択して履修させる。(「生活の課題と実践」)
- ◇内容Aの(1)自分の成長と家族については、小学校家庭科などの学習を踏まえ、中学校における学習の見通しを立てさせるガイダンス的な内容として、第1学年の最初に履修させる。

○ 配当する授業時数及び履修学年 [学習指導要領解説 P73]

- ◇内容AからDの各項目に配当する授業時数及び履修学年については、地域、学校及び生徒の実態に応じて、各学校において適切に定める。

題材とは、教科の目標及び各分野の目標の実現を目指して、各項目に示される指導内容を指導単位にまとめて組織したもの

○ 題材の設定 [学習指導要領解説 P74]

- ◇小学校における家庭科及び図画工作科等の関連する教科の指導内容や中学校の他教科等との関連を図り、教科のねらいを十分達成できるよう基礎的・基本的な内容を押さえたもの。
- ◇生徒の発達の段階に応じたもので、興味・関心を高めるとともに、生徒の主体的な学習活動や個性を生かすことができるもの。
- ◇生徒の日常生活とのかかわりや社会とのつながりを重視したもので、自己の生活の向上とともに家庭や地域社会における実践に結び付けることができるもの。

○ 道徳の時間などとの関連 [学習指導要領解説 P75]

- ◇道徳教育の目標に基づき、道徳の時間などとの関連を考慮しながら、技術・家庭科の特質に応じて適切な指導をすること。
- ◇学習活動や学習態度への配慮、教師の態度や行動による感化を意識する。
- ◇技術・家庭科の目標と道徳教育との関連を明確にする。
 - 「生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得する」
 - 望ましい生活習慣を身に付けるとともに、勤労の尊さや意義を理解することにつながる。
 - 「進んで生活を工夫し創造しようとする態度を育てる」
 - 家族への敬愛の念を深めるとともに、家庭や地域社会の一員としての自覚をもって自分の生き方を考え、生活をよりよくしようとするにつながる。

イ 内容の取扱い

○ 実践的・体験的な学習活動の充実 [学習指導要領解説 P76]

◇実践的・体験的な学習活動を重視し、仕事が楽しいと感じたり、自分が作品を完成させることができたという達成感を味わったり、さらに、失敗や困難を乗り越えやり遂げたという成就感を味わう学習となるよう工夫する。

◇生徒が学習の中で習得した知識と技術を生活の場で生かせるよう、生徒の実態を踏まえた具体的な学習活動を設定する。

発達の段階や学習の
ねらいを考慮

製作、整備、操作、調理などの実習や
観察・実験、見学、調査・研究などを設定

○ 問題解決的な学習の充実 [学習指導要領解説 P77]

◇生徒自らが課題を発見し、習得した知識及び技術を活用し意欲をもって追究し、解決のための方策を探るなどの学習を繰り返し行い、問題解決能力を育成する。

「問題解決能力」とは
生活を営む上で生じる課題に対
して、自分なりの判断をして課題
を解決することができる能力

- 課題に対して様々な角度から考える思考力
- その思考力を総合して解決を図る判断力
- 判断した結果を的確に創造的に示すことのできる表現力等

○ 家庭や地域社会との連携 [学習指導要領解説 P77]

◇生活を工夫し創造する能力と実践的な態度をはぐくむための指導を充実させる。

◇家庭や地域社会における身近な課題を取り上げて学習したり、学習した知識と技術を実際の生活で生かす場面を工夫したりするなど、生徒が学習した知識と技術を生活に活用できるよう指導する。

○ 学習指導と評価 [学習指導要領解説 P78]

◇生徒の特性や生活体験等の把握、個に応じた題材の設定、生徒による学習課題や学習コースの選択、学習形態の工夫について配慮する。

◇指導計画の立案の段階から評価計画を組み込み、評価を学習指導に生かす。評価場面においては、深い生徒理解と生徒に対する具体的な言葉かけなどにも配慮する。

○ 安全管理について [学習指導要領解説 P80]

◇施設・設備の安全管理に配慮し、学習環境を整備するとともに、火気、用具、材料などの取扱いに注意して事故防止の指導を徹底し、安全と衛生に十分留意する。

※技術・家庭科における「言語活動の充実」のとらえ

○ 知識・技能の活用など思考力・判断力・表現力等を育む学習活動の充実

- (1) 体験から感じ取ったことを表現する。
 - ・言葉や作品で表現する
- (2) 事実を正確に理解し伝達する。
 - ・観察の結果を記述・報告する
- (3) 概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする。
 - ・衣食住や健康・安全などに関する知識を活用して自分の生活を管理する
- (4) 情報を分析・評価し、論述する。
 - ・生活情報などを調べ、分析し、根拠に基づき説明する
- (5) 課題について、構想を立て実践し、評価・改善する。
 - ・ものづくりなどにおいて構想をねり、創作活動を行い、その結果を評価し、工夫・改善する
- (6) 互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる。
 - ・健康、快適な生活の方法を伝え、考えを深める

中学校学習指導要領 技術・家庭編

各分野の指導については、衣食住やものづくりなどに関する実習等の結果を整理し考察する学習活動や、生活における課題を解決するために言葉や図表、概念などを用いて考えたり、説明したりするなどの学習活動が充実するよう配慮するものとする。

実習等の結果を整理し考察する学習活動の充実

例えば…

- ・調理実験の結果を正確に記述し考察する。
- ・調理がうまくいった理由やそうでなかった理由を食品の調理上の性質を基に考え発表する。
- ・幼児と触れ合う活動の後に、体験から感じ取ったことをまとめて考察し、発表する。
…などの学習活動を充実させる。

体験したことが客観性や科学性を伴う理解となる。

生活における課題を解決するために言葉や図表、概念などを用いて考えたり、説明したりするなどの学習活動の充実

例えば…

- ・食事点検や住まいの安全点検などから
問題点や改善点などを考える場面、
課題解決のために計画を立てる場面、
解決したことをまとめ、発表する場面で、
献立表や室内の安全マップなどの図表を用いて自分の考えを発表する。
…などの学習活動を充実させる。

【参 考】「言語活動の充実に関する指導事例集～思考力、判断力、表現力の育成に向けて～
中学校版 平成 22 年 5 月 文部科学省」

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/gengo/1306108.htm

エ 生活の課題と実践

(指導計画の作成)

[学習指導要領解説P71]

1 (1) …前略… その際、家庭分野の内容の「A家族・家庭と子どもの成長」の(3)のエ、「B食生活と自立」の(3)のウ及び「C衣生活・住生活と自立」の(3)のイについては、これら3事項のうち1又は2事項を選択して履修させること。

学習した知識と技術などを活用し、これからの生活を展望する能力と実践的な態度をはぐくむことの必要性から、「生活の課題と実践」に関する指導事項を設定している。具体的には、「A家族・家庭と子どもの成長」の(3)のエ、「B食生活と自立」の(3)のウ及び「C衣生活・住生活と自立」の(3)のイについては、生徒の興味・関心等に応じて1又は2事項を選択して履修させることとしている。

そのねらい

「生活の課題と実践」については、家族・家庭や衣食住の学習に関心をもち、生活の課題を主体的に捉え、実践を通してその解決を目指すことにより、生活を工夫し創造する能力や実践的な態度を育てることをねらいとしている。

指導のポイント

指導に当たっては、各項目で学習した内容を基礎とし、生徒が興味・関心等に応じて家族・家庭や衣食住に関する課題を設定し、主体的に実習や調査などの学習活動に取り組めるようにする。また、計画、実践、評価、改善という一連の学習活動を重視し、問題解決的な学習を進めるようにする。実践については、家庭や地域社会との連携を図り、生徒を取り巻く環境に十分配慮し、効果的に行えるよう工夫する。さらに、計画及び実践後の評価、改善については、グループで検討したり、発表の機会を設けたりして実践の成果や課題が明確になるように配慮する。

「生活の課題と実践」についてのQ&A

Q1 履修する時期はいつでもよいのですか？

生徒の興味・関心等に応じて、課題を設定することが大切です。そして、学習した知識と技術などを活用し、主体的に実習や調査などの学習に取り組めるように配慮しましょう。

Aの内容を例に挙げて考えてみます。学習の途中で幼児の生活や特徴を知ることによって、「幼児に役立つ物を作ってみたい」という学習課題が成立したならば、そこで選択事項の学習を取り入れることも可能です。また、Aの内容の全ての学習が終わった後で、「幼児や地域との付き合い方についてもっと知りたい」という課題意識を抱かせ、幅広く実践内容を考えさせることも可能です。

体験や実践を含めるとすると、日々の授業の中だけでは実現しにくいと考えられますので、長期休業を利用した学習計画を組むとよいでしょう。また、全ての学習が終了して3年生で設定することも可能ですが、評価を考え適切な時期を選びたいものです。

Q 2 家庭での実践は、見届けることができないので評価に困ります。何を評価したらよいですか？

授業で身に付けた知識や技術を使って、生活における課題を解決していく学習です。従って、「生活の課題と実践」における評価の観点としては、それぞれの内容において、課題を主体的にとらえ、製作や調査などの計画と実践に取り組もうとしているかという「生活や技術への関心・意欲・態度」と、課題を見付けその解決を目指して製作や調査、活動などの計画を自分なりに工夫しているか、製作や調査、活動などの実践の成果と課題についてまとめたり、発表したりしているという「生活を工夫し創造する能力」について評価をします。

Q 3 どのような学習をすればよいですか？

問題解決的な学習を取り入れましょう。計画、実践、評価、改善の一連の学習活動を通して、生徒の主体的な学びを促進できるように配慮します。そのためには、授業を進めながら、生徒の課題意識を引き出すような教師の意図的な指導が大切です。

また、家庭科の言語活動の充実について、生活における課題を解決するために言葉や図表、概念などを用いて考えたり、説明したりするなどの学習活動の充実が挙げられています。この学習の終わりには、実践内容をまとめて伝える時間を作り、言語活動の充実を意識した授業を取り入れましょう。

4 効果的な学習指導となる題材の配列

家庭科，技術・家庭科（家庭分野）における「題材」とは…

目標の実現を目指して，各項目に示される指導内容を指導単位にまとめて組織したものである。

(1) 題材の設定に当たって

地域や学校及び児童・生徒の実態等を十分考慮するとともに，以下の観点に配慮して実践的・体験的な学習活動を中心とした題材を設定して指導計画を作成したい。

- ◇ 他教科等との関連や，中学校においては小学校における家庭科等の指導内容との関連を図り，教科のねらいを十分達成できるよう基礎的・基本的な内容を押さえたもの。
- ◇ 児童生徒の発達の段階に応じたもので，興味・関心を高めるとともに，児童生徒の主体的な学習活動や個性を生かすことができるもの。
- ◇ 児童生徒の日常生活とのかかわりや社会とのつながりを重視したもので，自己の生活の向上とともに家庭や地域社会における実践に結び付けることができるもの。

(2) ストーリー性のある題材の配列

ア ストーリー性のある題材の配列とは…

「ストーリー」とは，教科の目標を踏まえ，目指す子どもの姿に近付けるための目標や指導の道筋のことを指す。

ストーリー性のある題材の配列の効果としては，以下のような点を挙げるができる。

- (ア) ストーリーを考えることで，教師自身の指導の流れを明確にすることができる。
- (イ) 2学年間（3学年間）で育みたい児童生徒の姿が明確になり，常にその姿を意識して指導に当たることができる。
- (ウ) 児童生徒にストーリーを示すことにより，これからの学習の見通しを分かりやすく伝え，意欲的な学習につなげることができる。

イ ストーリー性のある題材計画作成の手順

- (ア) 教科の目標を踏まえ，児童生徒や学校，地域の実態に応じて，家庭科で育みたい児童生徒の姿を明確にする。
- (イ) 2学年間（3学年間）の学習を通してイメージした児童生徒の姿へと高めるため，2学年間（3学年間）の指導（目標）の大まかな流れ（ストーリー）を考える。
- (ウ) その流れに沿って，2学年間（3学年間）の題材を決める。流れを意識して，題材をつなげ，積み上げていく視点で決めていく。
- (エ) 題材の配当授業時数を確認し，調整を行う。その際，AからDの各内容に必要な授業時数を配当することが大切である。以下に示す授業時数を参考に，児童生徒や学校，地域の実態に応じて，適切な時数を配当したい。

【小学校家庭科の授業時数配当例】 ※ 数字は時数（例）

内容	A	B	C	D
授業時数	15	45	45	10

【中学校技術・家庭 家庭分野の授業時数配当例】

内容	A	B	C	D	課題と実践
授業時数	15～20	25～30	20～25	8～10	4～9

※「課題と実践」は「生活の課題と実践」のこと。

(3) 2学年間(3学年間)を見通した題材計画の作成の留意点

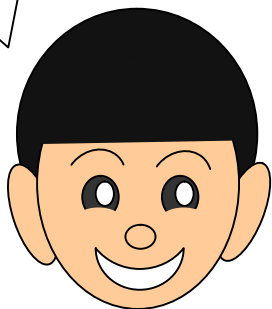
- (ア) 家庭科、技術・家庭科で育てたい児童生徒の姿は明確になっているか。
※ 基礎的・基本的な知識及び技能の明確化
- (イ) 2年間(3年間)の大まかな指導の流れ(ストーリー)を考え、題材を配列しているか。
段階的に題材を配列しているか。(平易なものから段階的に)
※ B(3)「調理の基礎」、C(3)「生活に役立つ物の製作」
- (ウ) 指導内容の関連を図って題材を構成しているか。
※ A(1)のAは、A～Dの内容と関連を図る。
Dは、A、B、Cの内容と関連を図る。
- (エ) 各題材に適切な時間を配分しているか。
指導すべき内容を確認しているか。
- (オ) 2学年間(3学年間)を見通した指導計画になっているか。
- (カ) 実践的・体験的な活動、問題解決的な学習の一層の重視(言語活動の充実)に配慮した指導計画になっているか。
- (キ) 指導と評価の一体化(評価計画の作成)を考慮しているか。
- (ク) 新しい内容を踏まえた題材を開発し、児童生徒が意欲的に学習に取り組みながら「生きる力」を身に付けていける効果的な指導計画となっているか。

これまで示してきたように、効果的な学習指導となるよう題材の配列を工夫しながら、児童生徒にとって魅力的な指導計画を作成していきたい。

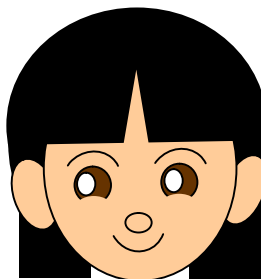
そして、年間標準授業時数が定められていることを考慮しながら、実践的・体験的な活動をより一層充実させるためにも、各題材に適切な時間を配分するように留意する。さらに、学校や児童生徒の実態を考慮し、教科のねらいを踏まえて、指導すべき内容に漏れがないかどうかを指導内容確認表を用いて確認していくことが求められる。

そこで、次に、題材計画の例と指導内容確認表によって指導すべき内容に漏れがないことを確認した例を示す。

家庭科を勉強していると、いろんなことができるようになるから、とっても役に立つよね。



うん、そうだね！
私も、家でみそ汁を作って、家族に食べてもらったとき、みんな「おいしい。」って言ってきて、本当にうれしかったな。



(4) 2学年間を見通した指導計画の例

小学校家庭【例①】

指導 時数	A	B	C	D	計
	13	41	49	12	計
	115				

・家族や家庭生活との関わりを重視し、家族の一員としてよりよい生活を工夫していこうとする実践的な態度を育てることを目指し、内容A(1)アを他の内容と関連させ、自分の成長を意識しながら学習に取り組めるようにしている。

時数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60
第5 学年	ストーリー	やってみよう自分ができること																		ふやそう自分でできること												家族のためにやってみる																												
	題材	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭科入門(ガイダンス) ・家の仕事に挑戦しよう 																		<ul style="list-style-type: none"> ・米飯とみそ汁を作ってみよう ・快適な生活を送ろう～衣服と住まい～ 												<ul style="list-style-type: none"> ・家族で使えるものをミシンで作ってみよう 																												
	CS項目	A(1)ア(2)アイ(3)ア B(3)アイオ C(2)ア(3)アイウ D(2)ア																		A(1)ア B(1)アイ(2)ア(3)アイウエオ C(2)アイ D(2)ア												A(1)ア(3)ア C(3)アイウ																												
	指導内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ガイダンス ・自分の成長の振り返りと2年間の見直しを持つ。 ○家の仕事に挑戦！ ・家の仕事について調べる。 ・春の野菜サラダをつくる。 ・ガスを使ってお湯を沸かし、お茶を入れる。 (※家族のために家で実践する。) ・身の回りの整理整頓を工夫する。 ・針と糸を使って小物づくりをする。 																		<ul style="list-style-type: none"> ○「夏休みの挑戦」発表会 ○食事の役割 ○米飯とみそ汁の調理 ・おいしい米飯の炊き方、みそ汁の作り方について調べる。 ・調理実習を行い、分かったことや感じたことをまとめたり、発表したりする。 ○暖かい住まい方の工夫または、涼しい住まい方の工夫 												<ul style="list-style-type: none"> ○「冬休みの仕事」発表会 ○生活に役立つ物を製作 ・布製品について調べる。 ・ミシンの使い方について知る。 ・製作計画を立てる。 ・製作する。 ・活用して評価をする。 																												
第6 学年	時数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55				
	ストーリー	もっとやってみよう もっとふやそう自分でできること																																	みんなのためにできるよ																									
	題材	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜料理と卵料理を作ろう ・1食分の献立を立てよう ・買い物名人Ⅰ 																		<ul style="list-style-type: none"> ・快適な衣服の手入れをしよう ・環境を考えた生活を送ろう ・買い物名人Ⅱ 												<ul style="list-style-type: none"> ・家族やお世話になった方々に贈る物を作ろう 																												
	CS項目	A(1)ア B(2)アイウ (3)アイウエオ D(1)アイ (2)ア																		A(1)ア C(1)アイ D(1)ア (2)ア												A(1)ア(3)イ C(3)アイウ																												
指導内容	<ul style="list-style-type: none"> ○野菜や卵を使った調理 ・野菜や卵をゆでたりいためたりして調理する。 ・環境に配慮した調理実習について考える。 ○1食分の献立 ・栄養バランスのよい献立を考え、調理実習を行なう。 ○夏休みの調理計画(買い物の仕方) ・買い物で気を付けることを話し合う。 																		<ul style="list-style-type: none"> ○「夏休みの挑戦」発表会 ○快適な衣服の手入れ ・手入れの必要性について実験をしたり話し合ったりする。 ・自分の課題にしたがって、手洗いをする。 ・ボタン付けをする。 ○環境に配慮した生活 ・自分の生活や家庭科の授業で行ってきたことを振り返る。 ○おこづかいの計画的な使い方 												<ul style="list-style-type: none"> ○お世話になった方への贈り物 ・自分ができるようになったことを振り返る。 ・地域の方との関わりについて振り返る。 ・できるようになったことを生かして、贈り物を作る計画を立て、実践する。 																													

※ CS項目の「CS」とは、「Course of Study」を意味する。

指導計画作成のための内容確認表【例①】

小学校

題材名		A 家庭生活と家族		B 日常の食事と調理の基礎						C 快適な衣服と住まい						D 身近な消費生活と環境		授業時数	指導上の留意点							
		(1)自分の成長と家族	(2)家庭生活と仕事	(3)家族や近隣の人々とのかかわり	(1)食事の役割		(2)栄養を考えた食事		(3)調理の基礎		(1)衣服の着用と手入れ		(2)快適な住まい方		(3)生活に役立つ物の製作		(1)物や金銭の使い方と買物			(2)環境に配慮した生活の工夫						
		ア	イ	ア	イ	ア	イ	ア	イ	ウ	エ	オ	ア	イ	ア	イ	ウ			ア	イ	ア				
5年	やってみよう 自分ができること	○ガイダンス	○																		1					
		○家の仕事に挑戦		○																			1			
		・家の仕事について調べる		○	○																		8			
		・春の野菜サラダづくり										○	○										2			
		・家族のためにお茶を入れよう				○																	2			
		・身の周りの整理整頓																				○	2			
	ふやそう 自分のできること	○「夏休みの挑戦」発表会	○																				2			
		○食事の役割					○	○	○														1			
		○おいしいごはんのみそ汁の調理							○			○	○	○	○								15			
		○住まい方の工夫																				○	2			
		・暖かい(涼しい)住まい方																				○	2			
		○「冬休みの挑戦」発表会	○																				2			
やってみよう 家族のために	○生活に役立つ物を製作																						1			
	・布製品を調べよう																						4			
	・家族で使えるものをつくろう				○																		4			
	・計画、製作、活用、評価まで																						9			
	○野菜や卵を使った調理																						1			
	○ゆでたり、いためたりして調理																						6			
6年	もつとやってみよう 自分のできること	・環境に配慮した調理																						1		
		○1食分の献立																							6	
		・栄養バランスの良い献立と調理																							1	
		○夏休みの調理計画	○																						11	
		・買い物の仕方と買い物の計画	○																						1	
		○「夏休みの挑戦」発表会	○																						2	
	みんのできるため	○快適な衣服の手入れ																							1	
		・手入れの必要性																							3	
		・手洗いしてみよう																							4	
		・ボタン付けしてみよう																							8	
		○環境に配慮した生活																							2	
		○おこづかいの計画的な使い方																							2	
○お世話になった方への贈り物	○																						1			
・できるようになったことを振り返る	○																						1			
・地域の方との関わりを振り返る																							1			
・これまでの学習を生かした贈り物づくり																							7			
○中学校の学習へ向けて	○																							1		
合計時間数																				115						

指導計画の特徴 ・家族や家庭生活との関わりを重視し、家族の一員としてよりよい生活を工夫していこうとする実践的な態度を育てることを目指し、内容A(1)アを他の内容と関連させ、自分の成長を意識しながら学習に取り組めるようにしている。

小学校家庭【例②】

指導 時数	A	B	C	D	計
	15	37	54	9	計
	115				

・家族や家庭生活との関わりを重視し、家族の一員として生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てることを目指し、内容Aを他の内容と関連を図りながら、繰り返し学習できるようにしている。

・調理や、布製品の製作については、平易なものから段階的に学習できるように、題材の配列に注意した。

第5 学年	時数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60
	ストーリー	身の回りの自分ができることを増やそう																																																											
	題材	・家庭科入門(ガイダンス) ・家庭の仕事に挑戦しよう															・家族で使える物をミシンで作ってみよう ・快適な住まい方、着方を考えよう！															・日本の味に挑戦！ ・家族と楽しく触れ合おう！																													
	CS項目	A(1)ア(2)ア B(3)アイウオ C(2)ア(3)アイウ															A(1)ア C(1)ア(2)イ(3)アイウ															A(1)ア(3)ア B(1)アイ(2)アイ(3)アイエオ D(1)イ																													
	指導内容	○ガイダンス ・自分の成長の振り返りと2年間の見通し ○私のできる仕事に挑戦！ ・ゆでる料理の計画と実践(ゆで卵を使った春の野菜サラダ)をする。 ・整理、整頓や掃除を実践する。 ・手縫いで布製品の製作(針と糸を使って小物づくり)をする。 ・「夏休みのチャレンジ」の計画を立てる。															○「夏休みのチャレンジ」実践報告会 ○ミシンに挑戦！ ・布製品について調べる。 ・ミシンの使い方について知る。 ・製作計画を立てる。 ・製作する。 ・活用して評価する。 ○快適な生活を送ろう！ ～暖かい住まい方や着方の工夫～ ・「冬休みのチャレンジ」の計画を立てる。															○「冬休みのチャレンジ」実践報告会 ○日本の味に挑戦！ ・米飯とみそ汁の調理をする。 ・食品の選び方、買い方を考える。 ○家族と触れ合おう！ ・家族との触れ合いや団らんを計画し、実践する。 ・6年生への課題を持つ。																													

第6 学年	時数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55
	ストーリー	より快適な生活を工夫しよう																																																						
	題材	・できる仕事のレベルアップに挑戦 ・生活時間の工夫 ・衣、食、住の仕事															・布を用いた物の製作 ・1食分の献立作成と調理															・これまでの学習の振り返り ・近隣の人々とのかかわり																								
	CS項目	A(2)アイ B(2)アイ (3)アイウオ C(1)アイ(2)イ															A(1)ア B(1)アイ(2)アイウ(3)アイウエオ C(3)アイウ D(1)イ(2)ア															A(1)ア(2)アイ(3)アイ D(1)ア																								
	指導内容	○私のできる仕事レベルアップに挑戦！ ・生活時間の有効な使い方を考える。 ・いためる調理の計画と実践(オリジナル野菜のために挑戦！)をする。 ・日常着の着方や手入れの仕方を考えて、実践する。 ・涼しい着方や住まい方の工夫を考える。 ・「夏休みのチャレンジ」の計画を立てる。															○「夏休みのチャレンジ」実践報告会 ○家族へのプレゼント！ ・家族のための布製品を製作し、活用について考える。 ○栄養満点の1食分の献立を考えよう！ ・1食分の献立作成と調理実習をする。 ・食事の役割、マナーについて話し合う。 ・「冬休みのチャレンジ」の計画を立てる。															○「冬休みのチャレンジ」実践報告会 ○物や金銭の使い方を考えよう ・金銭の大切さと計画的な使い方を考える。 ○成長を振り返ろう ・学習の振り返りをする。 ・近隣の人々との関わりを考える。 ・家庭生活の工夫を考える。 ○中学校技術・家庭科に向けて																								

※ CS項目の「CS」とは、「Course of Study」を意味する。

指導計画作成のための内容確認表【例②】

小学校

題材名	内容	A 家庭生活と家族			B 日常の食事と調理の基礎					C 快適な衣服と住まい			D 身近な消費生活と環境			授業時数	指導上の留意点												
		(1)自分の成長と家族	(2)家庭生活と仕事	(3)家族や近隣の人々とのかかわり	(1)食事の役割	(2)栄養を考えた食事		(3)調理の基礎			(1)衣服の着用と手入れ	(2)快適な住まい方	(3)生活に役立つ物の製作	(1)物や金銭の使い方と買物	(2)環境に配慮した生活の工夫														
		ア	ア	イ	ア	イ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	エ	オ	ア			イ	ア	イ	ア								
5年	身の回りの自分のことができることを増やそう	○家庭科の楽しさを知ろう	○																	2									
		○私のできる仕事に挑戦		○																	3								
		・ゆでる料理の計画と実践								○	○	○									7								
		・整理、整頓や掃除の実践																		○	5								
		・手縫いでの布製品の製作																		○	6								
		○夏休みのチャレンジ																											
		・夏休みの家庭実践の計画、報告会	○																			1							
		○ミシンに挑戦																											
		・布製品の製作																			○	12							
		○快適な生活を送ろう																											
		・暖かい住まい方や着方の工夫																			○	9							
		○冬休みのチャレンジ																											
		・冬休みの家庭実践の計画、報告会	○																				1						
		○日本の味に挑戦																											
		・ご飯とみそ汁の調理						○	○	○	○												10						
・食品の選び方、買い方																					○	2							
○家族と触れ合おう																													
・家族との触れ合いや団らん	○			○																		1							
・6年生への課題	○																					1							
6年	より快適な生活を工夫しよう	○私のできる仕事レベルアップに挑戦																											
		・生活時間の有効な使い方		○	○																				3				
		・いためる調理の計画と実践								○	○														7				
		・日常着の着方や手入れの仕方																			○	○				7			
		・涼しい着方や住まい方の工夫																				○				3			
		○夏休みのチャレンジ																											
		・夏休みの家庭実践の計画、報告会	○																							1			
		○家族へプレゼント																											
		・家族のための布製品の製作と活用																					○	○			12		
		○栄養満点1食分の献立を考えよう																											
		・1食分の献立作成と調理									○	○	○	○	○	○											12		
		・食事の役割、マナー						○	○																		1		
		○冬休みのチャレンジ																											
		・冬休みの家庭実践の計画、報告会	○																									1	
		○物や金銭の使い方を考えよう																											
・金銭の大切さと計画的な使い方																										5			
○成長した自分を振り返ろう																													
・学習の振り返り	○																										0.5		
・近隣の人々とのかかわり																											1		
・家庭生活の工夫		○	○	○																							1		
・中学校の技術・家庭科へ	○																										0.5		
合計時間数																											115		

指導計画の特徴

・家族や家庭生活との関わりを重視し、家族の一員として生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てることを目指し、内容Aを他の内容と関連を図りながら、繰り返し学習できるようにしている。
 ・調理や、布製品の製作については、平易なものから段階的に学習できるように、題材の配列に注意した。

(5) 3学年間を見通した指導計画の例

中学校 技術・家庭科【例】

指導 時 数	A	B	C	D	計
	24	30	23	8	88
	生活の課題と実践 3				

時数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35
第1学年	<p>ストーリー 快適な家庭生活を目指して自立していく私</p> <p>題材 家庭の中で成長し、自立していく私 まずは自分の食生活を見直そう！～自分の食事は自分の手で！～ 中学生だって立派な消費者！～賢い消費者になろう！～ 衣生活を見直そう！～私がつくる 私の衣生活～</p> <p>CS項目 A (1)ア (2)ア B (1)アイ (3)ア D (2)ア D (1)アイ (2)ア C (1)アイウ (3)ア</p> <p>指導内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス ・家庭科っておもしろい!! ・家族って何？ ・家と家庭生活 ・食事の役割 ・健康的な食生活 ・栄養素の種類と働き ・中学生の栄養の特徴 ・基礎的な日常食の調理 ・環境に配慮した調理 (ひとりエコチャーハン！) ・消費生活について振り返ろう ・販売方法と支払い方法の特徴を考えよう ・消費者トラブルを解決しよう (消費者クラブのみなさんとロールプレイング) ・買い物シュミレーションをしてみよう ・めざせ「グリーン・コンシューマー」 ・地域のエコエコ大作戦 ・衣服の働き ・目的に応じた着用や個性を生かす着方の工夫 ・私に似合う、私の着方 ・衣服の計画的な活用、選択 ・衣服材料と日常着の手入れ ・布を用いた生活を豊かにする物の製作 (手袋雑巾 & ブックカバー) 																																		
第2学年	<p>ストーリー 我が家の快適な生活を目指して自立していく私</p> <p>題材 食は人をつくる！ 我が家のよい食プロジェクト！～私は、我が家の食生活プロデューサー～ 生活の課題と実践 マイ・リポート 幼児の生活を考え、自分の成長を振り返ろう～幼児にとって よりよい大人を目指そう！～</p> <p>CS項目 B (2) アイウ (3)イ D (2)ア B(3)ウ C(3)イ A (1)ア (3) アイ</p> <p>指導内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常食の献立と食品の選び方 ・魚・肉・野菜を使った基礎的な日常食の調理 ～1日分の献立を考えよう！ 朝食から夕食まで～ ・食品の選択と購入 ・生鮮食品と加工食品 食品表示 食品添加物 (食品の食べ比べ実験) ・地域の食材を生かした調理、地域の食文化 ・地域の特産品で作るオリジナル給食メニュー ・よりよい食生活、衣生活をめざしてマイ・ライフ・リポート！ ・マイ・ライフ・リポート発表会 ・自分の成長と家族 ・幼児の発達と生活の特徴、家族・大人の役割 ・幼児の遊び、遊びの意義 (子どもに戻って遊んでみよう！) ・社会性の発達 (はじめてのおつかい ～3歳の栄華ちゃんにどんなふうに関わりますか？～) 																																		
第3学年	<p>ストーリー いよいよ義務教育終了！ 社会生活に向けて自立していく私</p> <p>題材 幼児の生活を考え、自分の成長を振り返ろう～幼児にとって よりよい大人になろう！～ 家族関係と間取り～よりよい住生活を目指して！～</p> <p>CS項目 A (2)イ (3)イウ C (2)ア イ A (2)イ</p> <p>指導内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児との触れ合い、関わり方の工夫 ・2歳のひろくんにどのように関わりますか？ (言葉の発達) ・幼児触れ合い体験 (地域の幼稚園児を招いて学校探検をして遊ぼう！) ・住居の機能 ・安全な室内環境の整え方 ・快適な住まい方の工夫 ・間取りから家族関係を考えよう！ 																																		

<指導計画作成のポイント>

- ・よりよい家庭生活のための実践的・体験的な学習活動を通して、生徒の生活の自立を目指した指導計画である。
- ・内容A・B・C・Dの時数を示してはあるが、AとD、AとC、BとDのように互いに関連を持ちながら、子どもたちの自立を目指して、日常生活の一連の流れの中でストーリー性のある指導となるようにしたい。
- ・2年時に設定した「生活の課題と実践」については、夏季又は冬季休業前に計画を立て、いずれかの休業日等を利用して取り組み、冬季休業明けに発表会を持つ計画である。

指導計画作成のための内容確認表【例】

中学校

題材名	内容	A 家庭生活と家族						B 食生活と自立						C 衣生活・住生活と自立						D 身近な消費生活と環境			授業時数	指導上の留意点					
		(1)自分の成長と家族		(2)家庭と家族関係		(3)幼児の生活と家族		(1)中学生の食生活と栄養		(2)日常食の献立と食品の選び方		(3)日常食の調理と地域の食文化		(1)衣服の選択と手入れ		(2)住居の機能とすまい方		(3)衣生活・住生活などの生活の工夫		(1)家庭生活と消費	(2)家庭生活と環境								
		ア	イ	ウ	エ	オ	カ	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	ア	イ	ウ							
1年	家庭の中で成長し自立していく私	ガイダンス(家庭科っておもしろい)	○																								1		
		家族って何?		○																								1	
		家族と家庭生活		○																								2	
	まずは自分の食生活を見直そう	食事の役割							○																			0.5	
		健康的な食生活							○																			0.5	
		栄養素の種類と働き								○																		2	
		中学生の栄養の特徴								○																		2	
		基礎的な日常食の調理												○														1	
		環境に配慮したエコチャーハン																							○			2	
	中学生だって立派な消費者	消費生活について振り返ろう																						○				1	
		販売方法と支払い方法の特徴を考えよう																							○			1	
		消費者トラブルを解決しよう																							○			2	
		買い物シミュレーションをしてみよう																							○	○		1	
		めざせ「グリーン・コンシューマー」																								○		1	
	衣生活を見直そう	地域のエコエコ大作戦																								○		2	
		衣服のはたらき																	○									1	
		目的に応じた着用や個性を生かす着方の工夫																	○									1	
		衣服の計画的な活用、選択																	○									1	
		衣服材料と日常着の手入れ																		○								4	
	食は人をつくる	布を用いた生活を豊かにする者の製作																							○			8	
日常食の献立と食品の選び方													○	○													14		
食品の選択と購入															○										○		4		
地域の食材を生かした調理、地域の食文化																○											4		
2年	生活の課題と実践																								○		3		
	自分の成長と家族	○																									1		
3年	幼児の生活を考え、自分の成長を振り返ろう					○																					6		
	幼児の発達と生活の特徴							○																			2		
	幼児の遊び								○																		1		
	社会性の発達									○																	4		
3年	幼児とのふれあい、関わり方の工夫																							○			4		
	幼児触れ合い体験																							○			2		
	これからの自分と家族																							○			4		
	住居の機能																								○		2		
	安全な室内環境の整え方																								○		1		
家族関係と間取り	快適な住まい方の工夫																								○		2		
	間取りから家族関係を考えよう																								○		3		
合計時間数																										88			

(6)2年間を見通した指導計画の枠

小学校家庭【枠】

指導 時 数	A	B	C	D	計
					計

時 数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	
第5 学 年	ストーリー																																																												
	題 材																																																												
	CS項目																																																												
	指導内容																																																												
	時 数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55					
第6 学 年	ストーリー																																																												
	題 材																																																												
	CS項目																																																												
	指導内容																																																												
	時 数																																																												

(7)3年間を見通した指導計画の枠

中学校 技術・家庭科【枠】

指導 時数	A	B	C	D	計

第1学年	時数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35
	ストーリー																																			
	題材																																			
	CS項目																																			
	指導内容																																			
第2学年	時数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35
	ストーリー																																			
	題材																																			
	CS項目																																			
	指導内容																																			
第3学年	時数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18																	
	ストーリー																																			
	題材																																			
	CS項目																																			
	指導内容																																			

<指導計画作成のポイント>

指導計画作成のための内容確認表【枠】

中学校

内容 題材名	A 家庭生活と家族							B 食生活と自立						C 衣生活・住生活と自立						D 身近な消費生活と環境			授業時数	指導上の留意点				
	(1)自分の成長と家族		(2)家庭と家族関係		(3)幼児の生活と家族			(1)中学生の食生活と栄養		(2)日常食の献立と食品の選び方		(3)日常食の調理と地域の食文化		(1)衣服の選択と手入れ		(2)住居の機能とすまい方		(3)衣生活・住生活などの生活の工夫		(1)家庭生活と消費		(2)家庭生活と環境						
	ア	イ	ア	イ	ウ	エ		ア	イ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ア	イ			ア	イ	ア	
1年																												
2年																												
3年																												
合計時間数																										0		

指導計画の特徴

5 家庭科、技術・家庭科で目指す子どもの姿と小・中・高の系統的な指導内容（小学校低・中学年は他教科や他領域との関わり）

	小学校低学年	小学校中学年	小学校高学年(家庭科)	中学校(技術・家庭科)	高等学校(家庭総合)
目指す子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> 家族や家庭生活に関心を持つ。 着替えや整理整頓など自分のことは自分でしようとする気持ちをもつ。 身近な家庭の仕事に興味を持って関わる。 	<ul style="list-style-type: none"> 家族や家庭生活に興味・関心を持つ。 進んで家庭の仕事に取り組みようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭生活への関心を高め、その大切さに気付いている。 日常生活に必要な知識と技能を身に付け、生活の中で活用している。 生活を工夫しようとする実践的態度が身に付いている。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活の自立に必要な衣食住などに関する基礎的な知識と技術を身に付けている。 子育てや心身の安らぎなどの家庭の機能を理解するとともに、これからの生活を展望し、課題を持って生活をよりよくしていこうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 男女が協力して家庭や地域の生活を創造する能力と実践的な態度が身に付いている。
A 家庭生活と家族(小) A 家族・家庭と子どもの成長(中)	<ul style="list-style-type: none"> 身近な家庭の仕事や、その仕事をしている家族に興味・関心を持つ。 ごっこ遊びなどを通して、家庭の仕事をする楽しさを味わう。 地域の行事などに参加することを通して、地域の人々と触れ合い、地域の中で活動する楽しさを味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭の仕事に興味を持ち、その仕事をする家族に感謝の気持ちを持つ。 自分にできる家庭の仕事に進んで取り組む。 地域の行事などに参加することを通して、地域の人々と触れ合い、地域と家庭生活との関わりを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> (1)自分の成長と家族 <ul style="list-style-type: none"> 自分の成長を自覚する。 家庭生活と家族の大切さに気付く。 (2)家庭生活と仕事 <ul style="list-style-type: none"> 生活を支える仕事に分かる。 自分の分担する仕事ができる。 生活時間の有効な使い方を工夫し、家族に協力する。 (3)家族や近隣の人々との関わり <ul style="list-style-type: none"> 家族との触れ合いや団らんを楽しむ工夫をする。 近隣の人々との関わりを考え、自分の家庭生活を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> (1)自分の成長と家族 <ul style="list-style-type: none"> 自分の成長と家族や家庭生活との関わりについて考える。 (2)家庭と家族関係 <ul style="list-style-type: none"> 家庭や家族の基本的な機能と家庭生活と地域との関わりについて理解する。 家族関係をよりよくする方法を考える。 (3)幼児の生活と家族 <ul style="list-style-type: none"> 幼児の発達と生活の特徴を知り、子どもが育つ環境としての家族の役割について理解する。 幼児と触れ合うなどの活動を通して、幼児への関心を深め、関わり方を工夫する。 家族関係又は幼児の生活について工夫し、計画を立てて実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> (1)人の一生と家族・家庭 <ul style="list-style-type: none"> ライフステージ、家庭の機能と家族関係、青年期の自立、生活設計 (2)子どもの発達と保育・福祉 <ul style="list-style-type: none"> 母体の健康管理と誕生、子どもの発達、親の役割 (3)高齢者の生活と福祉 <ul style="list-style-type: none"> 高齢者の心身の特徴と生活、高齢者の福祉、介護の基礎
B 日常の食事と調理の基礎(小) B 食生活と自立(中)	<ul style="list-style-type: none"> 食べ物の働きを知る。 食べ物の中には「栄養素」が入っていることを知る。 好き嫌いがなく食べ物を食べる理由が分かる。 給食の準備や後片付けが進んでできる。 食生活に関わる仕事に関心を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> 食べ物と自分たちの健康との関わりを知る。 赤・黄・緑の食べ物をバランスよく食べる理由が分かる。 給食の準備や後片付けがきちんとできる。 食生活に関する仕事に進んで関わる。 	<ul style="list-style-type: none"> (1)食事の役割 <ul style="list-style-type: none"> 食事の役割を知り、日常の食事の大切さに気付く。 楽しく食事をするための工夫をする。 (2)栄養を考えた食事 <ul style="list-style-type: none"> 体に必要な栄養素の種類と働きについて知る。 食品の栄養的特徴を知り、食品を組み合わせるとる必要が分かる。 1食分の献立を考える。 (3)調理の基礎 <ul style="list-style-type: none"> 材料の分量や手順を考えて、調理計画を立てる。 材料の洗い方、切り方、味の付け方、盛り付け、配膳及び後片付けが適切にできる。 米飯及びみそ汁の調理ができる。 用具、食器の安全で衛生的な取扱い及びこんろの安全な取扱いができる。 	<ul style="list-style-type: none"> (1)中学生の食生活と栄養 <ul style="list-style-type: none"> 自分の食生活に関心を持ち、生活の中で食事が果たす役割を理解し、健康に良い食習慣について考える。 栄養素の種類と働きを知り、中学生に必要な栄養の特徴について考える。 (2)日常食の献立と食品の選び方 <ul style="list-style-type: none"> 食品の栄養的特質や中学生の1日に必要な食品の種類と概量について知る。 中学生の1日分の献立を考える。 食品の品質を見分け、用途に応じて選択できる。 (3)日常食の調理と地域の食文化 <ul style="list-style-type: none"> 基礎的な日常食の調理ができる。 安全と衛生に留意し、食品や調理用具等の適切な管理ができる。 地域の食材を生かすなどの調理を通して、地域の食文化について理解する。 食生活に関心を持ち、課題を持って日常食又は地域の食材を生かした調理などの活動について工夫し、計画を立てて実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> (1)栄養、食品、調理などの科学的理解 (2)食生活の文化 (3)日常食の献立作成、調理 (4)健康や安全に配慮した食生活の管理
C 快適な衣服と住まい(小) C 衣生活・住生活と自立(中)	<ul style="list-style-type: none"> 自分で自分の衣服を脱いだり着たりできる。 自分の衣服を大切にする。 衣生活に関わる仕事に関心を持つ。 住まい方に関心を持つ。 自分の身の回りの整理整頓ができる。 住生活に関わる仕事に関心を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> 衣服の着用に関心を持ち、自分の衣服を着たり、手入れができたりする。 自分の衣服を大切にする。 衣生活の仕事に進んで関わる。 住まいの働きや、住まい方に関心を持つ。 身の回りの整理整頓に心掛け、安全で快適な住まい方を心掛ける。 住生活に関する仕事(清掃)に進んで関わる。 	<ul style="list-style-type: none"> (1)衣服の着用と手入れ <ul style="list-style-type: none"> 衣服の働きが分かる。 日常着の快適な着方を工夫できる。 日常着の手入れの必要が分かり、ボタン付けや洗濯ができる。 (2)快適な住まい方 <ul style="list-style-type: none"> 整理・整頓や清掃の仕方が分かり工夫できる。 季節の変化に合わせた生活の大切さが分かり、快適な住まい方を工夫する。 (3)生活に役立つ物の製作 <ul style="list-style-type: none"> 布を用いて製作する物を考え、形などを工夫して製作計画を立てる。 手縫いや、ミシンを用いた直線縫いにより目的に応じた縫い方を考えて製作する。 製作に必要な用具の安全な取扱いができる。 	<ul style="list-style-type: none"> (1)衣服の選択と手入れ <ul style="list-style-type: none"> 衣服と社会生活との関わりを理解し、目的に応じた着用や個性を生かす着用を工夫できる。 衣服の計画的な活用を必要を理解し、適切な選択ができる。 衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れができる。 (2)住居の機能と住まい方 <ul style="list-style-type: none"> 家族の住空間について考え、住居の基本的な機能について知る。 家族の安全を考えた室内環境の整え方を知り、快適な住まい方を工夫できる。 (3)衣生活、住生活などの生活の工夫 <ul style="list-style-type: none"> 布を用いた物の製作を通して、生活を豊かにするための工夫ができる。 衣服又は住まいに関心を持ち、課題を持って衣生活又は住生活について工夫し、計画を立てて実践できる。 	<ul style="list-style-type: none"> (1)被服材料の性能・取扱い上の特徴 (2)被服の構成と被服製作 (3)被服整理と衣生活の管理 <ul style="list-style-type: none"> 洗濯、仕上げ、保管、表示、健康・安全に配慮した被服の調達と活用、資源の有効利用 (1)住居の機能 (2)住空間の計画 (3)住環境の整備 <ul style="list-style-type: none"> 室内環境、家庭内事故防止、防災、地域社会との関連等 (4)住生活の文化
D 身近な消費生活と環境(小・中)	<ul style="list-style-type: none"> 金銭の使い方に関心を持つ。 身の回りの物や、金銭を大切に使う。 身近な自然や生活の環境に関心を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> 金銭の適切な使い方に関心を持つ。 身の回りの物や、金銭を大切に使うことができる。 身近な自然や生活環境に関心を持つ、よりよくする方法を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> (1)物や金銭の使い方と買物 <ul style="list-style-type: none"> 物や金銭の大切さに気付き、計画的な使い方を考える。 身近な物の選び方、買い方を考え、適切に購入できる。 (2)環境に配慮した生活 <ul style="list-style-type: none"> 自分の生活と身近な環境との関わりが気付き、物の使い方などを工夫できる。 	<ul style="list-style-type: none"> (1)家庭生活と消費 <ul style="list-style-type: none"> 自分や家族の消費生活に関心を持ち、消費者の基本的な権利と責任について理解する。 販売方法の特徴について知り、生活に必要な物資・サービスの適切な選択、購入及び活用ができる。 (2)家庭生活と環境 <ul style="list-style-type: none"> 自分や家族の消費生活が環境に与える影響について考え、環境に配慮した消費生活について工夫し、実践できる。 	<ul style="list-style-type: none"> (1)消費行動と意志決定 (2)家庭の経済生活 <ul style="list-style-type: none"> 家庭経済の仕組み、家計管理と経済計画 (3)消費者の権利と責任 <ul style="list-style-type: none"> 消費生活の現状・課題、消費者問題と消費者の保護、消費者の責任等 (4)消費行動と資源・環境

第4章 家庭科における安全指導について

子どもたちが楽しく、意欲的に実習に取り組み、家庭でも実践をしていくには、事故防止のための安全管理や安全指導が不可欠です。子どもたちの生活経験が少ないことから、様々な事故が起こることを想定し、具体的に繰り返し指導していく必要があります。

安全指導を徹底し、家庭科室の環境を整備するとともに、日常の生活の中で、安全に対する子どもたちの意識を高めていくことが大切です。

1 安全指導・安全管理上の留意点

(□ は、学習指導要領解説の記述。※は、主に教師がする安全管理。)

服装等

服装については、活動がしやすく安全性に配慮したものを準備して着用するように指導する。

- ・調理実習の服装は、清潔で、付いた汚れが分かりやすいエプロン等を身に付け、袖口をまくったり腕カバーを着けたりするなど作業に適したものにする。髪の毛が食品や調理器具などに触れないように三角巾を着ける。
- ・つめを短く切り、調理実習の前後には、手指を十分に洗う。

包丁

切ることは、調理操作の中でも頻度が高く、技術を要する部分であるので、特に注意を払って包丁を使う。初めのうちは、児童が扱いやすい野菜などを用いて、包丁の扱いに慣れさせるようにする。

※調理実習終了後は、包丁の本数を確認し、保管庫に入れるなど保管には十分留意する。

- ・相手に包丁の刃を向けて渡さない。
- ・調理台から包丁の柄がはみ出ていると、体に当たるなどして落下する危険があるので、包丁の置き場所、置き方には十分注意する。
- ・包丁を洗うときは、まな板などの上に置いて固定した状態で洗うとよい。スポンジを一方向に動かす。洗った後は、水気をよく拭き取る。
- ・まな板は、使用后、流し水を掛けながら洗い、十分乾燥させる。

こんろ・湯沸かし器・水道・電気

「こんろの安全な取扱い」については、学校で使用する調理用こんろの取扱いが分かり、換気に注意し、火傷の防止などに留意して安全な取扱いができるようにする。

※ガス栓の開閉の確認を行う。

※ガス漏れ警報器を取り付ける。

※水道の蛇口のパッキン不良やねじのゆるみによる漏水の有無を点検する。

※電気器具のプラグ、コード及びコンセントの不良を点検する。

※洗濯機、電子レンジ等アースの必要な電気機器は、必ずアース線を接地する。

※こんろや湯沸かし器を使うときは、換気を行う。点火・消火の確認をする。

- ・こんろの周囲に燃えやすい物を置いていないか確認する。
- ・こんろの使用前後にガス栓の開け閉めを確実に行う。
- ・加熱の仕方と関連させた火力の調節ができるようにする。

流し

※使用した後は、汚れを洗い流してから水気を拭き取るなど常に清潔にしておく。小さな生ごみを残すとカビの原因になるので、隅々まできれいにする。

※使用後のスポンジ類は、水気を切り、よく乾燥させる。

冷蔵庫

※温度管理をし、庫内を清潔に保つ。

※倒れないように固定する。

※調味料の賞味期限に注意をし、古くなったものは処分する。

食器棚・収納棚

※用具は、児童生徒が自由に使用できるものと、教師の指導の下で使用するものとを区別し、危険を伴うもの（刃物類など）は、施錠できる戸棚、保管庫等に保管する。

- ・収納場所は決めておき、使用後は必ず所定の場所に片付ける。
- ・食器類などの割れやすい物は、重ね過ぎない。
- ・食器類、調理用具などは、水気を拭き取り、乾燥させてから収納する。

机・椅子

※破損箇所がないか確認する。

- ・実習中は、作業しやすいスペースを確保するため、机上进行整理・整頓しておく。
- ・実習中は、椅子を作業の邪魔にならない所に片付ける。また、荷物を足元に置かないようにする。

床

- ・床が水でぬれると滑りやすいので、ぬれたらすぐ雑巾で拭くようにする。※雑巾を準備しておく。
- ・家庭科室内では、絶対に走らない。

アレルギー

※アレルギーを持つ児童生徒を把握し、食品の選択、試食などの配慮をする。

針・ミシン・アイロン・はさみ

製作に当たっては適切な用具を正しく使うことが作業を効果的に進める上で大切であることに気付くとともに、製作に必要な用具について知り、安全に十分留意しながら使用することができるようにする。

特に、針類、はさみ類、アイロン、ミシンなどの用具は、危険を伴うので、安全で適切な取扱い方を製作を通して身に付けるようにする。例えば、慎重な針の扱い、はさみの安全な使い方や手渡し方、火傷や電源に留意した機器の扱い、ミシンの移動や出し入れなどが考えられる。

※折れ針は、ふたが閉まる容器に入れ、廃棄する場合にも十分注意を払う。

※ミシンの点検を定期的に行う。

※裁ちばさみは、本数を確認し、保管箱に入れたりカバーを付けたりにして保管する。

- ・針刺しには、使う分の針を刺しておき、使用前後に必ず針の本数を確認する。
- ・針は、机に置かず、針刺しに刺す習慣を付ける。
- ・アイロンは、冷めてから収納場所に保管する。

その他

※調理に用いる材料は安全や衛生を考えて選択するようにする。児童が家庭から持参する場合は、実習の前に指導者が腐敗していないか匂いや色などを確かめたり、実習までの保管に十分留意したりする。

※調理実習で作った物は、原則的には学校で食べるようにする。万が一、持ち帰る場合は、衛生管理に十分気を付けさせる。

※生の魚や肉については、調理の基礎事項を学習しておらず、鮮度の保持や扱いが難しいので、小学校では扱わないようにする。卵を用いる場合には、新鮮であることを確認し、加熱調理をする。

※洗剤類の保管に十分留意し、誤用のないようにする。

※ふきんは、洗剤でよく洗い、直射日光に当てて乾燥させる。食器を拭くふきんと調理台などを拭く台ふきんを区別して使う。

- ・洗剤は、表示をよく見て使用する。
- ・手に化膿した傷がある場合は、ビニール手袋などを着用する。

2 事故防止

(1) 予想される事故及び発生の要因

- ア 火災・・・・・・・・・・ガスこんろの点火・消火，加熱の仕方，可燃物の置き方
- イ 一酸化炭素中毒・・・・不完全燃焼，換気不足
- ウ 火傷・感電・・・・熱湯の扱い，加熱したフライパンや鍋に触る，アイロンの扱い，プラグの扱い，用具の不備
- エ 食中毒・・・・・・・・・・食品の取扱い，不十分な手洗い
- オ 切り傷・刺し傷・・・・刃物類の取扱い，ミシン・針の扱い

【静岡県内の小学校のけがの報告より】

- ・友人が使っていたアイロンが肘に当たり、火傷をした。
- ・アイロンが机の端に置いてあったため、バランスが崩れて滑り、右腕に当たった。
- ・フライパンに触り火傷をした。
- ・キャベツを包丁で切っていたところ、左手指を切った。
- ・りんごの芯を包丁で切り取ろうとした際、勢い余って左手の親指と人差し指の間を切った。
- ・包丁を洗っているとき、刃を指で触ってしまい、右手人差し指を深く切った。
- ・包丁をふきんで拭こうとしたとき、誤って指を切った。
- ・ミシンに糸を通そうとしていたとき、ミシンが動き出し、針が人差し指を貫通した。
- ・ミシン作業中、後ろを通った児童がぶつかり、左手指の付け根にミシン針が刺さった。
- ・ミシンを動かし、針の動きに合わせて、指を出し入れして遊んでいたが、タイミングがずれ、ミシン針が指先に刺さった。

(2) 事故防止について

- ア 安全管理の徹底
 - ・定期的に家庭科室の安全点検を行う。
 - ・前述の「安全管理上の留意点」を参考に細かいところに配慮して安全管理を行う。

イ 計画的な安全指導の実施

- ・年間指導計画に安全に関する項目を位置付ける。
- ・道具・用具等の正しい使い方の指導や実習・作業等の手順・方法の指導を行う。
- ・予想される危険な場面を考える学習を行う。
- ・事故の事例を紹介するなど、児童生徒が危険に対する意識を持って活動に取り組めるようにする。

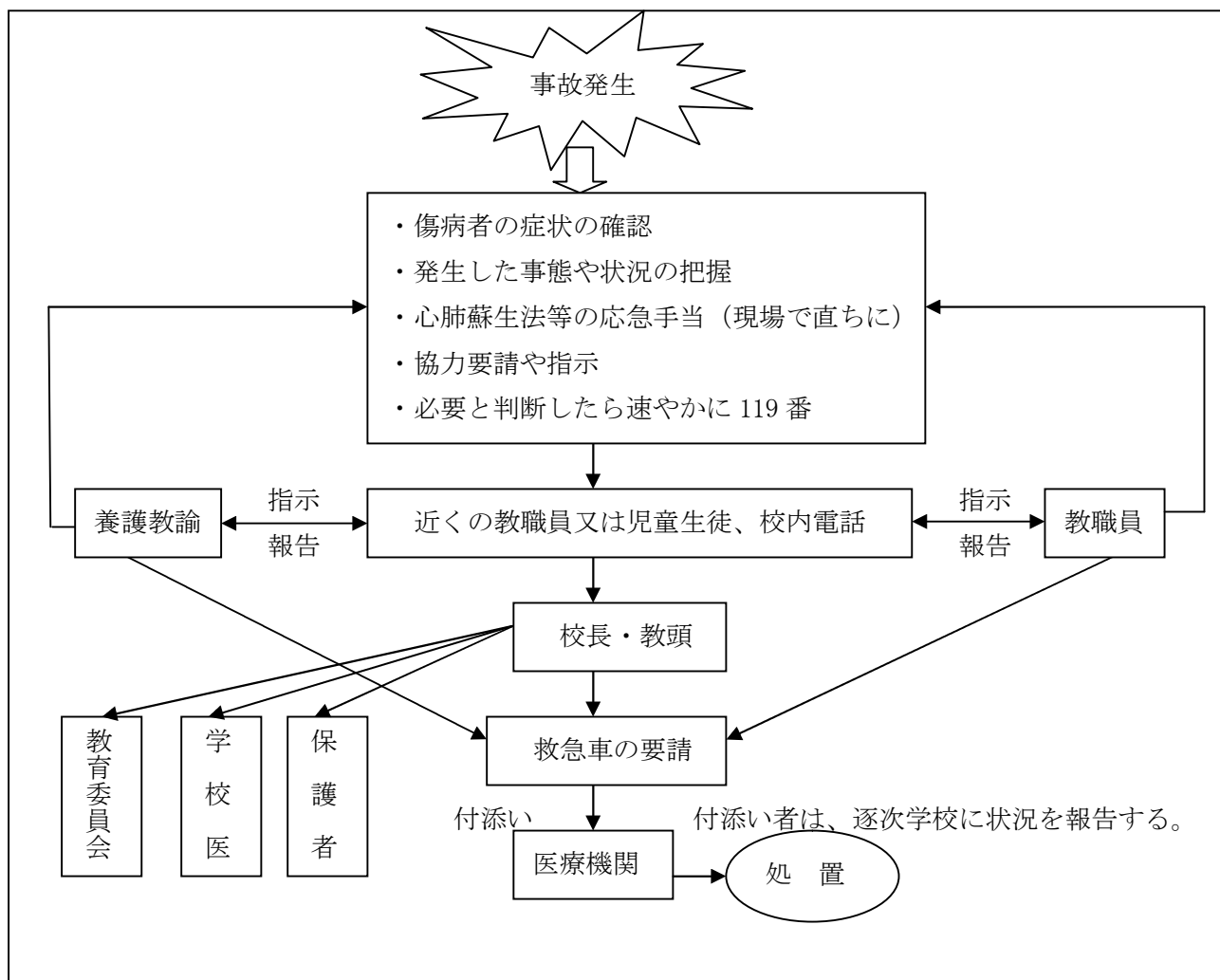
ウ 学習の約束事の徹底

- ・安全指導を約束事として掲示物等にまとめ、注意を喚起する。

エ 危険な行為の禁止

- ・実習中、ふざけたり危険な行為をしたりすることを見逃さず、指導する。
- ・指導上配慮を要する児童生徒への対応を、個に応じてきめ細かに行う。

3 緊急事態発生時の対処及び救急体制の一例



事故が発生した場合は、速やかに適切な応急処置を行い、状況に応じて医療機関へ搬送する。さらに、事故の記録を残し、事故の原因を追究することで再発防止に努めることが重要である。

4 安全指導

(1) 調理実習

身じたく



- ・清潔で、付いた汚れが分かりやすいエプロンを着用する。
- ・袖口をまくったり腕カバーを付けたりする。
- ・髪の毛などが食品や調理用具などに触れないように三角巾などを着ける。
- ・つめは、短く切る。
- ・手を十分に洗う。

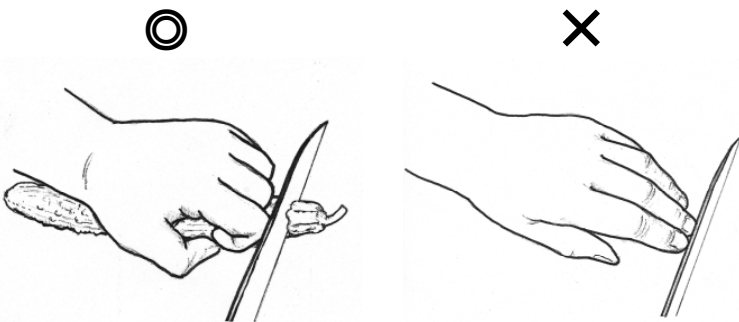
包丁の扱い

◆持ち方

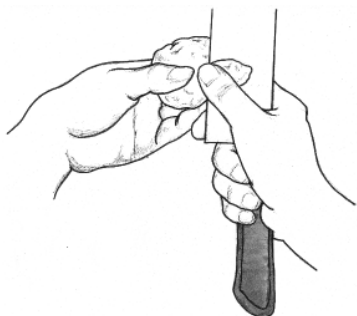


- ・どちらの持ち方でも、しっかり柄を握る。

◆切り方・皮のむき方



- ・指先を丸めて、包丁に添わせる。



- ・皮むきも慎重に。包丁に添えている親指で力の調整をする。
- ・親指がハの字になるようにするとよい。

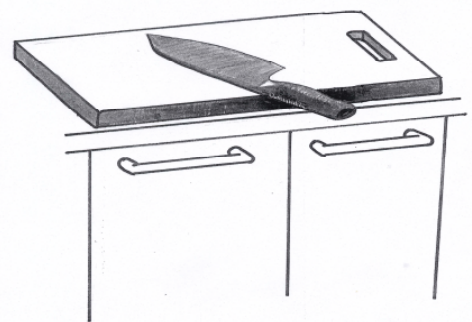
◆運び方



- ・持ち運ぶときは、ふきんで包んだり、ケースに入れたりするとよい。
- ・渡すときは、刃先を人に向けない。
- ・台に置いて渡す。

◆置き方

×



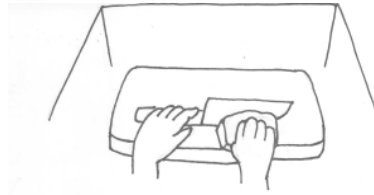
- ・不安定な場所に置かない。包丁の柄が調理台からはみ出さないように置く。
- ・刃を向こう側にしてまな板の上に置く。

◆食材の置き方



- ・食材を安定させて切る。
- ・安全で効率のよい切り方を考える。

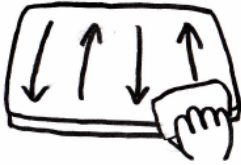
◆包丁の洗い方



- ・包丁を洗うときや拭くときにも手を切りやすいので、十分注意する。
- ・洗うときは、まな板の上へのせ、固定して洗うとよい。

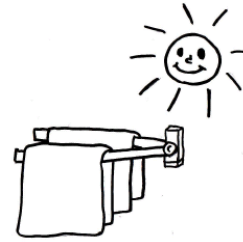
まな板・ふきん

◆まな板の洗い方



- ・包丁の刃が当たる方向に汚れや菌が入るので、矢印の方向に洗うとよい。

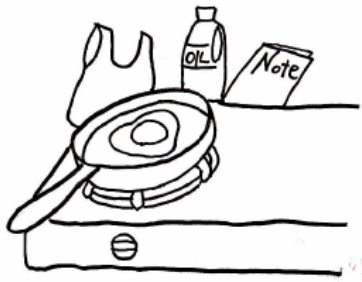
◆ふきん



- ・ふきんは洗剤でよく洗い、直射日光に当てて乾燥させる。
- ・食器を拭くふきんと台を拭く台ふきんを区別して清潔に使う。

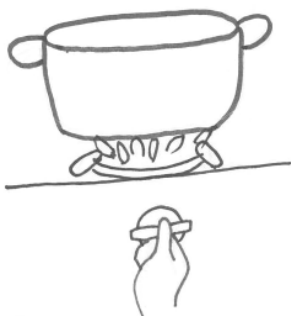
こんろの扱い

◆準備



- ・周りにノートやふきんなど燃えやすい物を置かない。
- ・鍋の底がぬれていないか確認する。

◆点火・消火



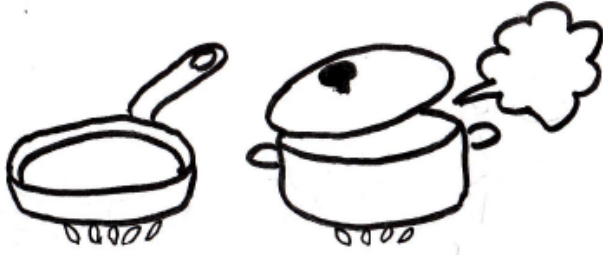
- ・点火・消火の確認は、目で見てきちんとする。
- ・火力の調節をする。
- ・火を点けたまま、こんろのそばを離れない。

◆換気



- ・こんろや湯沸かし器を使うときは、必ず換気をする。

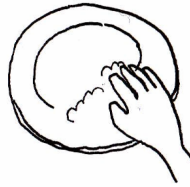
◆加熱



- ・加熱するとフライパンや鍋が熱くなるので、火傷に注意する。
- ・湯気での火傷にも十分注意する。

後片付け

◆洗い物

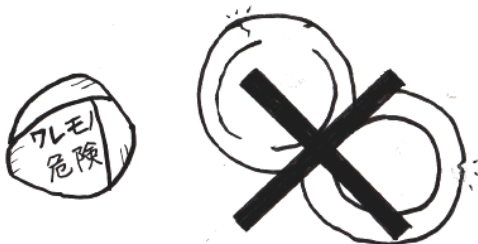


◆拭きそうじ

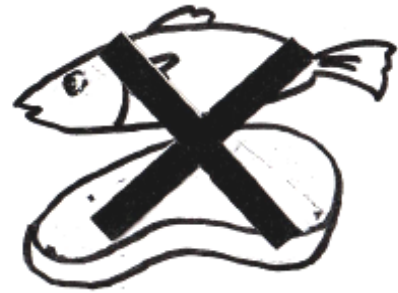


- ・コンロは、温かいうちに拭くとよい。

◆割れ物の始末



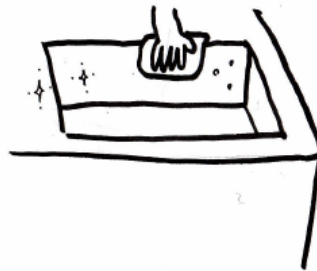
- ・割れた食器類は、紙などに包み、「割れ物」の表示をしてごみに出す。
- ・欠けたりひびが入っていたりする食器を使うのは、危険なので、割れ物として処分する。



- ・小学校の調理実習では、生肉生魚は扱わない。
- ・卵は、新鮮なものを用い、加熱調理をする。

- ・食器類の汚れは、余り布や古紙で拭き取ってから洗う。
- ・洗剤を使い過ぎないようにし、泡が残らないように、丁寧に洗い流す。
- ・食器や鍋などの裏側もしっかり洗う。

◆流し

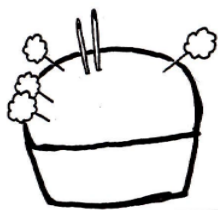


- ・ごみや油などを排水溝に流さない。
- ・使用後は、汚れを洗い流し、水気をしっかり拭き取る。
- ・スポンジもきれいに洗い水気を切っておく。

(2) 製作実習・衣生活

針の扱い

◆針刺し



- ・針は、必ず針刺しにさす。机の上には、絶対に置かない。
- ・使用前後に針の本数を確認する。

◆折れ針



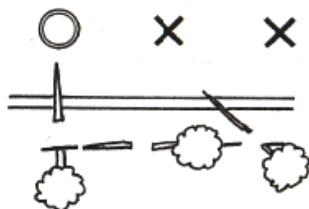
- ・折れた針は、ふたのある入れ物に入れる。

◆縫い方

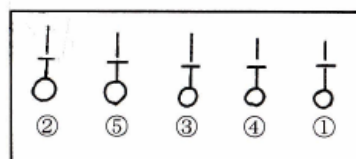


- ・縫い糸の長さは、糸を引いたとき、隣の人に当たらないように、30～50cm くらいにする。
- ・糸を引くときは、針先を横や上に向けなくて、自分の方に向ける。
- ・針は、自分や相手を傷付ける危険のある物なので、慎重に扱う。

◆待ち針の打ち方



- ・印と直角になるように待ち針を刺す。
- ・布は、5ミリくらいすくうとずれない。
- ・待ち針を打つ順番は、両端→真ん中



はさみの扱い

◆布の裁ち方



- ・布を裁つときは、はさみの下側を机に付けて裁つ。

◆使用上の注意



- ・裁ちばさみで、布以外の物を切らない。切れ味が悪くなる。
- ・持ち運びに注意し、手渡すときは、刃先を相手に向けないようにする。
- ・刃先を人に向けたり、使用しているときにふざけたりしない。

アイロンの扱い

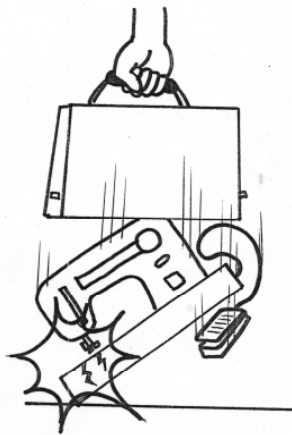
◆使用上の注意

- ・アイロンは、平らなところに立てて、スイッチを入れる。
- ・アイロンは、不安定で危険なので机の端に置かない。
- ・布の種類に合わせて、温度を調節する。
- ・熱くなるので火傷に注意する。
- ・アイロンのそばを離れるときは、電源を切る。
- ・スチームアイロンを使うときは、スチームでの火傷に気を付ける。



ミシンの扱い

◆準備・片付け



- ・ミシンを持ち運ぶときは、ミシンの下を持つ。
- ・置く場所は、机の端にしない。また、体から離れ過ぎた所に置かない。
- ・作業時に手元が明るいか、ミシンのコードに足が引っかからないかなどを確認する。手元が暗い場合は、ライトを点ける。
- ・針を付けたり外したりするときは、電源を切る。

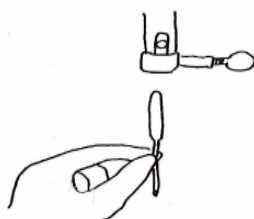
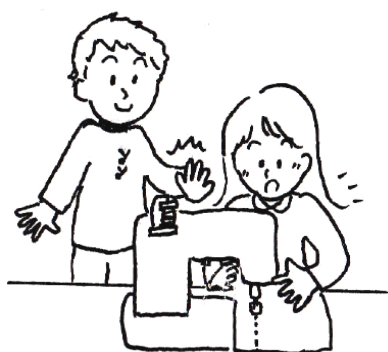
◆縫うときの注意

- ・針棒の正面に座る。
- ・必ず一人で操作する。
- ・縫っているときは、針から目を離さない。
- ・コントローラーを急に強く踏まない。
- ・針で指を刺さないようにする。



ミシンに関するけがで一番多いのは、指に針を刺してしまうことです。針の下に指を置かないようにすれば、刺してしまうことはありません。手を置く位置に注意をしましょう。

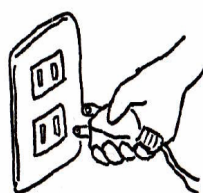
◆針の交換



- ・ミシン針を交換するときは、必ず電源を切ってから作業をする。
- ・針の平らな面を針棒の溝のピンに当たるまで差し込み、しっかりねじをしめる。

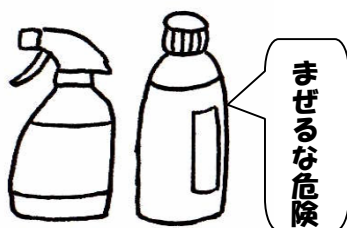
- ・ミシンをかけている人の体やマシンに絶対に触らない。

◆プラグ



- ・プラグは、しっかり持って差し込んだり、抜いたりする。
- ・全ての電化製品は、必ず電源を切っていることを確認してから、プラグを差し込んだり、抜いたりする。

住居用洗剤



- ・住居用洗剤は、使い方をよく見て使用する。
- ・洗剤を混ぜて使ってはいけない。

調理室の整頓



写真を貼って、どのように整頓をすればよいか、具体的に示している。

巻末資料

<静岡県の食について>

中学校B (3) イ 地域の食材を生かすなどの調理を通して、地域の食文化について理解すること。

豊かな自然に恵まれた静岡県は、様々な食材の宝庫です。図1では、県内の家庭科の先生方の協力により、その地域の特色ある料理や食べ物を紹介しています。下田のさんま寿司のように、古くから家庭で作られている郷土料理、富士宮焼きそば、三島コロッケに代表されるB級グルメ、さらには、島田汁のように最近、開発された地元の野菜を使った料理などもあります。

<例>

染飯 (藤枝市)

くちなしで色を付けたおこわ。その昔、東海道を旅する人に、足腰の疲れを取る食べ物として評判がよかった。

まご茶 (熱海市)

“まごまごしないで食べる”からその名がきている新鮮な刺身を使ったお茶漬け。

げんなり寿司 (東伊豆町)

金目鯛のおぼろなどを使った祝い寿司。そのボリュームで「げんなり」してしまうことから名付けられたとも言われる。

地域の食文化については、主として地域又は季節の食材を用いることの意義について扱うことになっています。指導に当たっては、地域との連携を図り、調理実習を中心として行うよう配慮します。例えば、地域又は季節の食材について調べ、それらを用いた日常食の調理をすることが考えられます。また、地域の実態に応じて、地域の伝統的な行事食や郷土料理などを扱うことも考えられます。

「食生活の課題と実践」でも、(3)のイの事項との関連を図り、地域の食材を生かした献立を工夫し、調理の計画を立てて実践したり、郷土料理や行事食の計画を立てて実践したりすることなどが考えられます。

図2は、静岡県の食材マップです。食材マップを見ると、静岡県でとれる食材の豊かさを改めて感じます。家庭科の授業で扱う場合は、特産品に限らず、地域でとれた物のよさを理解することが大切です。ここでは、農産物、水産物の全国順位を紹介します。

(「平成22年度静岡県の農林水産業」より 発行元：社団法人 静岡県農業振興基金協会)

静岡県の主な農産物産出額の全国順位

茶 (生葉+荒茶) 全国1位

わさび 全国1位

セルリー 全国2位

チンゲンサイ 全国2位

みかん 全国3位

メロン 全国4位

いちご 全国5位

ガーベラ 全国1位

ばら 全国2位



静岡県の主な水産物生産額の全国順位

かつお 全国1位

かつおなまり節 全国1位

まあじ (養殖) 全国1位

しらす 全国1位

あじ干物 全国1位

さくらえび 全国1位

にじます (養殖) 全国1位

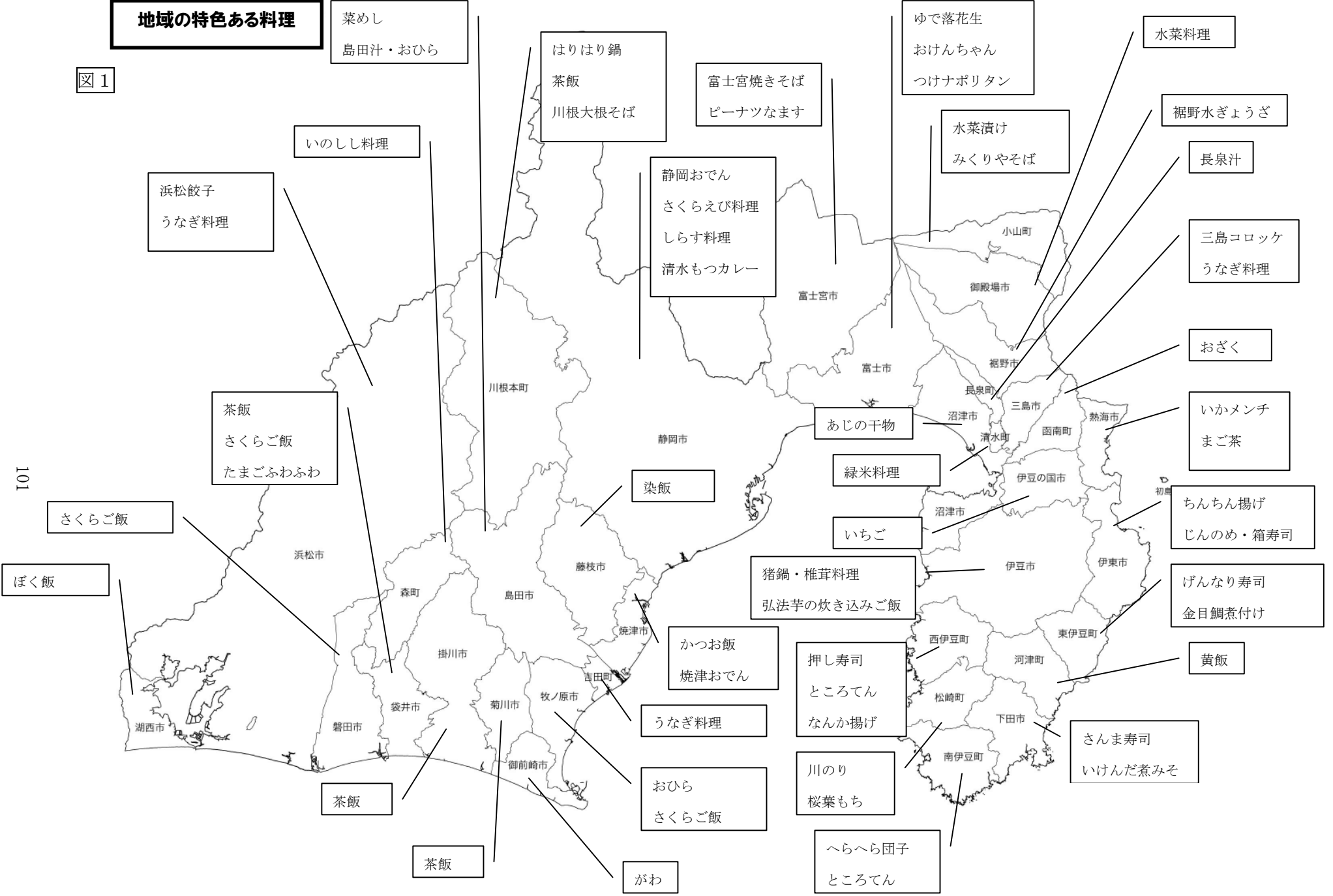
かつおけずり節 全国2位

うなぎ 全国4位



地域の特色ある料理

図 1



<高等学校学習指導要領抜粋>

第2節 教科の目標

人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会とのかかわりについて理解させるとともに、生活に必要な知識と技術を習得させ、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する能力と実践的な態度を育てる。

今回の改訂においては、「生きる力」の理念を具現化させるために、消費者教育や環境教育、食育の推進、少子高齢化等への対応を重視し、家族や生活の営みを人の一生とのかかわりの中で総合的にとらえ、生活を主体的に営む能力と実践的な態度を育てること、男女が協力して家庭や地域の生活を創造する能力を育てることなどを目指して、共通教科としての家庭科の目標を示した。

共通教科としての家庭科では、人々が互いにかかわり合いながら共に生きる社会の一員としての自覚の下で、男女が協力して家庭生活を築いていく意識と責任をもたせ、生活に必要な知識と技術を身に付けて、主体的に家庭や地域の生活を創造する能力と実践的な態度を育てることを目標としている。

すなわち、家族・家庭についての理解、共に生きる生活観の育成、家庭生活の様々な事象の原理・原則についての科学的理解、理解したことを実際の生活の場で活用するための技術の習得、生活を総合的に認識し、適切に判断する意思決定能力、課題を解決する問題解決能力など、生涯を見通して主体的に生きる力を育成し、家庭や地域の生活を創造できるようにすることを目指している。

「人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的にとらえ」とは、人間が生まれてから死ぬまでの間、身体的、精神的に変化し続け、各ライフステージの課題を達成しつつ発達するという生涯発達の考えに立ち、乳幼児期、児童期、青年期、壮年期、高齢期など、人の一生という時間の経過の中で、生活の営みに必要な金銭、生活時間、人間関係などの生活資源や、衣食住、保育、消費などの生活活動にかかわる事柄を、相互に関連させて理解することを示している。

家庭や地域の生活は、個人、家族、社会及び環境との相互関係によって成り立っており、多面的、総合的であるといえる。社会の変化に対応しつつ主体的に生活を営む力を身に付けるためには、生活上の知識や技術を断片的に習得させるだけでなく、生活資源や生活活動などを生涯の生活設計やキャリアプランニングなどに関連付けて取り扱うことが重要である。このような取扱いをすることによって、生徒自身が現在及び将来の生活を自立的に営み、男女が協力して家庭を築いていくという実践的な態度を育てることができる。

「**家族・家庭の意義、家族・家庭と社会とのかかわりについて理解させる**」とは、生命をはぐくんだり生活をしたる基盤としての家族・家庭の意義を理解させるとともに、家族・家庭が社会とのかかわりの中で機能していることについて理解させることを示している。

家庭の機能、家族構成や家族規模、ライフスタイルなどが大きく変化する中でも、特に、生命をはぐくみ生活能力や生活文化を伝える環境として、情緒面の充足と安定をもたらす人格の形成を図る、家族・家庭の意義を認識させるようにする。その上で、家庭生活は家族自身の主体性により営まれてはじめてその機能を発揮することを認識させ、互いに協力して生活を創造しようとする意欲

へとつなげることが重要である。また、婚姻、夫婦、親子、福祉、消費などに関する法律や制度によって社会の秩序が保たれ、個人が保護されていることを認識し、家族・家庭と社会とのかかわりについて理解させるようにする。

このように、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会とのかかわりについて理解させることにより、性別や世代を超えて、男女が家族や社会の中で平等な関係を築き、共に生きる社会の一員として役割と責任を果たし、家庭や地域の生活を主体的に創造していくことが重要であることを認識させることを重視している。

「生活を必要な知識と技術を習得させ」とは、生活を営むために必要な、衣食住、家族、保育、消費、環境などに関する知識と技術を実践的・体験的な学習を通して習得させることを示している。

家庭科においては、衣食住生活、消費生活など生活の自立を図ることや生活の充実向上を目指した問題解決能力を育成することをねらいとしている。高等学校段階では、小学校、中学校における学習の上に立ち、生活にかかわる経済的な視点や生活文化の伝承と創造の視点を踏まえて、持続可能な社会の構築に向けて、科学的な根拠に基づいた実践力を身に付けることが重要である。すなわち、家庭科のねらいは、理解させるだけでなく、健康や環境に配慮した生活の実践力の育成と持続可能な社会を目指す上で必要なライフスタイルを確立できるようにすることであり、学習方法としては、生活の中で活用する視点を明確にした実践的・体験的な学習を中心としている。

「男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する能力と実践的な態度を育てる」とは、男女共同参画社会の推進を踏まえて、これまで示した家族・家庭の意義、家族・家庭と社会とのかかわりについて理解させるとともに、生活に必要な知識と技術の習得を通して、共に支え合う社会の一員として主体的に行動する意志決定能力を身に付け、男女が協力して家庭を築いていくことを認識させ、家庭や地域の生活を創造する能力と実践的な態度を育てることを示している。実践的な態度とは、学習で得たものを実際の生活に活用する態度であり、生活の各場面課題を見だし、その解決を図りながら、家庭生活や地域の生活の充実向上を果たす態度である。このように家庭科では、知識・技術の習得のみではなく、意志決定や問題解決をも含めた能力の育成を目指している。

以上のように、高等学校家庭科では、自己及び家族の発達と生活の営みに必要な知識と技術を、小学校家庭科、中学校技術・家庭科の上に積み重ねて習得させ、生活をよりよくするために主体的に実践できる能力と態度を育成することを目指している。小学校では家族の一員としての視点、中学校では自己の生活の自立を図る視点が重視されているが、高等学校では、社会とのかかわりの中で営まれる家庭生活や地域の生活への関心を高め、生涯を見通して生活を創造する主体としての視点が重要となる。持続可能な社会の構築を目指し、グローバルな視点に立って生活の現状を見つめ、なぜそうするのか、どうしたらよいかという課題意識をもつとともに、実践的・体験的な学習を通して衣食住、家族、保育、消費、環境など家庭生活の様々な事象の原理・原則を科学的に理解することと、及び、それらにかかわる知識と技術を実際の生活上の意志決定や問題解決に生かし、男女が協力して、家庭や地域の生活を主体的に創造する能力の育成を図ることをねらいとしている。

第3節 教科の科目構成

共通教科として家庭科の科目編成は以下のとおりである。

平成 21 年告示		平成 11 年告示	
科目名	標準単位数	科目名	標準単位数
家庭基礎	2 単位	家庭基礎	2 単位
家庭総合	4 単位	家庭総合	4 単位
生活デザイン	4 単位	生活技術	4 単位

共通教科としての家庭科においては、「家庭基礎」（2 単位）、「家庭総合」（4 単位）及び「生活デザイン」（4 単位）の 3 科目を設け、生徒の多様な能力・適性、興味・関心等に応じて必修科目として 1 科目を選択的に履修させる。

「家庭基礎」は、標準単位数が 2 単位の科目である。従前の「家庭基礎」から、人の一生を見通しながら自立して生活する能力と異なる世代とかかわり共に生きる力を育てることを重視して改善を図った。特に、家族・家庭及び福祉、衣食住、消費にかかわる基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、生涯を見通して生活を設計する力を身に付けさせるようにした。

「家庭総合」は、標準単位数が 4 単位の科目である。従前の「家庭総合」に比べ、家庭や生活の営みを人の一生とのかかわりの中で総合的にとらえることを重視している。また、生涯を見通し生活を設計し創造する力、様々な人とつながり共に生きる力、生涯を通して健康で文化的な生活をつくり営む実践力、生活課題を見つけ自ら解決する力など、この科目で身に付けさせる能力を明確にするよう大項目(1)から(6)を構成し、その内容を示している。

「生活デザイン」は標準単位数が 4 単位の科目である。実験・実習等の体験学習を重視し、衣食住の生活文化に関心をもたせるとともに、生涯を通して健康や環境に配慮した生活を主体的に営むことができるように内容を構成した。この科目は、従前の「生活技術」を改編したものであるが、生活を改善し、豊かな生活を設計するという意味でデザインという言葉を使用している。デザインとは、設計する、企画する、目標をもつ、志すという意味があり、人がよりよい価値に向かって行動するために計画し、考えるという積極的な意味を含んでいる。すなわち、「生活デザイン」においては、生活の価値や質を高め、豊かな生活を楽しみ味わいつくる上で必要な実践力を育成することを重視している。また、一部の項目については、生徒の興味・関心等に応じて適宜選択して履修できるようにした。

また、各学校においては、学校で特定の科目に決めてしまうのではなく、複数の科目を開設して生徒が選択できるようにすることが望まれる。

Q 今、高校では、どんな家庭科の授業が行われているのですか。
そして新学習指導要領によって、家庭科はどう変わるのでしょうか。

A 「自分の過去・現在・未来を考える」「食糧自給率を上げよう」「環境に優しい住宅とは何か」

これらは、高校の家庭科で扱われているテーマの一例です。

家庭科の実習授業においては、調理実習や被服実習に加えて、保育所・幼稚園・福祉施設等で保育や福祉の体験実習に取り組んでいる学校も多くあります。

高校の家庭科では、空間軸で言えば、身近な環境と地球レベルの世界とのつながり、時間軸で言えば、ゆりかごから墓場までを学びます。つまり高校生は家庭科の学習を通して、自分と自分を取り巻く生活を見つめ直し、よりよい生き方を選び取る力が身に付くようになるのです。

そして、キャリア教育にも家庭科は大きく関わっています。調理を学んだことでパティシエを志したり、住居を学んだことでインテリアデザイナーを志したり、といった進路選択に結び付いた例もあります。

また、新学習指導要領総則においても、新たに「食育」の重要性が強調されたことから、これまで以上に家庭科の担う役割が重くなってきます。

「持続可能な社会」や「リスク管理」も、新学習指導要領における家庭科のキーワードです。いずれも、現代を生きる高校生には不可欠な内容です。



【巻末資料】

【参考】 魅力ある授業のためのデジタルコンテンツ （静岡県総合教育センターの下記のアドレスを入力してクリック ▶）

校種・内容(項目)	指 導 例	ホームページアドレス
小 B (2)	つくっておいしく食べよう栄養バランスのよい献立	http://kaihatsu.shizuoka-c.ed.jp/H20kaihatsu/shougakkou20/ichiran.html
小 B (3)	野菜の切り方	http://kaihatsu.shizuoka-c.ed.jp/2006/chuugaku/katei/web/kateika.htm
小 C (1)	ボタン付け	http://kaihatsu.shizuoka-c.ed.jp/2006/chuugaku/katei/web/kateika.htm
小 C (3)	本返し縫い, 半返し縫い	http://kaihatsu.shizuoka-c.ed.jp/2006/chuugaku/katei/web/kateika.htm
小 C (3)	針と糸を使ってみよう(本返し縫い, 半返し縫い)	http://kaihatsu.shizuoka-c.ed.jp/H20kaihatsu/shougakkou20/ichiran.html
中 B (3)	野菜の切り方	http://kaihatsu.shizuoka-c.ed.jp/2006/chuugaku/katei/web/kateika.htm
中 B (3)	りんごのかざり切り	http://kaihatsu.shizuoka-c.ed.jp/H20kaihatsu/H20_chuugaku/22_B/index_B.html
中 B (3)	いわしのかば焼きの調理方法	http://kaihatsu.shizuoka-c.ed.jp/2006/chuugaku/katei/web/kateika.htm
中 B (3)	シチューの調理方法	http://kaihatsu.shizuoka-c.ed.jp/2006/chuugaku/katei/web/kateika.htm
中 B (3)	ハンバーグの調理方法	http://kaihatsu.shizuoka-c.ed.jp/2006/chuugaku/katei/web/kateika.htm
中 C (1)	ほころび直しの方法	http://kaihatsu.shizuoka-c.ed.jp/2006/chuugaku/katei/web/kateika.htm
中 C (1)	ボタン, スナップ付け	http://kaihatsu.shizuoka-c.ed.jp/2006/chuugaku/katei/web/kateika.htm
中 C (1)	日常着の手入れ(まつり縫い)	http://kaihatsu.shizuoka-c.ed.jp/H20kaihatsu/H20_chuugaku/22_B/index_B.html
中 D (1)	商品の選択と購入	http://kaihatsu.shizuoka-c.ed.jp/H20kaihatsu/H20_chuugaku/22_B/index_B.html

【文部科学省 ホームページ】新学習指導要領・生きる力 言語活動の充実に関する指導事例集

【小学校版】事例1(5年) 実習レポートを基に話し合い, 言葉を実感を伴って理解させる事例	http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/gengo/1300870.htm
【小学校版】事例2(6年) 学習カードや発表方法を工夫し, 課題解決を図る事例	http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/gengo/1300870.htm
【中学校版】事例3(2年) 実習等の結果を整理し考察した実習レポートを作成し, 発表し合う事例	http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/gengo/1300870.htm
【中学校版】事例4(1年) 献立表などを用いて発表し合い, 食生活の課題解決を図る事例	http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/gengo/1300870.htm

授業づくり規準（家庭科）

P（構想）

※この授業づくり規準家庭科は、中学校技術・家庭科(家庭分野)を含みます。

力 要素	学習指導力 (授業における姿勢や指導方法等、 各教科等共通の授業づくりの力)	教科指導力 (家庭科の内容に関わる授業づくりの力)
児童生徒の実態把握	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の発達段階を踏まえた上で、生活体験や学習経験は児童生徒によって異なることを意識している。 学習の方法や理解の仕方は児童生徒によって異なることを意識している。 児童生徒の性格や学習に対する意欲等を把握している。 学習集団の特質や、個と集団の関わりを把握している。 個々の児童生徒に対して、指導上配慮すべき事項を把握している。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭科に関する児童生徒の既習事項の習得状況等、学習内容の理解度を把握している。 家庭科に関する児童生徒の興味・関心、意欲等を把握している。 衣食住などに関する児童生徒の生活経験や生育環境等を把握している。
教科内容に関する知識・技能		<ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領、教科書記述の内容分析を通して、教科内容の系統性や小中、中高の連携や他教科等とのつながりを意識した指導内容を把握している。 教材や題材の本質を理解している。 衣食住等の教科内容に関わる知識や技能、探究するための態度・技能を持っている。
目標の設定	<ul style="list-style-type: none"> 学習は、児童生徒自身の主体的・探究的な活動によって成立することを理解している。 学校の教育目標や課題を踏まえ、育てたい力を捉えている。 学習を通して児童生徒の自信を深め、自己肯定感を高めるという意識を持っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領の目標及び題材の指導目標を明確に把握し、観点別評価規準の評価観点に照らして捉えている。 各授業の指導目標を家庭科における題材の指導目標に明確に関連付けている。
題材計画 (授業計画)	<p>(学習指導案の作成)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習指導案の重要性や、目標、内容、方法等の指導案の形式の意図を理解し、指導計画を表現している。 <p>(評価計画)</p> <ul style="list-style-type: none"> 具体的な到達目標とそのための適切な評価方法を選択・計画している。 自己評価、他者評価等、児童生徒が学習を改善するための手だてを考えている。 	<p>(題材計画の作成)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領技術・家庭科の目標及び家庭科の指導目標を達成でき、児童生徒が知識を体系的に獲得できる題材計画を作成している。 児童生徒の実態に合わせて、題材を選定したり、指導内容に重みを付けたり、配列を工夫したりするなど、ストーリー性のある題材計画を作成している。 2年間(3年間)を見通して、バランスのとれた題材計画を作成している。 <p>(評価計画)</p> <ul style="list-style-type: none"> 指導目標に照らした評価計画を作成している。
授業の構成	<p>(学習方法・形態の選択・組織)</p> <ul style="list-style-type: none"> 目標を達成するために、児童生徒の実態を踏まえた適切な学習方法や学習形態を考えている。 新たな知識・技能・学び方等を発見したり、習得したりする喜びを実感できる授業を行うために、学習方法を改良・開発している。 主体的な探究活動や問題解決を考慮して授業を組み立てている。 児童生徒が学習内容や学習の過程を振り返るための手だてを考えている。 	<p>(学習内容の構成)</p> <ul style="list-style-type: none"> 題材の指導内容及び題材全体の構造を深く理解した上で、学習内容を構成している。 題材の指導内容が教科の体系の中でどのような位置付けにあるのかを把握し、見通しを持って学習内容を構成している。 「言語活動の充実」「食育」「道徳の時間などとの関連」「倫理観」を意識して、学習内容を構成している。 実習、実験、調査、観察等、それぞれの特徴を生かした学習活動を設定している。 学習した知識及び技術を生活に活用できるよ

授業の構成		<p>うに、問題解決的な学習を取り入れている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・題材との関わり、人やものとの関わりを大切に授業構成をしている。 (教材・題材の選択・構成・開発) ・学習指導要領の目標及び題材の指導目標を達成するのに適しており、また、地域、学校、児童生徒の実態に合わせた題材を構成し、配列している。 ・指導教材を、自分自身で改良・開発している。 (板書等の計画) ・本時のねらいに即し、授業展開を予測した板書を計画している。 ・本時のねらいを達成するための有効な働き掛けや個への支援を計画している。
-------	--	---

D (展開)

要素	力 学習指導力 (授業における姿勢や指導方法等、各教科等共通の授業づくりの力)	家庭科における指導力 (家庭科の内容に関わる授業づくりの力)
学習環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・学習環境が、児童生徒の安全や認知にどのような効果を与えるかを意識している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭科の目標や学習内容に応じて、児童生徒の行動や認知を推測し、学習環境を創造している。 (安全指導) ・児童生徒の安全を最優先とし、用具等については日常から安全管理等を行っている。
学習への構えや学び方の指導	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒がどのような姿勢で学習に臨めばよいかを明確に示し、児童生徒に意識させている。 ・学習過程や自分の考えをまとめているようなノートづくりを指導している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭科の学び方を示し、児童生徒に意識させている。 ・家庭科の学習に関わる考え方やまとめ方、資料活用、必要な技能等の定着を図っている。
個や集団への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・個への対応に具体的な配慮をしている。 ・集団における学習の大切さや、個の発言の集団への影響を意識している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・提示物の作成や師範、ICTの活用など、視覚的な面からも分かりやすさ、学びやすさを追究している。 ・児童生徒の生活経験や習熟度に応じ、適切な場面で支援をしている。
音声・表情・所作等	<ul style="list-style-type: none"> ・話し方や表情・所作と児童生徒の反応との関連を意識している。 ・場面や目的、環境等に応じて、声の大きさ、話の速さ・緩急・強弱等の話し方や表情を工夫している。 	
指導技術	<ul style="list-style-type: none"> (言葉遣い) ・児童生徒の発達段階に応じた適切な言葉遣いをしている。 (説明) ・分かりやすい言葉で、端的に説明している。 (指示) ・目的を意識させながら、どんな行動をすべきかを明確に示している。 (発問) ・児童生徒が何を問われているか理解できる発問をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> (言語) ・用語・記号を含め、家庭科での指導に適切な言語、図表等を使用している。 (説明) ・児童生徒のつまづきやすい点を推測し、理解や納得が得られるように説明している。 ・安全面に配慮し、また、児童生徒のプライバシーにも十分に配慮した言葉で説明をしている。 (指示) ・ねらいや学習内容を踏まえ、必要とする場面で指示をしている。

指導技術	<p>(板書)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見やすさを考慮し、視覚的に構造化するなど、工夫しながら丁寧に板書している。 ・児童生徒の様子を観察しながら、板書している。 <p>(演技・表現)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習場面や教材の特性に応じて、適切であると考え演技をしている。 ・待つ時間や「授業のやまば」等を意識して授業を展開している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・聞かせる場面と作業の場面等、きちんと切り替えを行っている。 <p>(発問)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ねらいを達成するために、児童生徒の思考を促したり、焦点化したりする発問をしている。 <p>(板書)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ねらいや学習内容を踏まえ、児童生徒の思考活動との関係に応じた技術を身に付け、板書している。 <p>(演示)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭科での指導に必要な技術を身に付け、児童生徒に示すことができる。 <p>(教材・教具の活用、資料提示)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒にとって、どのような教材・教具・資料がよいかを考え、活用している。 <p>(ICTを含む)</p>
学習活動における即時的対応	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の発言や行動を適切に受け止め、達成感、満足感を感じさせている。 ・学習内容に適した評価法を用意し、実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の発言や行動の意図を読み取り、家庭科の内容や学習方法に照らして、理由を付けて認め、適切な支援をしている。 ・児童生徒の様子と授業目標との関係を捉え、指導過程を修正することができる。

C・A (評価・改善)

力 要素	学習指導力 (授業における姿勢や指導方法等、各教科等共通の授業づくりの力)	教科指導力 (家庭科の内容に関わる授業づくりの力)
授業の振り返りと分析	<ul style="list-style-type: none"> ・「指導と評価の一体化」を意識している。 ・授業によって、児童生徒がいかに変容したかについて、絶えず関心を持っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭科の指導目標に照らして、授業や題材を振り返り、目標の達成の可否の原因を明らかにしようとしている。
改善に向けた手だて	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導の方法の効果について、意識的・具体的に捉え、指導方法の改善に結び付けようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科指導について振り返り、児童生徒の姿から改善点を具体的にし、授業改善に生かしている。